岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第648集

伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書

2016

岩手県県南広域振興局土木部一関土木センター
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 648 集

伽羅之御所跡（きゃらのごしょあと）第22・23次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

２０１６

岩手県県南広域振興局土木部一関土木センター
（公財）岩手県文化振興事業団

2016第648集表紙.indd 1 16.2.25 8:52:46 AM

伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

2016中表紙-目次第648集.indd 1 16.1.21 1:15:47 PM

2016中表紙-目次第648集.indd 2 16.1.21 1:15:47 PM

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に関連して、平成25年度に発掘調査された伽羅之御所跡第22次調査と平成26年度に発掘調査された伽羅之御所跡第23次調査の成果をまとめたものです。今回の調査により、伽羅之御所跡が堀跡によって囲まれていたこと、隣接する無量光院跡とは一体的に整備されていた可能性が高いことが明かになりました。これは極めて重要な発見といえます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました県南広域振興局土木部、平泉町教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成28年３月

公益財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　　菅　野　洋　樹

2016中表紙-目次第648集.indd 3　16.1.21 1:15:47 PM

例　　言

1．本報告書は岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽地内他に所在する伽羅之御所跡第22・23次調査の発掘調査成果を収録したものである。

2．上記２次の調査は、一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と県南広域振興局土木部一関土木センターとの協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3．岩手県遺跡台帳に登録される各遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。

　伽羅之御所跡第22次調査：遺跡番号ＮＥ76－1029、遺跡略号　ＫＧ－13－22

　伽羅之御所跡第23次調査：遺跡番号ＮＥ76－1029、遺跡略号　ＫＧ－14－23

4．発掘調査の期間、調査面積、担当者は次のとおりである。

　伽羅之御所跡第22次調査　平成25年4月10日～6月5日、280㎡、

　杉沢昭太郎・白戸このみ・佐藤奈津季

　伽羅之御所跡第23次調査　平成26年5月16日～10月31日　2,240㎡

　杉沢昭太郎・白戸このみ

5．室内整理の期間・担当者は次のとおりである。夏場あり

　伽羅之御所跡第22次調査　平成25年7月1日～平成25年7月23日、

　　平成25年12月1日～平成26年3月31日

　　整理担当：杉沢昭太郎

　伽羅之御所跡第23次調査　平成26年12月1日～平成27年3月31日、

　　整理担当：杉沢昭太郎

6．野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。

　基準点測量：　株式会社一測設計　　空中写真撮影：東邦航空株式会社

7．遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。

　年代測定：㈱加速器分析研究所

8．発掘・整理・報告にあたっては次の方々に御指導・ご協力いただいた（順不同・敬称略）。

　県南広域振興局土木部一関土木センター、平泉町教育委員会、岩手県教育委員会、岩手大学

9．本報告書の執筆は、Ⅰ章の調査に至る経過は、県南広域振興局土木部に原稿を依頼した。Ⅱ～Ⅴ・Ⅶ章は杉沢が執筆し、白戸が図化した。報告書の編集・校正は杉沢が行った。

10．本遺跡の調査成果は、先に、『現地公開資料』（平成25・26年）、『平成25年度発掘調査報告書』（岩文振第630集）『平成26年度発掘調査報告書』（岩文振第647集）に発表しているが、本書の内容が優先するものである。

11．本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

2016中表紙-目次第648集.indd　4　　16.1.21　1:15:47 PM

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過…… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境
1　遺 跡 の 位 置…… 2
2　地 形 、 地 質…… 3
3　歴史的環境 と周辺の遺跡 …… 4

Ⅲ　調査・整理の方法 …… 6

Ⅳ　伽羅之御所跡第 22 次調査
1　概　　要…… 12
2　基　本　層　序…… 12
3　検出遺構（堀跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柵列跡、柱穴）…… 12
4　出土遺物（概要、かわらけ、陶磁器、瓦、その他）…… 14

Ⅴ　伽羅之御所跡第 23 次調査
1　概　　要…… 35
2　基　本　層　序…… 35
3　検出遺構（堀跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、
溝跡、塀跡、その他の遺構、柱穴）…… 35
4　出土遺物（概要、かわらけ、陶磁器、その他）…… 38

Ⅵ　自 然 科 学 分 析…… 53

Ⅶ　総括（調査のまとめ）…… 56
報 告 書 抄 録…… 97

表　目　次

第 1 表　周辺遺跡一覧表 …… 5
第 2 表　堀跡・溝跡・柵列跡観察表 …… 25
第 3 表　土坑類観察表 …… 25
第 4 表　柱穴観察表 …… 25
第 5 表　かわらけ観察表 …… 27
第 6 表　陶磁器観察表 …… 28
第 7 表　石器類観察表 …… 28
第 8 表　堀跡・溝跡・塀跡観察表 …… 38
第 9 表　井戸跡・土坑観察表 …… 49
第 10 表　柱穴観察表 …… 49
第 11 表　かわらけ観察表 …… 50
第 12 表　陶磁器観察表 …… 51
第 13 表　羽口観察表 …… 52
第 14 表　木製品観察表 …… 52

2016中表紙-目次第648集.indd 5　16.1.21 1:15:47 PM

第 15 表　金属製品観察表 …… 52
第 16 表　銭貨観察表 …… 52
第 17 表　石器類観察表 …… 52

図　版　目　次

第 1 図　岩手県図 …… 1
第 2 図　平泉町の位置 …… 1
第 3 図　遺跡位置図 …… 2
第 4 図　遺跡周辺の地形地質分類図 …… 3
第 5 図　周辺の遺跡分布図 …… 4
第 6 図　遺跡地形図と調査区 …… 9
第 7 図　遺構配置図１ …… 10
第 8 図　遺構配置図２ …… 11
第 9 図　平泉略式図 …… 12
第 10 図　基本土層 …… 12
第 11 図　堀跡 …… 15
第 12 図　掘立柱建物跡 …… 16
第 13 図　土坑 …… 17
第 14 図　柵列跡 …… 18
第 15 図　溝跡１ …… 19
第 16 図　溝跡２ …… 20
第 17 図　出土遺物１ …… 21
第 18 図　出土遺物２ …… 22
第 19 図　出土遺物３ …… 23
第 20 図　出土遺物４ …… 24
第 21 図　遺構配置図① …… 29
第 22 図　遺構配置図② …… 30
第 23 図　遺構配置図③ …… 31
第 24 図　遺構配置図④ …… 32
第 25 図　遺構配置図⑤ …… 33
第 26 図　遺構配置図⑥ …… 34
第 27 図　基本土層 …… 35
第 28 図　堀跡・井戸跡① …… 39
第 29 図　土坑① …… 40
第 30 図　土坑② …… 41
第 31 図　溝跡① …… 42
第 32 図　溝跡② …… 43
第 33 図　井戸跡②、その他の遺構 …… 44
第 34 図　出土遺物① …… 45
第 35 図　出土遺物② …… 46
第 36 図　出土遺物③ …… 47
第 37 図　出土遺物④ …… 48
第 38 図　推定される堀跡の方向 …… 56
第 39 図　伽羅御所跡と無量光院跡 …… 57
第 40 図　平泉地形図 …… 58

写真図版目次

写真図版 1　平泉（写真上が北） …… 59
写真図版 2　平泉遠景、遺跡近景 …… 60
写真図版 3　１号堀跡検出・断面 …… 61
写真図版 4　１号堀跡平面 …… 62
写真図版 5　掘立柱建物跡、土坑 …… 63
写真図版 6　土坑、柵列跡 …… 64
写真図版 7　溝跡 …… 65
写真図版 8　溝跡、柵列跡 …… 66
写真図版 9　柵列跡 …… 67
写真図版 10　調査区全景 …… 68
写真図版 11　出土遺物、現地公開他 …… 69
写真図版 12　出土遺物１ …… 70
写真図版 13　出土遺物２ …… 71
写真図版 14　出土遺物３ …… 72
写真図版 15　出土遺物４、調査区現況ほか …… 73
写真図版 16　調査区１、２号堀跡 …… 74
写真図版 17　２号堀跡、調査区２ …… 75
写真図版 18　調査区２・３ …… 76
写真図版 19　調査区４～８ …… 77
写真図版 20　調査区９・10 ほか …… 78
写真図版 21　調査区 11 ～ 13 ほか …… 79
写真図版 22　調査区 14 ～ 17 …… 80
写真図版 23　調査区 18　２号堀跡 …… 81
写真図版 24　調査区 19・20 ほか …… 82
写真図版 25　調査区 20・21 ほか …… 83
写真図版 26　調査区 22 ～ 24 ほか …… 84
写真図版 27　調査区 24、２号堀跡 …… 85
写真図版 28　調査区 24・25 …… 86
写真図版 29　調査区 25・26、粘土採掘跡 …… 87
写真図版 30　調査区 26、土坑類ほか …… 88
写真図版 31　調査区 26、粘土採掘跡 …… 89
写真図版 32　調査区 27・28 …… 90
写真図版 33　調査区 29 ～ 31 …… 91
写真図版 34　調査区 32・33 …… 92
写真図版 35　出土遺物① …… 93
写真図版 36　出土遺物② …… 94
写真図版 37　出土遺物③ …… 95
写真図版 38　出土遺物④ …… 96

2016中表紙-目次第648集.indd 6　16.1.21 1:15:47 PM

Ⅰ　調査に至る経過

伽羅之御所跡第22・23次調査は、一般県道平泉停車場中尊寺線の電線地中化事業に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本路線は平泉駅と中尊寺を結ぶ平泉町内の主要な観光路線であり、本路線上には世界遺産として登録されている無量光院跡を初め多数の遺跡がある。このため、世界遺産にふさわしい景観に配慮した歩車共存道路として整備することを目的として電線地中化事業に着手したものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、県南広域振興局土木部一関土木センターから平成22年12月16日付け一土セ号外「埋蔵文化財に関する協議について」により岩手県教育委員会に対して埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。

協議を受けた岩手県教育委員会は工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成23年1月20日付け教生第1266号「埋蔵文化財に関する協議について（回答）」により回答してきた。

その結果を踏まえて当センターは、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成24年6月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、伽羅之御所跡第22・23次調査発掘調査を実施することとなった。

なお、当該事業区域内の埋蔵文化財については、伽羅之御所跡第22・23次調査の調査を行うことになり、平成25年4月1日付で同事業団と契約を締結し、発掘調査を実施した。

岩手県県南広域振興局土木部一関土木センター

第１図　岩手県図

第２図　平泉町の位置

2016本文１-第648集.indd　1　　16.1.21　1:17:33 PM

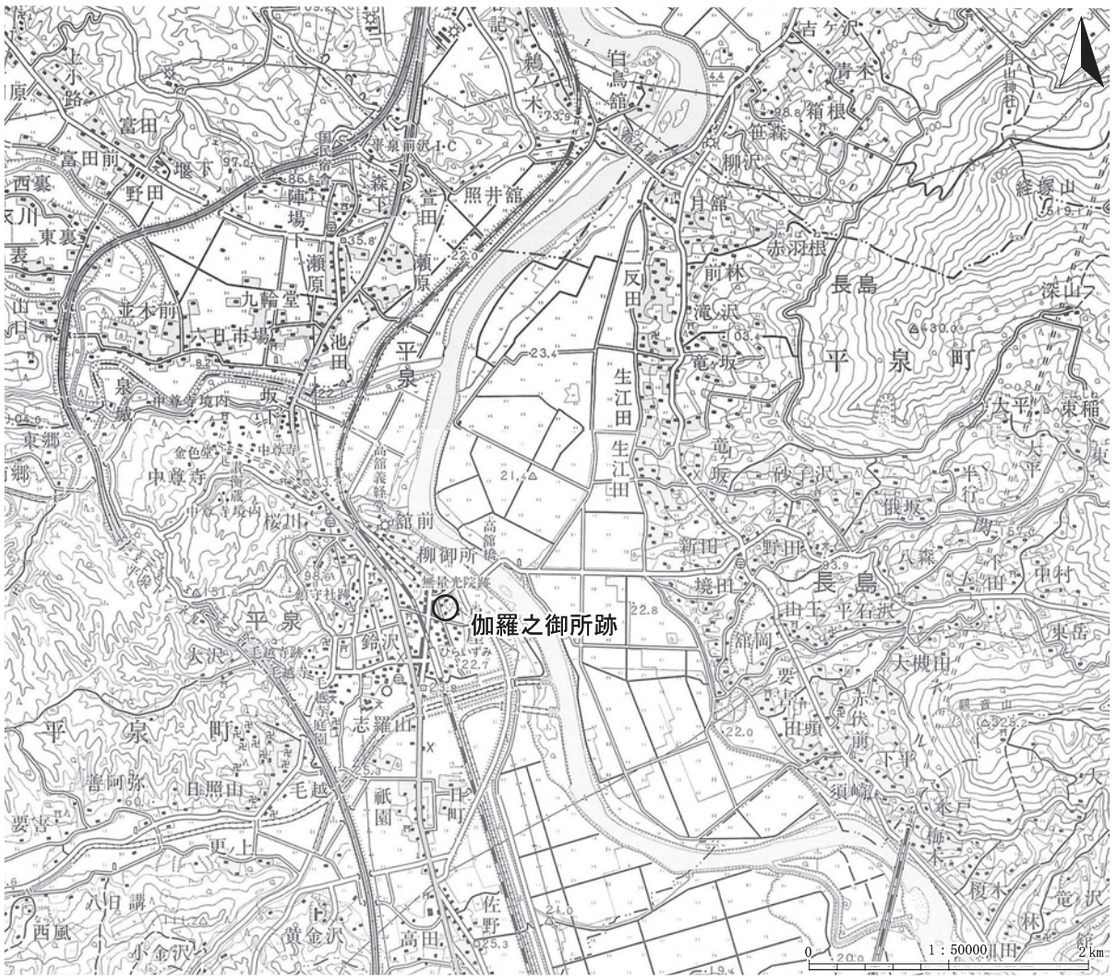
Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺 跡 の 位 置

伽羅之御所跡のある西磐井郡平泉町は岩手県内陸部の南側、北上盆地の南端近くに位置する。平泉町は北を奥州市、南を一関市に囲まれる本県では最も面積の小さな自治体である。

町内を北上川が南北に流れており、北上川東岸に長島地区、北上川西岸に平泉地区がある。

伽羅之御所跡は北緯 38 度 59 分 30 秒、東経 141 度 7 分 2 秒周辺に位置しており標高は 28 ～ 29 m ほどである。現況は県道（片側 1 車線の舗装道路）と住宅地になっている。遺跡周辺は平泉藤原氏時代の遺跡が濃密に分布し、隣接する無量光院跡は中尊寺、毛越寺、観自在王院とともに平成 23 年、世界文化遺産に登録されている。



第３図　遺跡位置図

2016本文１-第648集.indd 2　16.1.21 1:17:36 PM

2　地形、地質

ここでは、調査した遺跡がある西磐井郡平泉町及びその周辺の地理的環境について述べる。

北上川水系の視点から見ると、平泉町は北上川中流域の南端に位置する。平泉町は北上川を挟んだ東西で地形が異なる。北上川の東側は、河岸低地とその東側の山や丘が連なる丘陵地帯から成り、それらの丘陵地帯は第三紀層に相当する北上山系である。河岸低地から丘陵地帯へ急激に標高が高くなるような地形になっている。また西側には奥羽山脈を水源としている太田川と衣川が東に流れ北上川に合流している。これらの河川に沿うように氾濫原と河岸段丘が形成されている。奥羽山系から尾根続きで延びる標高 63 ～ 110 mの山並が北上川近くまで張り出しており、この先端部が中尊寺のある関山や義経堂のある高館山、毛越寺のすぐ背面にある塔山になる。平泉の市街地はこの張り出した山並と北上川、太田川に囲まれた約 1.5km 四方の緩斜面地及び河岸段丘面にある。

5万分の1地形図「水沢」「一関」に、地質図と野中氏の地形分類図を簡略化して編集

旧河道

低湿地・自然堤防・L3面（現河川堆積物）

山地・丘陵（新第三紀層が主体）

山地・丘陵（中・古生層が主体）

＜河成段丘面の名称と推定形成年代＞

T面群（約45～20万年前）

H面群（約15万年前付近）

T面群（約9～5万年前）

L1面（約2万年前）

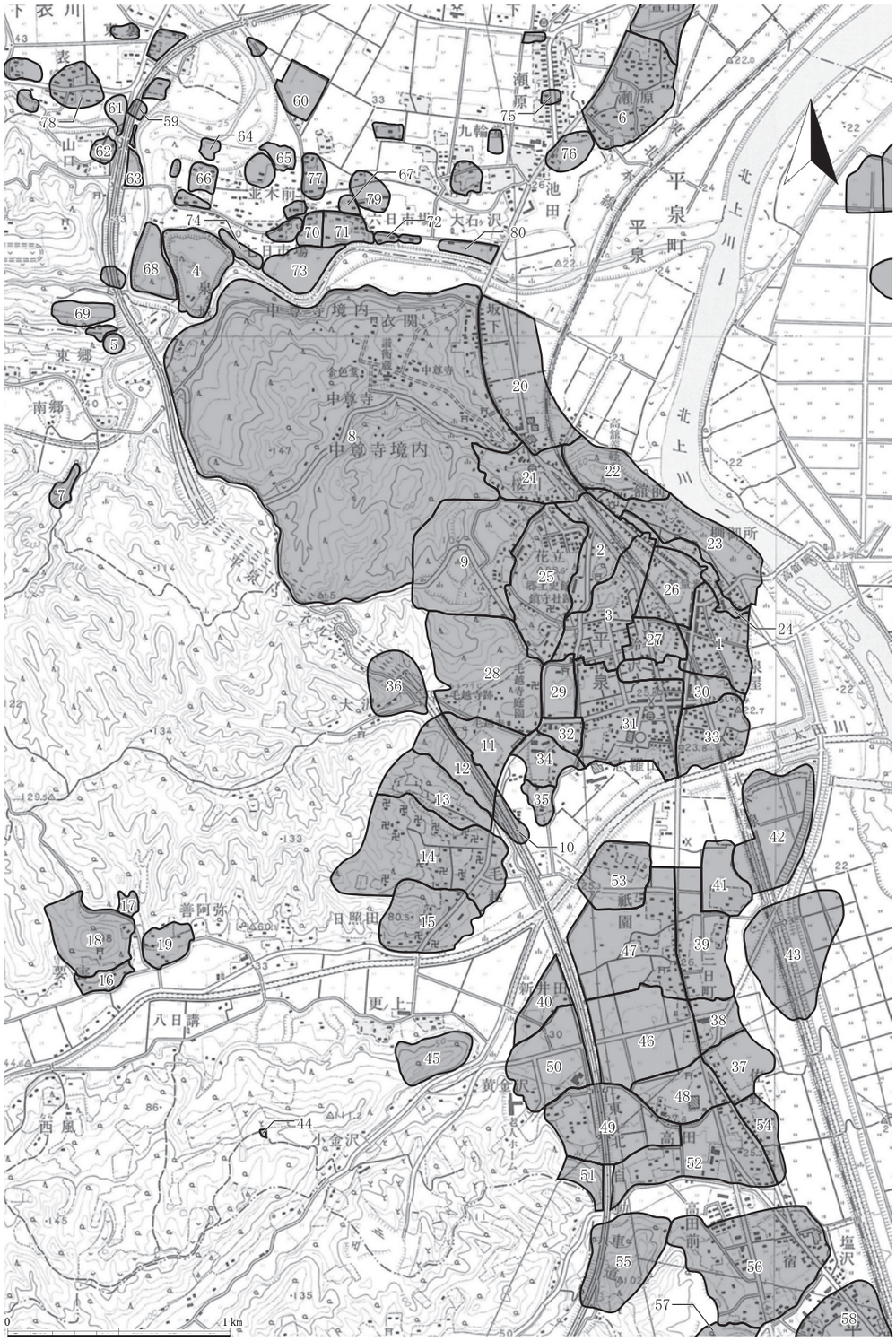
L2面（縄文時代後期以前）

第４図　遺跡周辺の地形地質分類図

2016本文１-第648集.indd 3　16.1.21 1:17:37 PM

3　歴史的環境と周辺の遺跡

今回調査した伽羅之御所跡の周辺にある遺跡については第５図及び第１表にまとめた。



第５図　周辺の遺跡分布図

2016本文１-第648集.indd　4　　16.1.21　1:17:41 PM

第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	所在地
1	伽羅之御所	城館跡	平	平泉字伽羅楽
2	花立Ⅰ	社寺跡・城館跡	平	平泉字花立
3	花立Ⅱ	社寺跡	平	平泉字花立
4	泉ヶ城	散布地・城館跡	縄・平	平泉字泉ヶ城
5	南宗塚	経塚	中・近	平泉字東郷
6	瀬原Ⅱ	散布地	(奈)・平	平泉字瀬原
7	鶴ヶ館	城館跡	中・近	平泉字南郷
8	中尊寺	散布地・社寺跡・経塚	縄・平	平泉字衣関
9	鈴懸の森	経塚	平	平泉字大沢
10	毛越Ⅰ	社寺跡	平	平泉字毛越
11	毛越Ⅱ	社寺跡	平	平泉字毛越
12	毛越Ⅲ	社寺跡	平	平泉字毛越
13	毛越Ⅳ	社寺跡	平	平泉字毛越
14	毛越Ⅴ	社寺跡・城館跡	平	平泉字毛越
15	毛越Ⅵ	社寺跡	平	平泉字毛越
16	要害Ⅰ	散布地	平・近	平泉字要害
17	要害Ⅱ	散布地	縄	平泉字要害
18	安土城	城館跡	中・近	平泉字要害
19	善阿弥	散布地		平泉字善阿弥
20	坂下	散布地・社寺跡	平	平泉字坂下
21	衣関	社寺跡・屋敷跡	平	平泉字衣関
22	高館	城館跡	縄・平	平泉字柳御所
23	柳之御所	城館跡	平	平泉字柳御所
24	猫間ヶ淵	池跡	平	平泉字柳御所
25	金鶏山	経塚	平	平泉字花立
26	無量光院	社寺跡	平・近	平泉字花立
27	白山社	社寺跡	平	平泉字鈴沢
28	毛越寺	社寺跡	縄・平・近	平泉字大沢
29	観自在王院	社寺跡	平	平泉字志羅山
30	鈴沢の池	池跡	平	平泉字鈴沢
31	志羅山	屋敷跡・瓦窯跡	平・中近	平泉字志羅山
32	倉町	屋敷跡	平	平泉字倉町
33	泉屋	散布地	縄・平・中近	平泉字泉屋
34	国衡館	城館跡	平・中	平泉字倉町
35	隆衡館	屋敷跡	平	平泉字倉町
36	大沢	散布地	縄	平泉字大沢
37	三日町Ⅰ	散布地	縄・平・中近	平泉字三日町
38	三日町Ⅱ	散布地	(奈)	平泉字三日町
39	三日町Ⅲ	散布地・社寺跡	平	平泉字三日町
40	新井田	散布地	平	平泉字新井田
41	上野台Ⅰ	散布地	縄	平泉字上野台
42	上野台Ⅱ	散布地	平・中	平泉字上野台ほか
43	高玉	散布地	平	平泉字高玉
44	比丘尼寺	社寺跡	平	平泉字黄金沢
45	鳥屋崎館	城館跡	中・近	平泉字小金沢
46	祇園Ⅰ	散布地	平	平泉字祇園
47	祇園Ⅱ	散布地・社寺跡	平	平泉字祇園
48	佐野原	散布地	(奈)	平泉字佐野原
49	片岡Ⅰ	散布地・城館跡	縄・中近	平泉字片岡
50	片岡Ⅱ	散布地	縄	平泉字片岡
51	黒沢館	城館跡	中・近	平泉字片岡
52	高田	散布地	縄	平泉字高田
53	樋渡	散布地	平	平泉字樋渡
54	佐野	散布地	縄・平・近	平泉字佐野
55	新城館	城館跡	中・近	平泉字高田前
56	宿	散布地	平	平泉字宿ほか
57	大仏	城館跡	中・近	平泉字樋ノ沢
58	正法	散布地	中	平泉字大佐
59	北館	集落跡	縄・平	衣川区横道下43ほか
60	長者原廃寺	寺院跡	古?	衣川区田中西
61	横道下	散布地	縄	衣川区横道下47-2ほか
62	館	居館跡	古	衣川区山口77-1ほか
63	小松柵	城館跡	近	衣川区横道下53-2ほか
64	桜瀬	墳墓	近	衣川区桜瀬
65	御蔵場	屋敷跡	近?	衣川区清水ノ上14ほか
66	衣川柵	城館跡	中?	衣川区並木前2-2ほか
67	下宿	散布地	縄	衣川区上野76ほか
68	琵琶柵	城館跡	中?	衣川区川端
69	松下	散布地	縄	衣川区松下66
70	七日市場	市場跡?	古	衣川区七日市場28ほか
71	接待館	居館跡?	古・12C・中	衣川区七日市場6ほか
72	六日市場	市場跡・集落跡	中	衣川区六日市場43-2ほか
73	衣の関道	関道跡・散布地	古～中	衣川区関谷起95
74	淵畑	散布地	縄・古	衣川区並木前ほか
75	足軽屋敷	屋敷跡	近	衣川区瀬原西裏1ほか
76	池田	散布地	縄・古・近	衣川区池田42-4ほか
77	上野	散布地	近?	衣川区上野48-3
78	表	散布地	縄・古・近	衣川区表62ほか
79	細田	散布地	縄・近	衣川区細田60-1ほか
80	押切	散布地	近?	衣川区大石ヶ沢

2016本文１-第648集.indd　5　　16.1.21　1:17:45 PM

Ⅲ　調査・整理の方法

野　外　調　査

本事業に伴う発掘調査は県道部分の下を掘ることになるため以下のような方針で行われた。まず初年度の無量光院跡第26次調査では一定区間を一定期間片側通行止めとしたうえで、その区間の舗装や路盤を剥ぎ遺跡の調査を行う。調査が終了するとすぐに部分終了確認を実施し埋め戻す。そして別の区間も期間を定めて通行止めとして調査し部分終了確認を経て埋め戻す。これを繰り返して野外調査を進めていった。無量光院跡が特別史跡ということもあり確認調査を原則とし、検出遺構については最小限の精査に留めて遺構保護に努めた。今回調査した伽羅御所跡も基本的にこのような手順で進めたが、遺構は原則完掘して実測し、遺物も全て取り上げてきた。作業の効率化と住民の利便性を確保するために部分終了確認も回数を減らしている。

調査区の設定と遺構の命名

伽羅之御所跡第23次調査は県道中尊寺通り線の道路部分を調査対象とした。調査区の地区割にあたっては、それぞれの調査区が分かれているためそれごとに地区割りをしている。平面直角座標（第Ｘ系：世界測地系）に合わせた基準点・補点をもとにして、遺構や地形測量を行ったが、グリッド設定はしていない。設定した基準点・補点の座標は世界測地系であり、座標値は以下のとおりである。

＜伽羅之御所跡第22次調査＞

基準点１　X = － 111968.309　　Y = 24587.312　　H = 25.689 m

区割付Ａ－１　X = － 111970.000　　Y = 24610.000　　H = 26.025 m

＜伽羅之御所跡第23次調査＞

基準点２　X = － 111891.689　　Y = 24595.863　　H = 26.607 m

区割付杭の座標値は第21図に記載している。

この基準点と区割付杭を基準として調査区および検出遺構や出土遺物の記録をとった。調査区は、伽羅之御所跡第23次調査で調査区１～33まであり、遺構外出土遺物に関してはこの調査区ごとに取り上げた。

遺構の名称

検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じて検出順にそれぞれ番号を付けて、１号土坑・２号土坑、１号井戸跡・２号井戸跡…のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。よって掲載の無い遺構名は遺構ではなかったものである。本調査では性格不明遺構に関してのみ遺構略号としてＳＸを使用した。

試掘・粗掘と遺構検出

通常の発掘調査の中で行われるような試掘は行っていない。それは前述したように通行止めにした県道の下を調査しているためである。一つの調査区は幅３ｍ弱、長さ７～20ｍと一定ではない。これは道路状況や住宅地との関係で任意に設定しているからである。重機で舗装と路盤、その下の近代よりも新しい土層までを除去し、続いて人力で掘り下げて遺構を検出する。撹乱がある場合、あえて

2016本文１-第648集.indd　6　　16.1.21　1:17:46 PM

その撹乱を掘って先に土層の状況を確認するのに利用したりもした。可能な限り遺構外出土遺物を採取することに努め、遺構の検出は、所謂地山面を基本とながらも各土層でも適宜行った。

精査

検出された遺構は、調査区が狭いために４分法、２分法といった基本通りに調査できないものが多かった。しかし各遺構には１本ないしそれ以上の土層断面観察・実測用のベルトを入れた。そして精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行った。

遺構内出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区ごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行った。

また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外に Field・Card を使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

実測・写真撮影

電子平板を使用して平面実測を行った。各遺構の測点はかつての遣り方実測と同程度である。レベルは、基準高をもとに絶対高で記録される。断面実測については、任意の高さを基に設定した水糸を基準として計測を行い、縮尺１／20 の手書き実測図とした。

写真撮影は、中判１台（モノクローム）、1000 万画素以上の一眼レフデジタルカメラ１台を使用して調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。調査終了段階でセスナ飛行機による航空写真撮影を行っている。

土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土の種類・締まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』（1990 年版、小山正忠・竹原秀雄編・著）をもとに行っているが、締まりは、調査員の主観で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然堆積か人為堆積かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、遺構内埋土をアラビア数字（１・２・３）で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、Ⅰａ・Ⅰｂ・１ｃ・…などと表わした。複数人で土層注記を行っているため表現方法が異なる部分も見られるが敢えて手直しすることはせず併記することとした。

普及活動・史跡整備

野外調査での成果は地元住民を対象として調査区の傍に掲示板を立てて、遺跡の内容が分かるようにした。県民を対象とする「平泉文化フォーラム」で遺跡の内容を発表した。「平泉遺跡群調査整備指導委員会」でも調査成果を報告している。また調査中の遺跡を見学できる現地説明会（公開）も適宜実施した。

現地公開　平成 25 年４月 27 日　　現地公開　平成 26 年９月 18 日
＜伽羅之御所跡第 22 次調査＞　平泉遺跡群調査整備指導委員会　平成 26 年１月 23 日
＜伽羅之御所跡第 22 次調査＞　平泉文化フォーラム　平成 26 年２月２日
＜伽羅之御所跡第 23 次調査＞　平泉遺跡群調査整備指導委員会　平成 26 年９月 18・19 日

2016本文１-第648集.indd　7　　16.1.21　1:17:46 PM

平泉遺跡群調査整備指導委員会　平成 27 年２月６日
＜伽羅之御所跡第 23 次調査＞　平泉文化フォーラム　平成 27 年１月 25 日

室　内　整　理

室内整理の期間は以下のとおりである。

遺跡名	室　内　整　理　の　期　間
伽羅之御所跡第 22 次調査	平成 25 年７月１日～平成 25 年７月 22 日、平成 25 年 12 月１日～平成 26 年３月 31 日
伽羅之御所跡第 23 次調査	平成 26 年 12 月１日～平成 27 年３月 31 日

期間内で、出土遺物・実測図・写真などの整理を行った。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行った。

遺構に関わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、デジタルトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で計測した情報をそのまま保存することとし、編集用データは、手実測で記録したその他の実測図と合成し、遺構図版を作成している。

野外調査で撮影した写真については調査区ごとに分類し整理した。その中から代表的な写真を選び遺構写真図版を作成し報告書に掲載している。

撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。

遺物の整理

遺物は現地及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物№を各破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物は調査区ごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。放射性炭素年代測定の分析は外部の専門家に委託した。

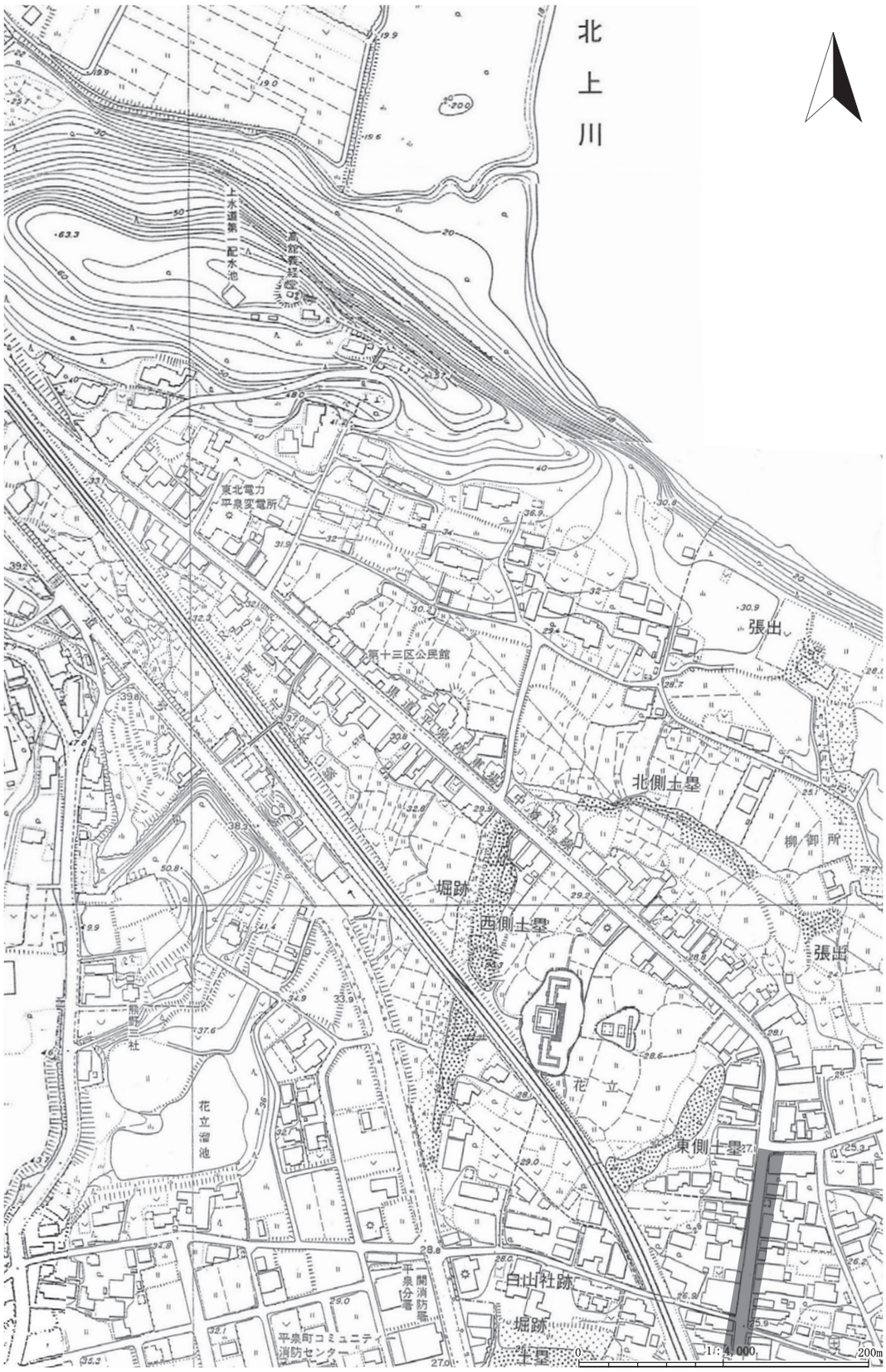
遺物の選別・図化の基準

遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準を基に選別した一部の資料である。各遺構に伴う遺物を最優先し、遺構外出土であっても本遺跡を代表するものについては掲載した。また、各種の遺物については破片数、重量の計測を行い台帳作成している。残りの良い遺物は図や拓本を取り、写真撮影した。そうでないものは写真だけ撮っている。

現地公開

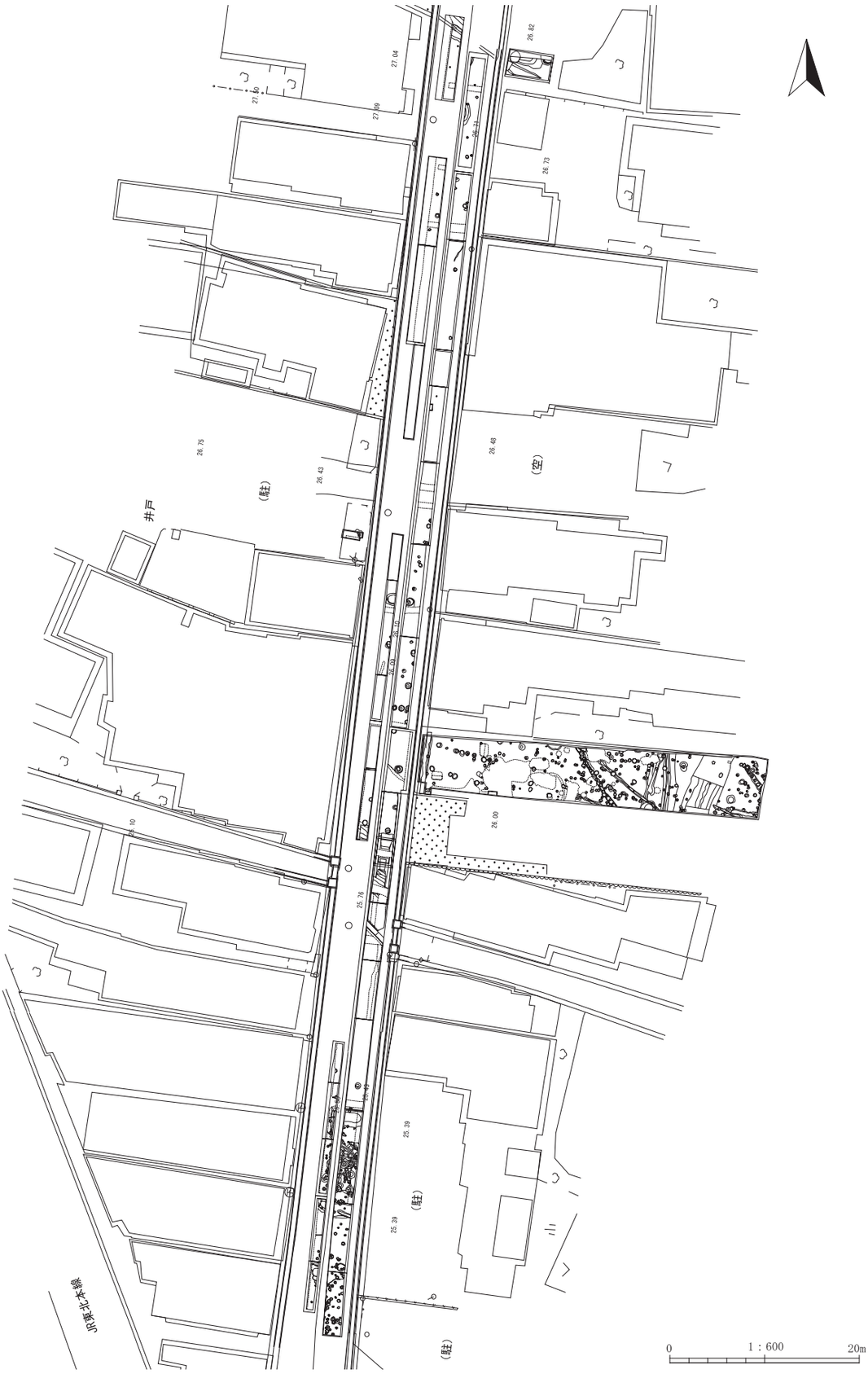
指導委員会視察

2016本文１-第648集.indd　8　　16.1.21　1:17:46 PM



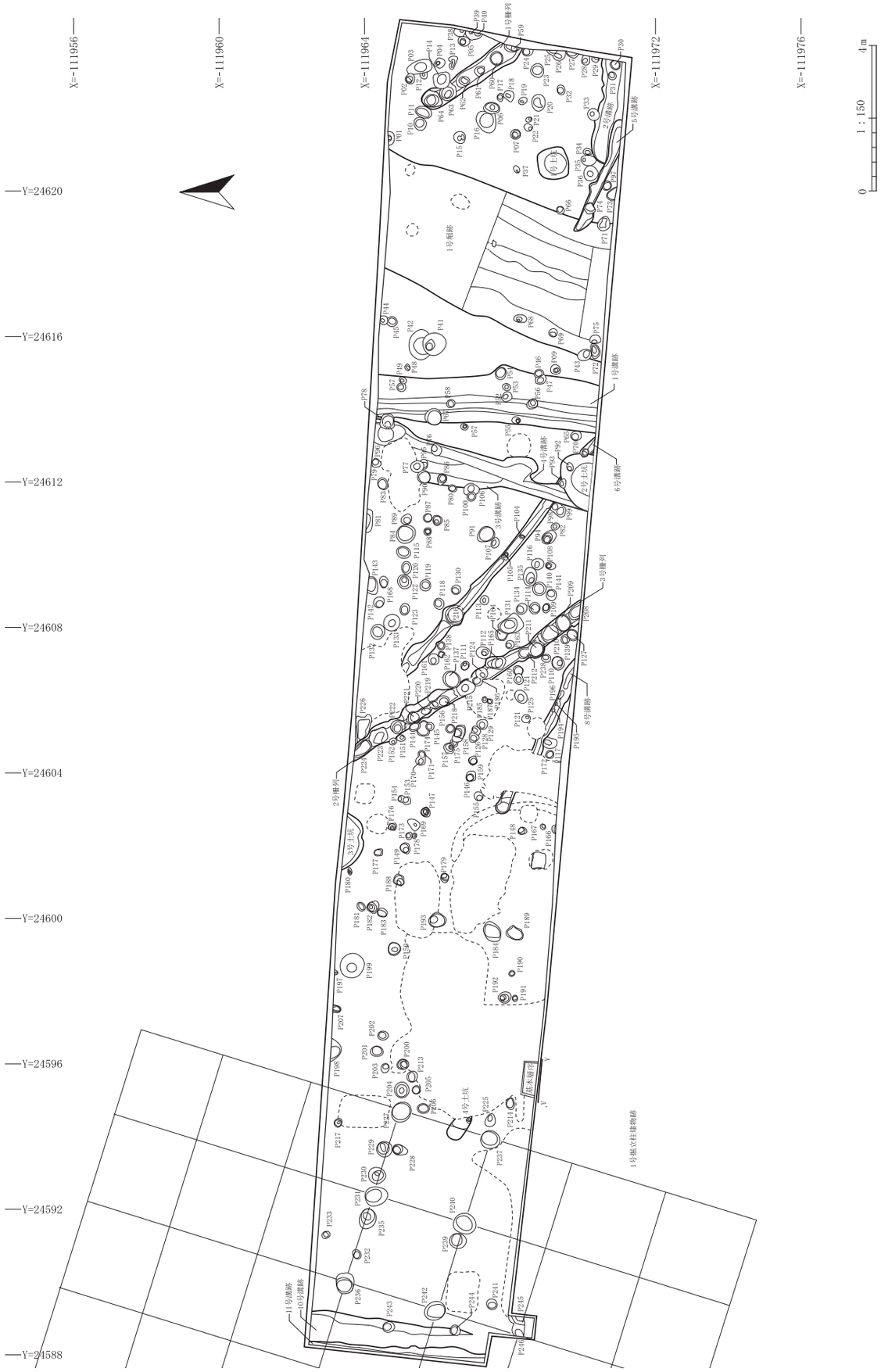
第６図　遺跡地形図と調査区

2016本文１-第648集.indd　9　　16.1.21　1:17:47 PM



第７図　遺構配置図１

2016本文１-第648集.indd　10　　16.1.21　1:17:49 PM



第８図　遺構配置図２

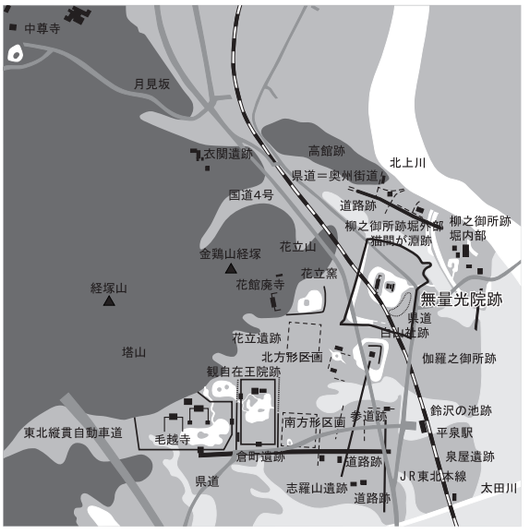
2016本文１-第648集.indd　11　　16.1.21　1:17:50 PM

Ⅳ　伽羅之御所跡第 22 次調査

1　概　　要

遺跡は西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽地内から字花立内にある。遺跡の範囲は東西約 200 m×南北約 100 mと広く、現況は住宅地が主である。その他は水畑や田となっている。調査区は宅地であった。遺跡としての伽羅之御所跡のなかでは西端の中央付近を調査したことになる。

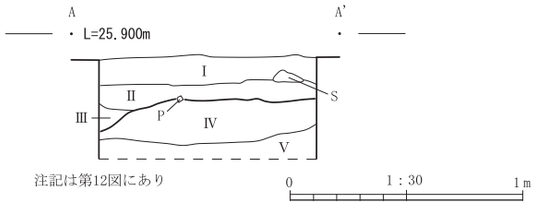
遺構は 12 世紀後半の堀跡 1 条、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 4 基、柵列 2 条、溝跡 7 条、柱穴 242 個が検出された。検出された遺構は 12 世紀、平泉藤原氏時代のものとそれ以降の遺構からなるが、明らかに 13 世紀や 11 世紀となるような遺構や遺物は見つからなかった。



第９図　平泉略式図
（田原市博物館 2013 に加筆）

2　基　本　層　序

調査区内はかつて住宅であったために、基礎や水道管などの痕跡が多く見られ遺構の残りは良くなかった。



第10図　基本土層

3　検　出　遺　構

（1）堀　　跡

伽羅之御所跡第 1 次調査が今回の調査区の北側約 20 mの地点で実施されている。その時に検出されている大溝跡と今回の調査で見つかった 1 号堀跡は互いの位置関係、形態・規模が似ていることから同じ遺構である可能性が極めて高い。堀跡の規模や形状、埋土や出土遺物等については観察表にも整理している。

１号堀跡（第 11 図、写真図版３・４）

＜位置・検出状況＞調査区の東側にあり、地山面で検出した。検出段階では他の遺構との重複関係はそれほど多く見られなかった。しかし周囲には多くの遺構が分布していたので先ずは小トレンチを設け、断面で各遺構との重複関係を確認しつつ精査に入った。

＜規模・形状＞検出面での長さは 7.1 m、上幅 3.6 m、深さが 1.2 mあり、方向はN-22°-E。断面形はV字に近い形となる。底面は幅が 0.3 m程で比較的平坦である。壁面は所々で崩落とみられる凹凸があった。

＜埋土・重複関係＞底面付近は自然堆積。埋土中位には人為堆積が部分的にみられるものの、基本的には自然堆積によって堀は埋まっていった。遺構が機能していた段階で、部分的に土砂及びかわらけ

2016本文１-第648集.indd　12　　16.1.21　1:17:52 PM

細片や炭粒などが少量、投げ捨てられていた痕跡が数か所見られた。

５号溝跡と重複している。切り合い関係は明瞭ではなかったものの本遺構が５号溝跡に切られているようには見られなかったので本遺構のほうが新しいと判断した。

＜出土遺物・時期＞（第 17 図、写真図版 12 ～ 15）

かわらけが 10513.59 ｇ出土している。手づくねかわらけ（６）の口径はあまり大きくないので 12 世紀後半のものであろう。

＜性格＞隣接する無量光院跡の西辺には土塁と堀跡が現存している。土塁が内側、堀跡が外側で両者は接するように北北東 - 南南西方向に延びている（Ｎ－ 10°－Ｅ）。この現存する堀・土塁の方向と本遺構の主軸方向は概ね一致している。このことから「伽羅御所」と「無量光院」を区画していた堀跡の可能性が高い。

（2）掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（第 12 図、写真図版５）

＜位置・検出状況＞ 22 次調査区の西側と隣接する 23 次調査区にかけて位置している。現況が住宅地及び県道であったこともあり周囲には撹乱が多い。22 次調査区では地表面から 30 ㎝下の地山面で、県道部分では路面から 70 ㎝下の地山面で検出している。本来は同じ高さの地山面であったのであろうが、県道部のほうが厚く削平されたものである。

＜重複関係＞２号堀跡とは重複しないものの接するように近い場所にある。平面的に 10・11 号溝跡と重複するが新旧関係は不明である。

＜平面形式＞南北棟の掘立柱建物である。桁行き 17,483 ㎜（57.7 尺）、梁行きは 10,090 ㎜（33.3 尺）。桁行７間、梁行４間の総柱建物になる可能性が高い。予想床面積は 176.40 ㎡（53.45 坪）となる。

＜建物方位＞Ｎ－ 17°－Ｅ

＜柱穴＞柱穴の大きさに特段の違いはない。大半の柱穴は開口部径で 50 ～ 70 ㎝の範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴は５個である。これを見ると径 25 ～ 30 ㎝の円形基調の柱材が用いられていたことが分かる。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

＜柱間寸法＞桁行きは北から 8.0 尺、7.9 尺、8.4 尺、8.6 尺、7.6 尺、8.8 尺、8.4 尺と不揃いであった。平均値から 8.2 尺を意識していたのではないかと考えられる。梁行きは西側が 8.7 尺で他は 8.2 尺である。このことから梁桁共に 8.2 尺を基準の柱間寸法にしていたと推測される。

＜出土遺物＞遺構に伴う遺物はない。

＜時期・建物の性格＞出土遺物はないものの 12 世紀とするのが最も妥当である。建物規模は平泉町内で見つかっている掘立柱建物跡の中でも有数の規模である。加えて南北棟の総柱建物であることも合わせると格の高い邸宅、若しくは特殊な建物の可能性がある。

（3）土　　坑（第 13 図、写真図版５・６）

４基の土坑を検出した。時期が 12 世紀代のものと 12 世紀以降の土坑とに分けられる。各遺構の特徴については表に整理した。何れもⅣ層地山上面での検出であった。

（4）溝跡・柵列跡（第 14 ～ 16 図、写真図版６～９）

７条の溝跡と２条の柵列跡を検出した。これらの遺構は検出した段階では区別できないものが多かったためここでは一括して報告したい。精査の結果、単純に地面を掘り込んでいるだけのものを溝跡、

2016本文１-第648集.indd　13　　16.1.21　1:17:53 PM

柱穴を直線的に連ねたような構造をしているものを柵列と分類した。

これらの殆どは調査区外に延びており、加えて途中で撹乱を受けているため全容が把握できたものは無い。それでも各遺構の方向を比較すると類似するものが多い。同時期にあって、並列して造られていた可能性もあろう。

柵列跡は何れも12世紀と考えている。溝跡は12世紀のもの、12世紀よりも新しいものがあるが、各遺構の内容については表にまとめている。何れもⅣ層の地山上面で見つかっている。

（5）柱　　穴

今回の調査では242個の柱穴が見つかった。調査区が嘗て宅地であったこともあり、近世や近代の遺物も多く出土している。よって12世紀の柱穴と、近世・近代頃の柱穴とがあると考えられるが、遺物を伴うものは少ないため時期の判然としないものも多い。遺構検出面はⅣ層である（第５表）。

4　出　土　遺　物

12世紀の遺物としてかわらけ、国産陶器、中国産磁器、石製品が出土した。その殆どが１号堀跡出土である。他に縄文時代の石器が出土している。

（1）か　わ　ら　け（第17図、写真図版12）

平泉における12世紀のかわらけはロクロ整形と非ロクロ整形（手づくね）に大別される。さらにこれらは大皿、小皿とその他に分けられる。ロクロかわらけは12世紀初頭から12世紀末まで、手づくねかわらけは12世紀中葉から12世紀末まで見られる。其々に個体差はあるがどちらのかわらけ大皿も12世紀末に向かうにつれて、器高が低く口径も小さくなっていく傾向がある。そうした視点で今回出土したかわらけを見てみると、手づくねかわらけの大皿では口径が15㎝以下である。器高も皆3.1㎝未満のもので構成される。表面の調整を見ると１段ナデが多く、２段ナデはかなり少ない。

ロクロかわらけは出土量が少なかった。７は１号堀跡からの出土である。底径は8.4㎝と大きく、12世紀後半の特徴が表れている。11は柱状高台の底部であろう。柱状高台はこの１点のみの出土である。内折れかわらけは無かった。伽羅之御所跡では過去の調査で12世紀後半よりも古手のかわらけが出土している。遺跡自体が12世紀後半よりも前から使用されていた可能性が高いが、今回の調査では12世紀後半よりも古手のかわらけは出土していないようである。

（2）陶　磁　器（第17～20図、写真図版12～15）

国産陶器は渥美、常滑、須恵器系陶器が見られる。何れも小破片である。この３種に出土状況の違いはない、出土量を見ると渥美産陶器が最も多い。常滑産陶器は渥美産陶器よりやや少なかった。須恵器系は渥美や常滑に比べると出土量は少ない。

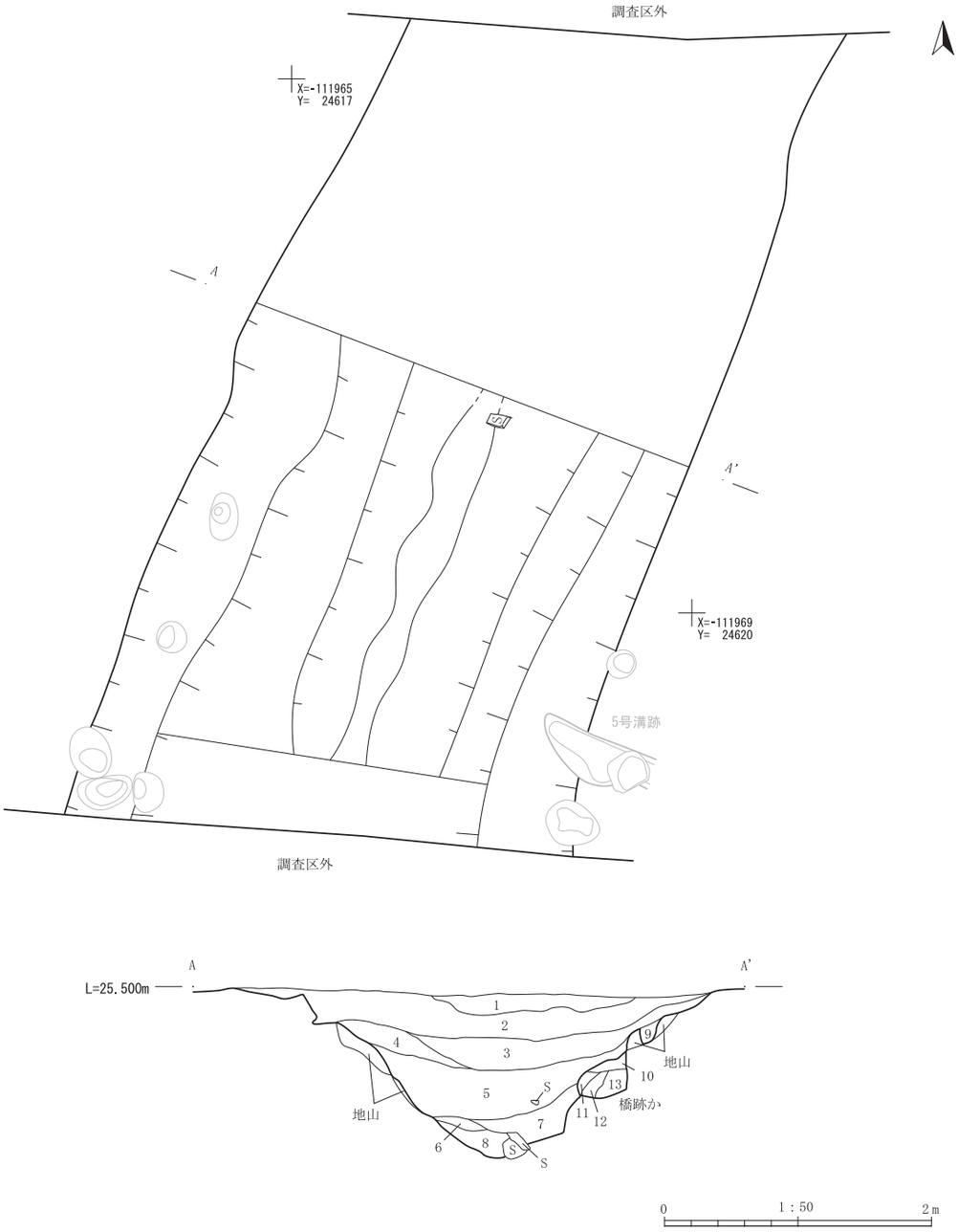
中国産磁器（第20図、写真図版15）　中国産磁器は、白磁四耳壺、碗、皿類が出土している。出土した全てを掲載した。

（3）石器・石製品（第20図、写真図版15）

47・48は縄文時代の石器である。遺構に伴わない遺物である。49～52は扁平な石の葉面に煤が付着しているもので、用途は不明である。12世紀の遺物の可能性が高い。

2016本文１-第648集.indd　14　　16.1.21　1:17:53 PM

1号堀跡



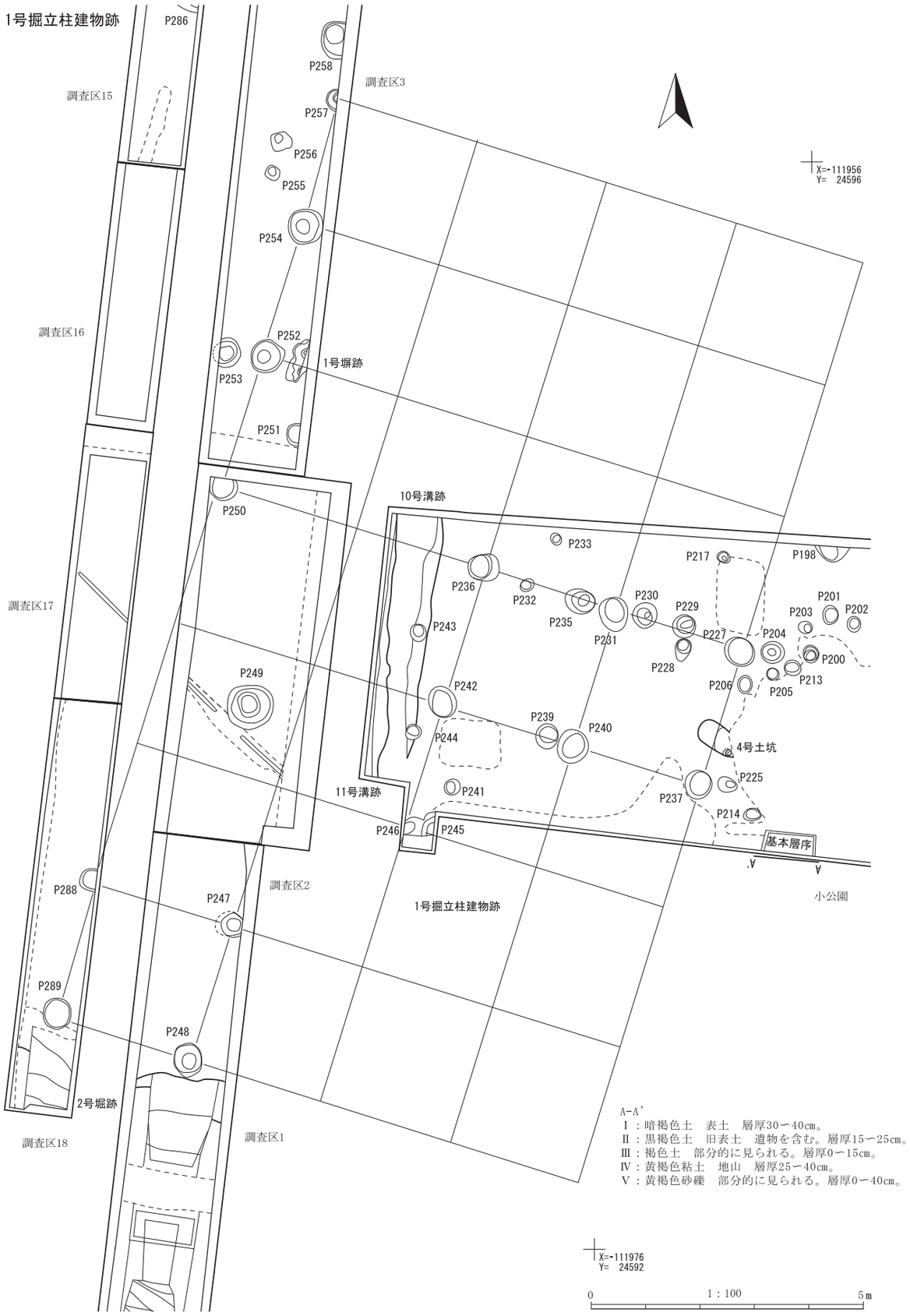
1号堀跡

1.	10YR3/2	黒褐色土	粘性やや弱　締まり強.
2.	10YR4/2	灰黄褐色土	かわらけ細片微量　地山小ブロック微量　粘性やや有　締まりやや有
3.	10YR4/2	灰黄褐色土	かわらけ細片微量　地山ブロック微量　河原石微量　粘性やや有　締まりやや有
4.	10YR4/2	灰黄褐色土	かわらけ細片微量　粘性やや有　締まりやや有.
5.	10YR4/1	褐灰色土	かわらけ細片少量　地山ブロック少量　河原石少量　粘性有　締まりやや有
6.	10YR4/1	褐灰色土	炭粒少量　粘性有　締まりやや有
7.	10YR4/2	灰黄褐色土	地山ブロック多量　粘性やや有　締まりやや有
8.	10BG3/1	暗青灰色砂質土	炭粒多量　地山ブロック微量　粘性やや有　締まり弱
9.	10YR5/1	褐灰色土	地山ブロック多量　粘性弱　締まっている
10.	10YR6/6	明黄褐色土	灰黄褐色土微量　粘性やや有　締まりやや有
11.	10YR4/1	褐灰色砂質土	粘性やや有　締まりやや有
12.	10YR6/1	褐灰色粘土質土	灰白色粘土少量　粘性有　締まっている
13.	10YR6/1	褐灰色粘土	灰白色粘土多量　粘性有　締まっている

※基本的には人為と自然の混在　土と炭　河原石　かわらけ細片を堀に廃棄している　底面まで下げると水が染み出てくる

第11図　堀跡

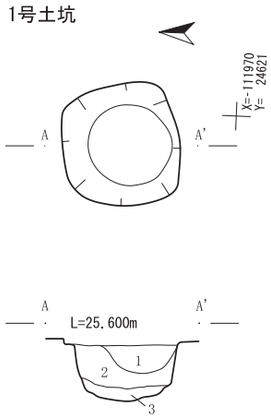
2016本文１-第648集.indd　15　　16.1.21　1:17:53 PM



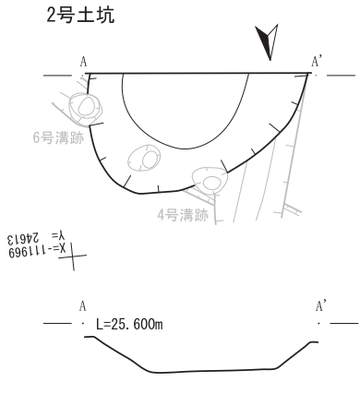
第12図　掘立柱建物跡

2016本文１-第648集.indd 16　　16.1.21 1:17:53 PM

1号土坑

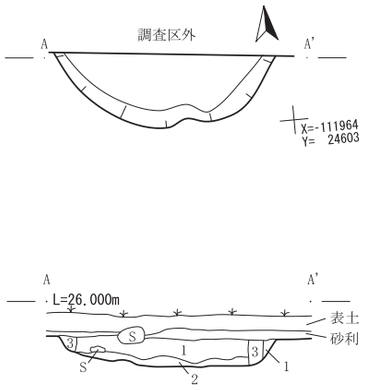


2号土坑

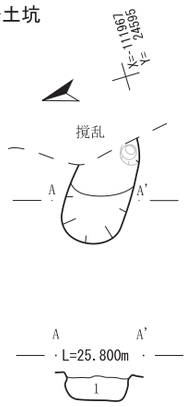


1号土坑
1. 10YR8/3　浅黄橙色土ブロック　隙間に灰黄褐色土　人為堆積　12C　粘性有　締まり有
2. 10YR4/2　灰黄褐色土　地山ブロック(1層と同じ)微量　炭粒極微量　人為堆積　12C　粘性やや有　締まりやや有
3. 10YR4/2　灰黄褐色土　人為堆積　12C　粘性やや有　締まりやや有

3号土坑



4号土坑



3号土坑
1. 10YR2/3　黒褐色土　明赤褐色土粒1%　炭化物(φ1～12mm)3%　粘性やや強　締まり強
2. 10YR5/4　にぶい黄褐色土　明赤褐色土粒1%　炭化物(φ1～11mm)1%　粘性やや強　締まり強
3. 10YR3/2　黒褐色土　粘性弱　締まりやや弱

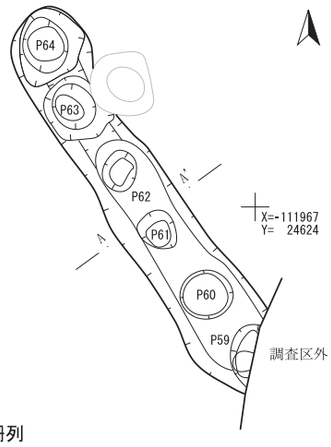
4号土坑
1. 10YR4/4　褐色土　橙色土ブロック(φ2mm)極微量　炭化物(φ1mm以下)極微量　礫(φ1mm以下)をまばらに含む
粘性弱　締まり中

0　1：50　2m

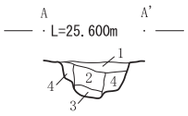
第13図　土坑

2016本文１-第648集.indd　17　16.1.21　1:17:54 PM

1号柵列



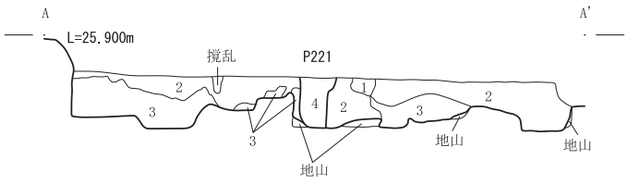
1号柵列



1号柵列
1. 10YR5/2　灰黄褐色土　地山ブロック多量　粘性やや有　締まりやや有
2. 10YR5/2　灰黄褐色土　地山ブロック少量　粘性やや有　締まりやや有
3. 2.5Y8/4　淡黄色粘土　灰黄褐色土微量　粘性有　締まりやや有
4. 10YR5/5　灰黄褐色土　地山ブロック大量　粘性やや有　締まっている

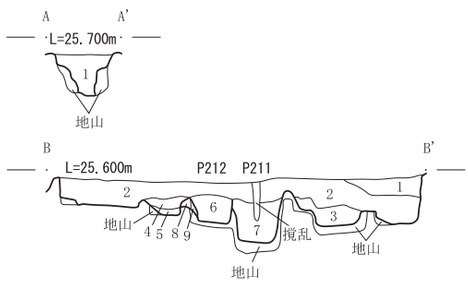
2・3号柵列

2号柵列



2号柵列
1. 10YR6/8　明黄褐色土　粘性無し　締まり強…2号柵列
2. 10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土との混合土　灰褐色土がまだらに3%
炭化物(φ1～2mm)1%　粘性弱　締まり強…2号柵列
3. 7.5YR5/6　明黄褐色土　暗褐色土がまだらに10%　灰オリーブ色土5%
炭化物(φ1～3mm)1%　粘性弱　締まり強…2号柵列
4. 10YR3/3　暗褐色土　明褐色土がまだらに10%　炭化物(φ1～3mm)1%
粘性弱　締まり強…P221

3号柵列



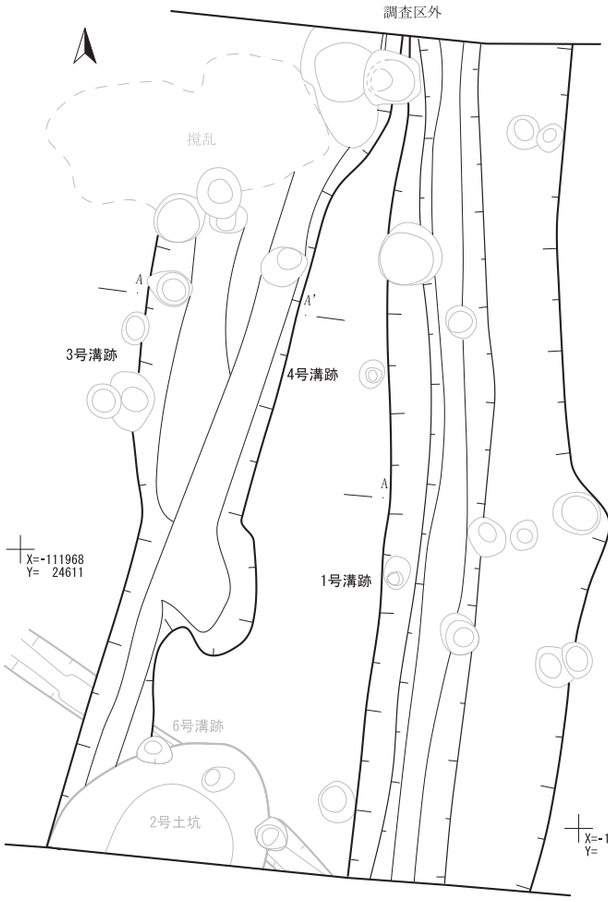
3号柵列
1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質粘土　黄褐色粘土ブロック40%　炭化物(φ1～2mm)微量　粘性やや弱　締まり中…3号柵列
2. 10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　粘性やや強　締まりやや強…3号柵列
3. 10YR3/3　暗褐色土　黄褐色土5%　粘性強　締まりやや強…3号柵列
4. 10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～2mm)1%　粘性やや強　締まり強
5. 10YR6/6　明黄褐色土　粘性強　締まりやや強
6. 10YR3/4　暗褐色土　明黄褐色土5%　明褐色土1%　粘性やや強　締まり強…P212
7. 10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土との混合土　赤褐色土粒がまばらに1%　炭化物(φ1mm)1%　粘性やや強　締まり強…P211
8. 10YR3/4　暗褐色土　褐色土との混合土　粘性やや弱　締まり強…3号柵列
9. 10YR5/6　黄褐色土　粘性やや弱　締まり強…3号柵列
※基本的には人為堆積　柱穴も抜き取られているようだ　最も深いP211は中心からずれているが本遺構に伴うと思われる

0　1：50　2m

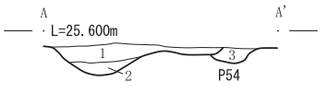
第14図　柵列跡

2016本文１-第648集.indd 18　16.1.21 1:17:55 PM

1・3・4号溝跡

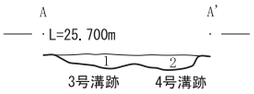


1号溝跡



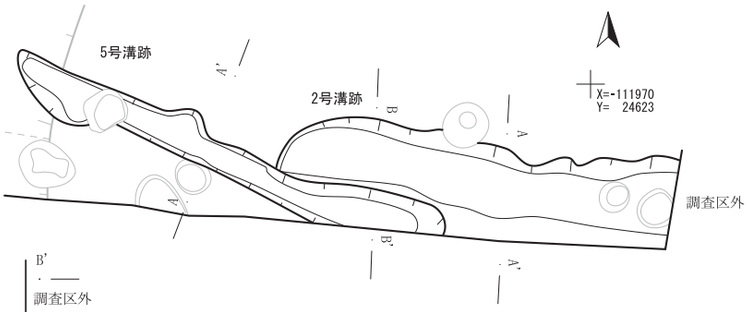
1号溝跡
1. 10YR6/2　灰黄褐色土　粘性やや弱
　　締まっている…近世以降　1号溝跡
2. 10YR4/1　褐灰色土　粘性やや弱
　　締まっている…近世以降　1号溝跡
3. 10RY4/2　灰黄褐色土　地山ブロック少量
　　粘性やや有　締まりやや有…P54

3・4号溝跡

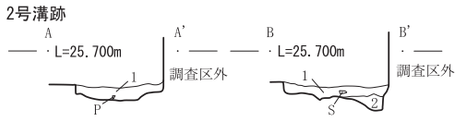


3・4号溝跡
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　明褐色土微量　炭化物(φ1mm)1%
　　粘性やや弱　締まり有…3号溝跡
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色土　明褐色土ブロック5%
　　炭化物(φ1～3mm)1%
　　粘性弱　締まり有…4号溝跡

2・5号溝跡

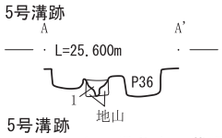


2号溝跡



2号溝跡
1. 10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　黄褐色粘土ブロック10%
　　炭化物をまばらに含む　土器片混入　粘性やや強　締まりやや密
2. 10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　黄褐色粘土ブロック30%
　　炭化物をまばらに含む　粘性やや強　締まり中

5号溝跡



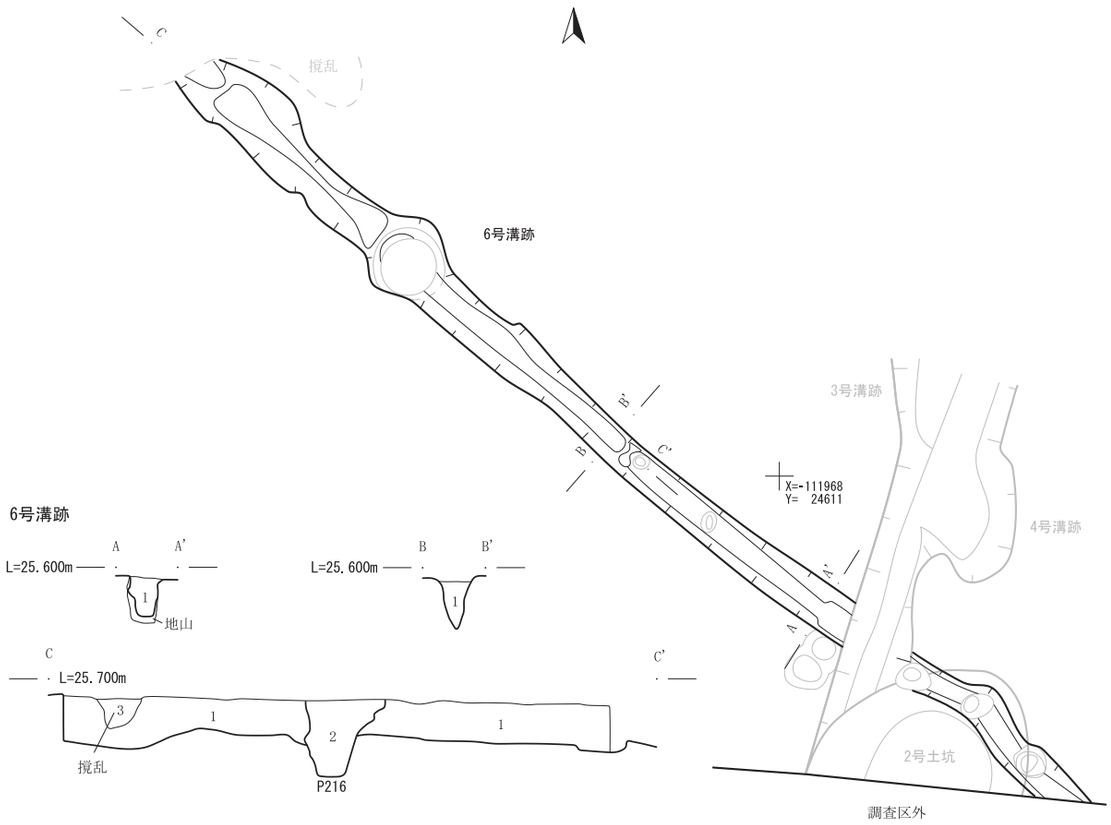
5号溝跡
1. 10YR4/4　褐色土　黄褐色土との混合土　粘性有　締まり有

0　1：50　2m

第15図　溝跡１

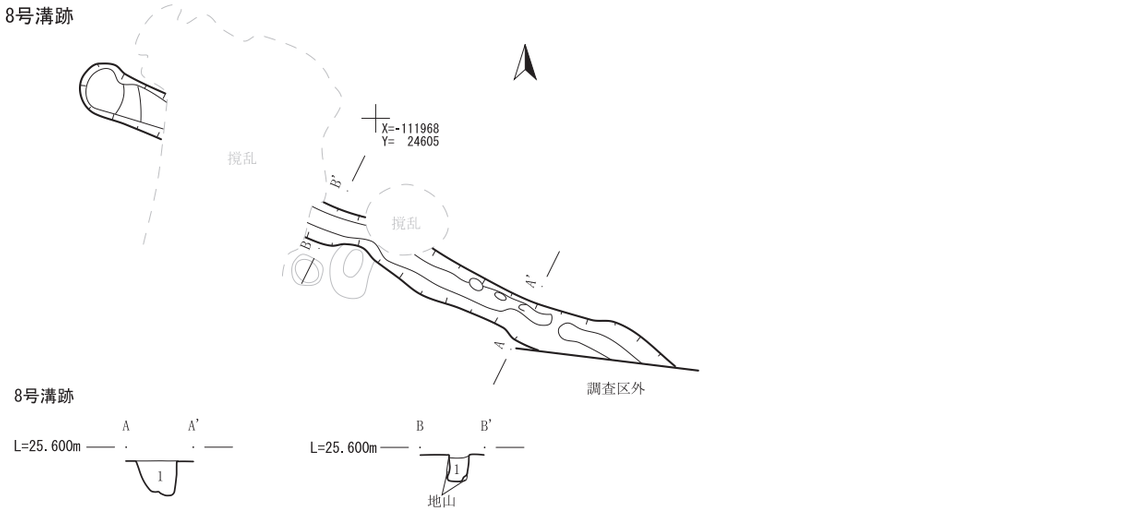
2016本文１-第648集.indd　19　16.1.21　1:17:56 PM

6号溝跡



6号溝跡
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　黄褐色粘土ブロック20%　炭化物(φ1～2mm)少量　粘性中　締まりやや密…6号溝跡
2層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色土がまばらに3%　炭化物(φ1～3mm)少量　粘性弱　締まり強…P216
3層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色土3%　暗赤褐色土粒1%　粘性強　炭化物(φ1～11mm)少量　粘性弱　締まり強…撹乱

8号溝跡

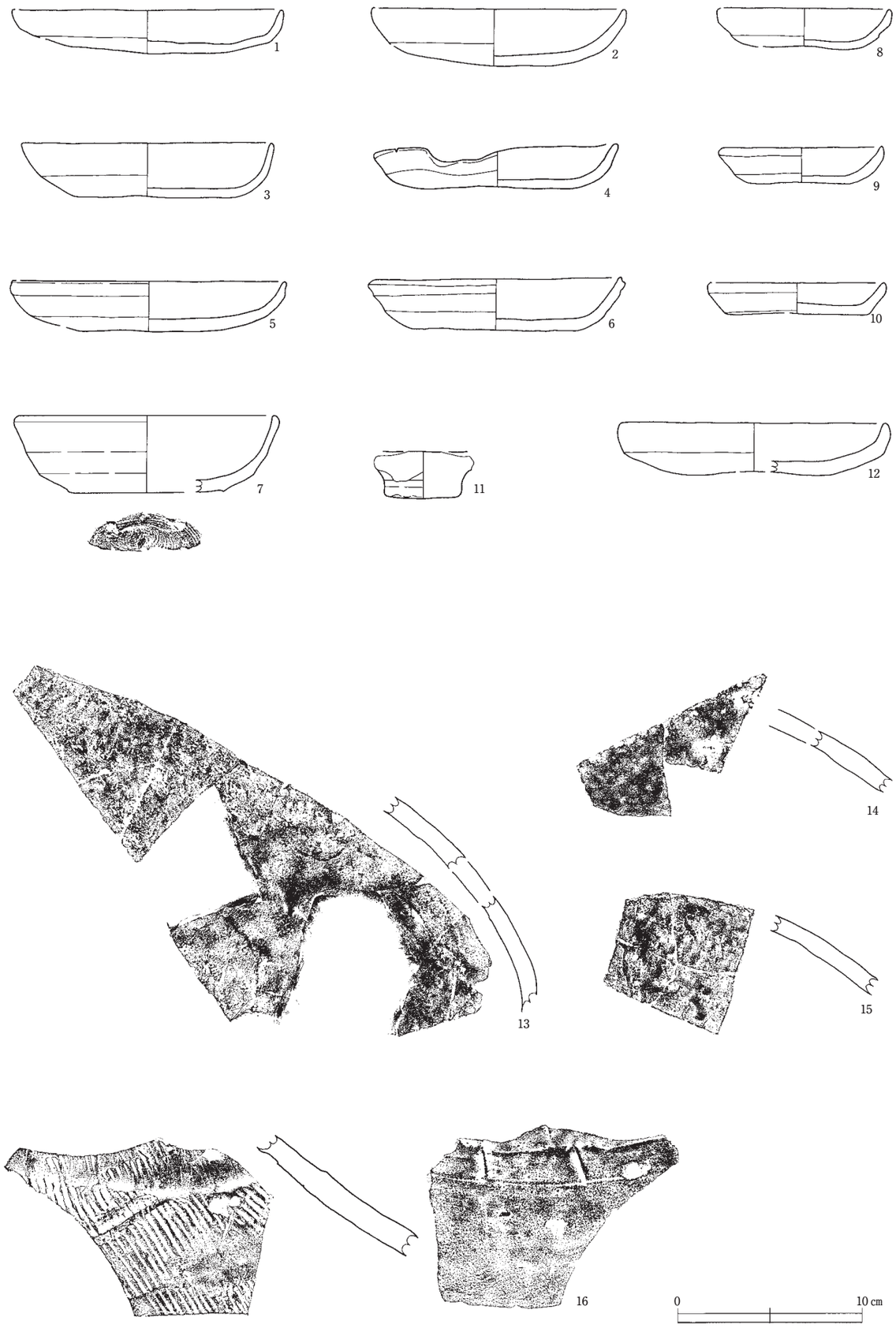


8号溝跡
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト質粘土　黄褐色土30%　炭化物(φ1mm)微量　粘性やや弱　締まりやや密

0　1：50　2m

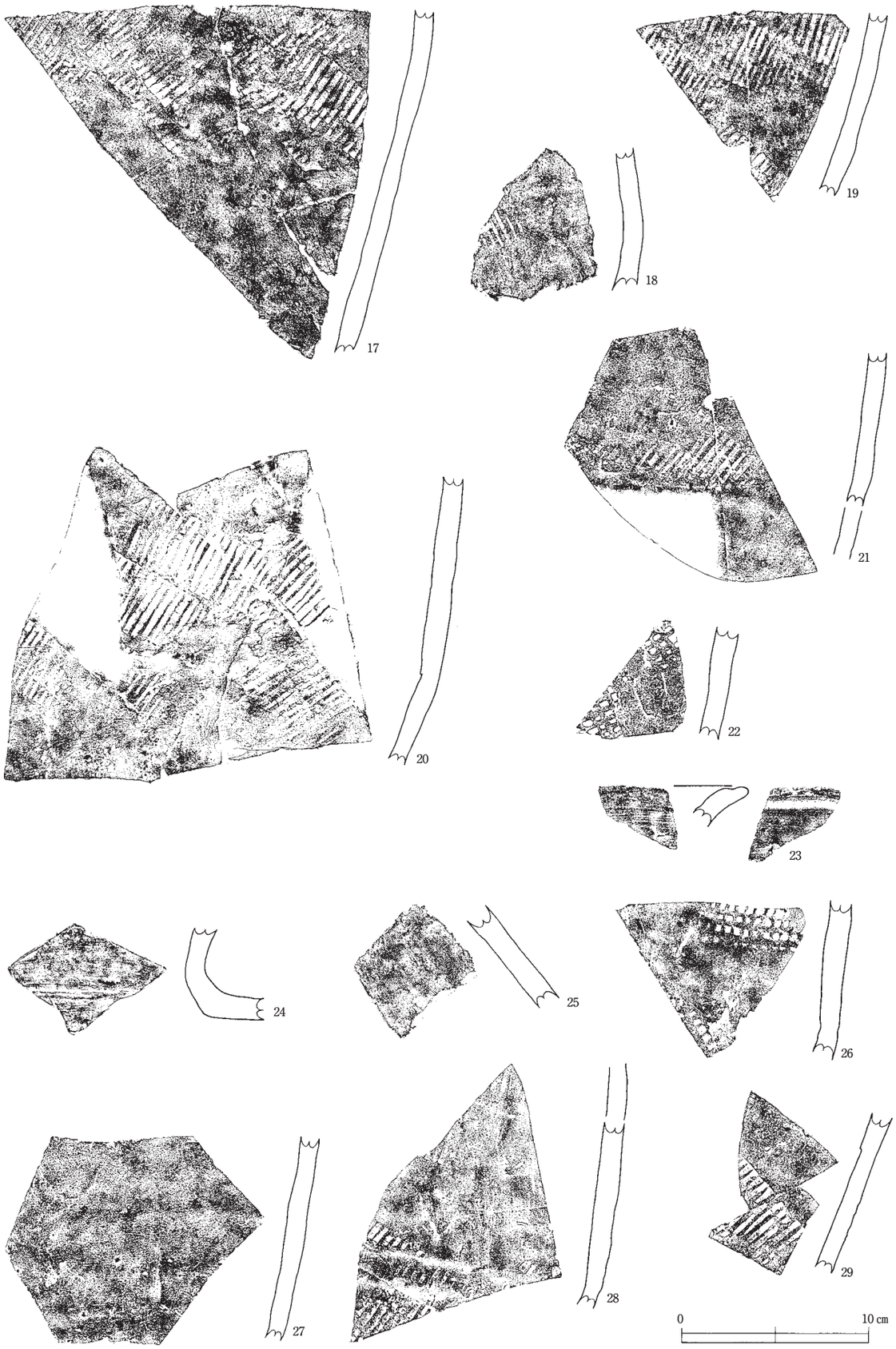
第16図　溝跡２

2016本文１-第648集.indd　20　16.1.21　1:17:57 PM



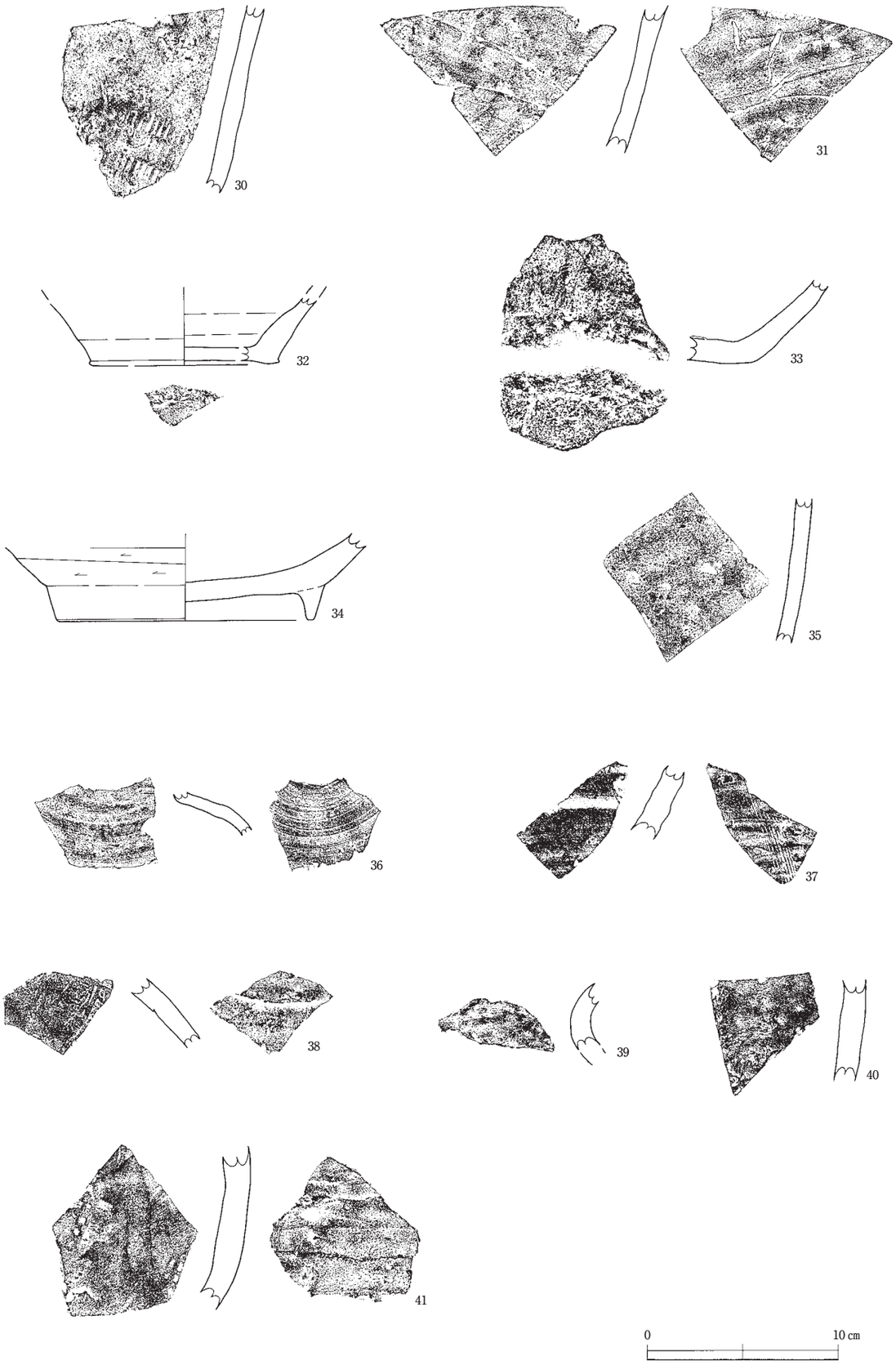
第17図　出土遺物１

2016本文１-第648集.indd　21　　16.1.21　1:17:57 PM



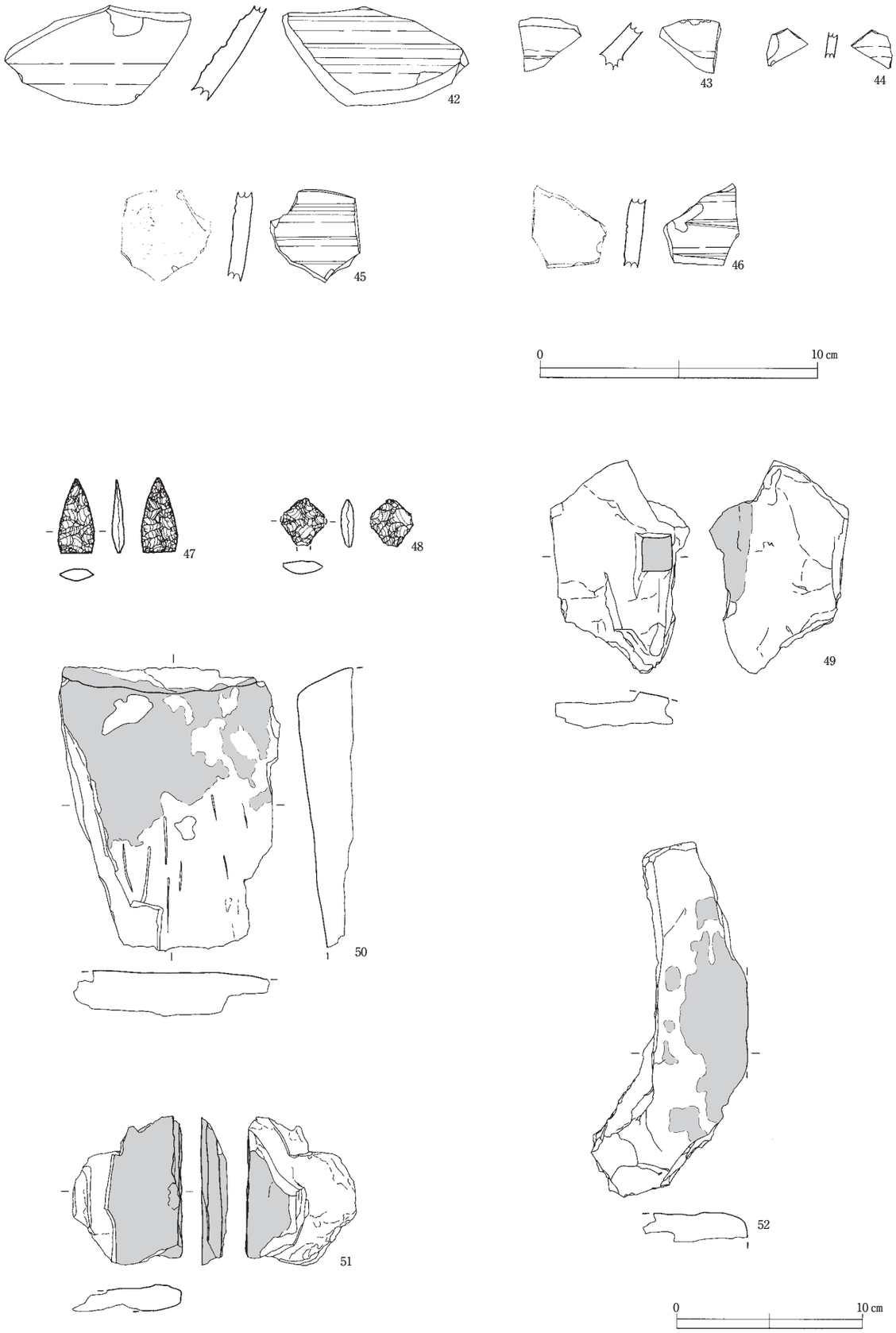
第18図　出土遺物２

2016本文１-第648集.indd　22　　16.1.21　1:17:58 PM



第19図　出土遺物３

2016本文１-第648集.indd　23　　16.1.21　1:17:59 PM



第20図　出土遺物４

2016本文１-第648集.indd　24　　16.1.21　1:17:59 PM

第２表　堀跡・溝跡・柵列跡観察表　　計測値の単位：m

遺構	位置	規模 長さ／幅／深さ	方向	埋土、重複など	出土遺物時期	その他
１号堀跡	調査区の東側	(7.1) /3.6/1.2	N－22°－E	埋土の上層は自然堆積　埋土下位は地山ブロックや炭粒を多量に含む人為堆積で廃棄の「場」でもあった可能性がある　５号溝跡より新しい	かわらけ陶器　12 世紀後半	１次調査検出の大溝とは同じ遺構
１号柵列	調査区の東側	(3.3) /0.5/0.3	N－34°－W	灰黄褐色土や淡黄色粘土のブロックからなる人為堆積　溝内に柱穴が一列に連なる	12 世紀	径 0.3 ｍの柱穴径 0.2 ｍの柱痕
２・３号柵跡	調査区の西側	(7.4) /0.5/0.3	N－31°－W	地山ブロックを主体とする人為堆積　溝の中に柱穴が連続してある　抜き取られているものも多い	12 世紀	１号柵列跡と方角が近い
１号溝跡	調査区の中央	(6.0) /1.2/0.2	N－2°－E	灰黄褐色土や褐灰色土からなる自然堆積	近世以降	
２号溝跡	調査区の東側	(2.9) /0.6/0.2	N－79°－W	暗褐色土に地山ブロックや炭粒を少量含む人為堆積	12 世紀	
３号溝跡	調査区の中央	(3.1) /0.6/0.1	N－5°－E	にぶい黄褐色土の単層で自然堆積か人為堆積かは不明　４号溝跡との新旧関係不明	12 世紀	
４号溝跡	調査区の中央	(6.0) /0.5/0.1	N－21°－E	にぶい黄褐色土の単層で自然堆積か人為堆積かは不明　３号溝跡との新旧関係不明	12 世紀	１号堀跡と方角が近い
５号溝跡	調査区の東側	(3.3) /0.2/0.2	N－62°－W	１号堀跡より古い　人為堆積	12 世紀	８号溝跡と方角が近い
６号溝跡	調査区の西側	(8.1) /0.2/0.3	N－51°－W	灰黄褐色土や暗褐色土に地山ブロックをまばらに含む人為堆積　４号溝より新しくはない	12 世紀	
８号溝跡	調査区の西側	(4.2) /0.3/0.2	N－63°－W	灰黄褐色土に地山ブロックや炭粒を含む人為堆積	12 世紀	５号溝跡と方角が近い

第３表　土坑類観察表　　計測値の単位：m

遺構名	位置	規模 長軸／短軸／深さ	形状 底面	埋　土	時期	その他
１号土坑	東側	0.9/0.8/0.4	隅丸方形	地山ブロックを多く含む人為堆積	12 世紀	かわらけ
２号土坑	東側		円形か	黒褐色土主体の自然堆積	不明	
３号土坑	西側	1.5/ /0.2	不整円形	黒褐色土主体の自然堆積か	不明	
４号土坑	西側	(0.7) /0.5/0.2	長円形	褐色土の単層だが人為堆積の可能性あり	12 世紀の可能性あり	

第４表　柱穴観察表

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P01	35.0	(15.7)	21.4	P27	(34.8)	(13.3)	10.9
P02	27.4	24.8	28.6	P28	(23.4)	22.0	21.8
P03	68.3	35.9	9.4	P29	19.2	(12.3)	16.9
P04	30.5	27.0	11.4	P30	28.3	(24.3)	11.6
P05	32.4	25.7	18.6	P31	22.2	20.0	14.0
P06	44.0	31.1	10.5	P32	27.3	21.2	12.5
P07	27.7	26.9	22.1	P33	33.3	30.6	25.3
P09	27.1	25.5	13.0	P34	23.8	17.5	11.2
P10	36.3	32.3	12.2	P35	40.5	28.2	23.3
P11	46.7	31.4	7.0	P36	41.2	38.5	15.8
P12	19.1	(16.4)	20.0	P37	19.9	15.0	11.9
P13	36.0	22.2	10.9	P38	31.0	(18.7)	18.4
P14	44.5	43.5	19.8	P39	30.0	(19.0)	28.5
P15	32.6	32.5	13.9	P40	(23.7)	(19.8)	15.0
P16	63.7	53.3	28.4	P41	62.8	60.1	54.7
P17	21.2	16.3	9.4	P42	82.4	(61.7)	12.9
P18	28.5	24.4	7.0	P43	40.0	28.5	35.9
P19	23.5	17.0	10.6	P44	(20.7)	22.3	18.3
P20	46.2	36.5	13.2	P45	30.0	27.3	12.0
P21	17.0	13.7	13.1	P46	25.0	19.6	15.5
P22	21.7	19.0	15.3	P47	31.7	(24.1)	19.3
P23	37.4	34.7	23.2	P48	15.4	13.8	14.2
P24	25.6	(19.6)	42.6	P49	19.9	16.0	12.6
P25	(11.1)	(21.8)	15.8	P50	22.1	(21.6)	33.5
P26	(32.5)	(27.9)	15.1	P52	29.0	24.3	23.1

2016本文１-第648集.indd　25　　16.1.21　1:18:00 PM

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P53	21.7	19.2	15.8	P115	38.8	32.9	29.5
P54	34.4	28.8	15.4	P116	32.4	29.9	55.1
P55	20.3	18.7	13.4	P117	(36.2)	27.8	14.3
P56	29.0	26.0	41.7	P118	29.8	27.5	62.1
P57	19.2	17.4	28.7	P119	30.8	27.8	13.9
P58	24.0	21.7	20.9	P120	33.5	25.7	26.6
P59	43.0	(16.9)	14.1	P121	22.9	20.7	31.1
P60	35.2	34.6	9.0	P122	37.4	37.3	27.5
P61	28.9	24.6	18.6	P123	30.9	24.9	34.2
P62	28.3	23.8	16.5	P124	32.7	32.1	49.0
P63	47.1	43.1	23.7	P125	38.5	30.5	57.8
P64	56.4	43.3	29.6	P126	25.0	22.7	25.1
P65	29.1	25.9	26.2	P127	33.6	28.6	16.3
P66	22.5	20.9	31.6	P128	24.2	(20.2)	22.1
P67	25.5	44.2	60.7	P129	28.9	26.7	23.6
P68	35.0	21.1	14.2	P130	24.9	23.7	47.2
P69	22.7	21.9	42.3	P131	64.1	46.4	50.7
P70	25.1	(22.7)	34.8	P132	40.0	36.9	22.7
P71	40.8	31.8	24.0	P133	45.9	42.7	38.5
P72	40.1	24.0	42.2	P134	31.8	26.5	29.7
P73	(26.4)	31.7	4.9	P135	51.7	36.2	76.9
P74	29.7	25.3	28.5	P136	28.3	24.3	32.4
P75	28.6	21.5	35.1	P137	49.0	43.3	6.9
P76	34.0	26.6	7.4	P138	23.2	19.8	12.5
P77	36.5	31.8	4.4	P139	(19.7)	24.4	47.1
P78	40.3	37.3	32.9	P140	36.6	36.0	29.5
P79	24.1	23.5	18.7	P141	30.9	27.5	57.9
P80	23.5	17.9	8.7	P142	29.9	26.6	50.1
P81	64.6	(15.1)	18.6	P143	46.5	(27.6)	70.5
P82	22.0	16.7	12.0	P144	30.5	21.7	16.2
P83	32.9	27.0	17.4	P145	21.4	22.2	13.6
P84	52.1	19.1	16.5	P146	26.9	26.6	43.9
P85	26.1	26.0	25.0	P147	27.1	24.7	54.0
P86	31.8	24.8	30.8	P148	23.8	19.7	29.4
P87	23.4	22.0	30.6	P149	28.3	26.8	8.4
P88	20.8	19.7	28.7	P150	35.1	33.9	23.1
P89	29.3	25.2	44.5	P151	22.0	17.6	47.2
P90	(38.4)	33.5	37.5	P152	20.5	16.6	33.0
P91	48.3	41.8	56.0	P153	23.4	21.7	33.8
P92	(22.5)	17.2	17.9	P154	(14.5)	16.6	25.1
P93	22.6	(19.5)	9.2	P155	24.5	23.2	39.2
P94	42.6	31.8	52.3	P156	24.3	24.0	16.7
P95	25.8	(16.8)	49.2	P157	31.5	28.9	54.9
P96	(92.8)	62.6	97.9	P158	48.4	28.6	59.3
P97	24.9	21.6	11.7	P159	22.9	22.2	48.3
P98	28.1	(15.1)	49.6	P160	26.4	(26.1)	35.5
P99	29.8	(26.6)	28.4	P161	28.9	27.7	58.1
P100	24.3	23.6	44.7	P162	15.1	12.9	50.0
P104	14.0	9.8	9.5	P163	33.6	(26.6)	16.7
P105	12.1	8.9	6.6	P164	23.8	21.9	59.6
P106	41.6	(31.2)	28.4	P165	52.9	33.4	57.7
P107	29.2	20.4	41.1	P166	23.2	(9.5)	42.7
P108	27.4	20.3	23.6	P167	15.6	13.2	20.1
P109	26.4	19.6	14.1	P168	32.1	22.9	26.2
P110	35.8	32.7	40.2	P169	36.5	24.3	43.8
P111	24.2	20.7	23.7	P170	25.4	(24.0)	24.6
P112	29.9	31.8	42.3	P171	20.1	20.1	10.4
P113	24.1	22.2	31.0	P172	21.5	19.9	25.1
P114	30.8	28.5	16.6	P173	20.1	16.9	27.5

2016本文１-第648集.indd　26　　16.1.21　1:18:00 PM

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P174	42.4	33.7	8.7
P175	22.6	(13.9)	41.5
P176	20.2	18.5	24.9
P177	22.3	18.1	24.0
P178	13.9	12.3	10.5
P179	24.4	21.4	22.0
P180	19.8	10.8	8.2
P181	26.0	20.1	15.5
P182	33.5	30.4	55.9
P183	27.1	23.3	36.5
P184	57.6	44.1	25.5
P185	16.3	13.1	13.2
P186	24.3	(24.2)	23.3
P187	15.2	12.4	15.1
P188	29.7	26.3	29.4
P189	47.4	32.4	34.4
P190	16.1	14.2	15.1
P191	17.0	13.5	15.3
P192	35.2	30.6	38.3
P193	48.1	40.5	55.9
P194	10.0	5.9	−
P195	7.4	3.8	−
P196	(5.9)	4.1	−
P197	(8.1)	11.8	8.7
P198	(35.7)	(51.9)	54.6
P199	67.7	62.0	81.5
P200	31.6	29.0	47.3
P201	33.9	28.0	33.8
P202	27.8	24.0	35.7
P203	25.0	21.7	31.8
P204	42.6	40.0	51.9
P205	23.3	21.3	15.3
P206	32.9	25.4	12.9
P207	(21.6)	20.7	11.6
P208	(33.6)	33.7	17.2

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P209	44.4	38.9	15.3
P210	31.5	14.6	21.5
P211	(44.6)	(45.8)	43.6
P212	(30.1)	28.2	12.7
P213	30.3	28.2	16.7
P214	32.1	22.1	35.0
P215	46.2	36.4	41.7
P216	(53.1)	50.8	35.8
P217	24.2	20.0	20.9
P218	31.8	28.0	9.3
P219	(23.0)	20.3	4.0
P220	(35.8)	20.0	4.5
P221	(36.1)	27.8	2.9
P222	32.1	27.4	13.4
P223	51.3	39.7	25.0
P224	51.8	28.8	16.4
P225	34.8	27.0	31.5
P226	(62.4)	41.5	29.4
P227	57.6	49.0	88.5
P228	41.5	28.3	49.7
P229	42.3	41.2	58.1
P230	44.9	44.2	37.3
P231	63.0	51.1	45.6
P232	26.4	21.1	22.6
P233	22.5	18.1	8.8
P234	51.6	48.7	78.0
P235	54.9	43.5	45.5
P236	56.1	48.6	29.5
P237	14.5	11.1	24.8
P238	24.5	21.0	33.5
P239	44.6	40.6	13.5
P240	60.7	56.7	39.7
P241	28.2	29.8	26.2
P242	59.1	48.0	41.4

第５表　かわらけ観察表

掲載番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値（cm）			備考
				口径	底径	器高	
1	1号堀跡埋土下位	手づくね大	1段ナデ	(14.8)		2.4	
2	1号堀跡埋土下位	手づくね大	1段ナデ	(13.9)		3.1	
3	1号堀跡埋土上・下位	手づくね大	1段ナデ	13.8		3.0	口径最大 14.3 cm
4	1号堀跡埋土下位	手づくね大	1段ナデ面取り	13.7		2.8	歪みあるが完形　スノコ痕
5	1号堀跡埋土下位	手づくね大	二段ナデ面取り	(15.0)		2.7	口径大きい古いかわらけ？
6	1号堀跡埋土下位	手づくね大	二段ナデ面取り	14.0		3.0	
7	1号堀跡埋土下位	ロクロ大		(14.0)	(8.4)	4.2	底部回転糸切痕
8	1号堀跡埋土下位	手づくね小	1段ナデ	(9.6)		2.2	内面煤付着
9	1号堀跡埋土上・下位	手づくね小	1段ナデ面取り	9.0		2.0	
10	1号堀跡埋土下位	手づくね小	1段ナデ面取り	(9.8)		1.7	
11	1号堀跡埋土下位	ロクロ			(4.2)	(2.6)	柱状高台
12	1号土坑埋土	手づくね大	1段ナデ	(14.6)		2.8	口径大きいのが気になる

2016本文１-第648集.indd　27　　16.1.21　1:18:01 PM

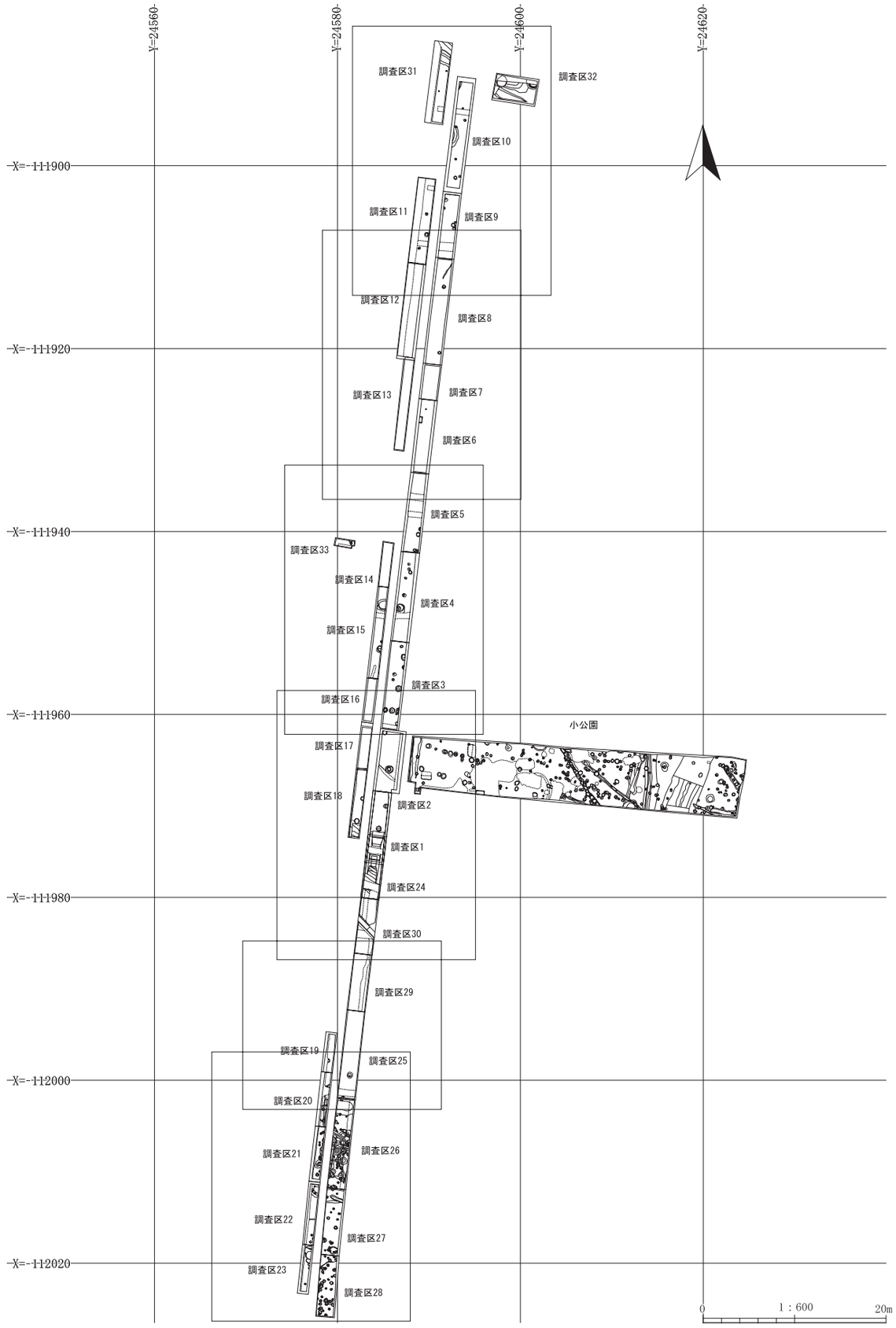
第６表　陶磁器観察表

掲載番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
13	1号堀跡埋土上位	渥美	甕	胴部	12世紀	埋土下位・遺構外と接合
14	1号堀跡埋土中　埋土上位と接合	渥美	甕	胴部	12世紀	
15	1号堀跡埋土上位	渥美？	甕	胴部	12世紀	遺構外と接合
16	1号堀跡埋土上・下位と接合	渥美？	甕	胴部	12世紀	
17	1号堀跡埋土下位	渥美	甕	胴部	12世紀	埋土上・下位と接合
18	1号堀跡埋土下位	渥美？	壺？	胴部	12世紀	
19	1号堀跡埋土下位	渥美	甕	胴部	12世紀	
20	1号堀跡埋土上位	渥美	甕	胴部	12世紀	埋土下位・遺構外と接合
21	1号堀跡埋土中	渥美	甕	胴部	12世紀	埋土上位と接合
22	2号土坑	常滑	甕	胴部	12世紀	
23	遺構外	渥美	甕	口縁部	12世紀	
24	1号堀跡埋土下位	常滑	甕	頸部	12世紀	
25	1号堀跡埋土下位	常滑？	甕	胴部	12世紀	
26	1号堀跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
27	1号堀跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
28	1号堀跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	
29	1号堀跡埋土下位	常滑	甕	胴部	12世紀	遺構外と接合
30	1号堀跡埋土上・下位と接合	常滑	甕	胴部	12世紀	
31	1号堀跡埋土上位	常滑	甕	胴部	12世紀	遺構外と接合
32	1号堀跡埋土上位	常滑	甕？	底部	12世紀	釉薬の痕あり
33	1号堀跡埋土下位	常滑？	甕	底部	12世紀	漆みたいなこびりつきあり
34	1号堀跡埋土上・下位	常滑	片口鉢	底部	12世紀	器高（4.5）底径（13.5）
35	撹乱	常滑？	甕	胴部	12世紀	
36	1号堀跡埋土下位	須恵系	壺？	肩部	12世紀	
37	1号堀跡埋土中	須恵系		胴部	12世紀	
38	1号堀跡埋土下位	須恵系	壺？	肩部	12世紀	
39	1号堀跡埋土上位	須恵系	壺？	頸部	12世紀	
40	1号堀跡埋土下位	須恵系	甕	胴部	12世紀	
41	遺構外	須恵系	甕	胴部	12世紀	
42	2号溝跡埋土	白磁	四耳壺	胴部	12世紀	
43	1号堀跡埋土下位	白磁		胴部	12世紀	
44	遺構外	白磁		胴部	12世紀	
45	1号堀跡埋土上位	青磁		胴部	12世紀	
46	遺構外	青磁		胴部	12世紀	

第７表　石器類観察表

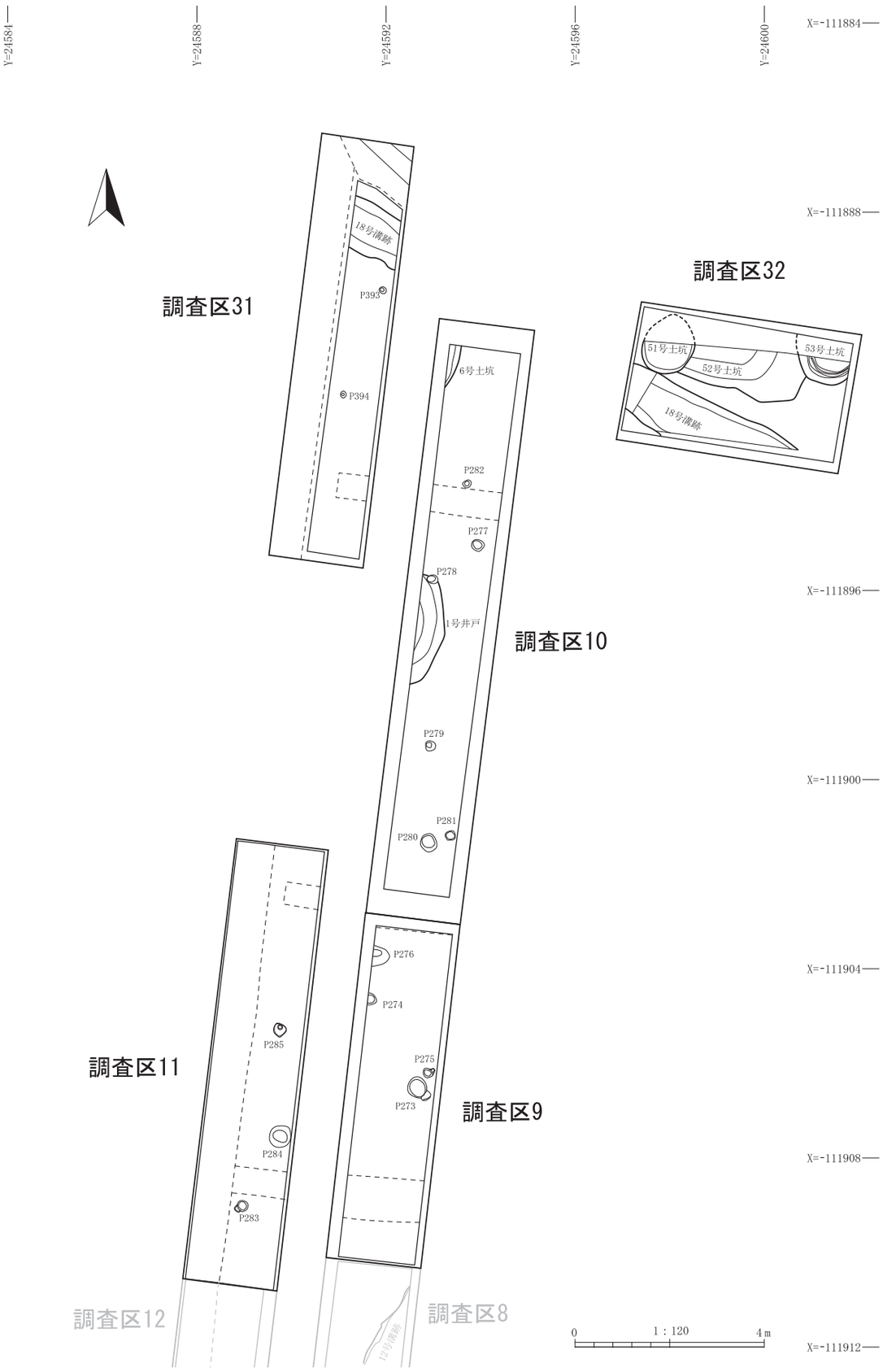
掲載番号	出土位置、層位	種類	計測値（cm）			重量	備考
			長さ	幅	厚さ	g	
47	遺構外	石鏃	2.70	1.30	0.40	1.20	
48	1号堀跡埋土	スクレイパー	(1.70)	(1.50)	0.50	1.16	
49	1号堀跡埋土下位	不明	(11.50)	(7.50)	(1.90)	121.60	煤付着　小
50	1号堀跡埋土下位	不明	(15.20)	(12.00)	(3.10)	627.70	煤付着　大
51	1号堀跡埋土下位	不明	(8.40)	(6.00)	1.40	70.40	煤付着
52	1号堀跡埋土上位	不明	(19.30)	(8.40)	(1.60)	209.28	煤付着

2016本文１-第648集.indd　28　　16.1.21　1:18:02 PM



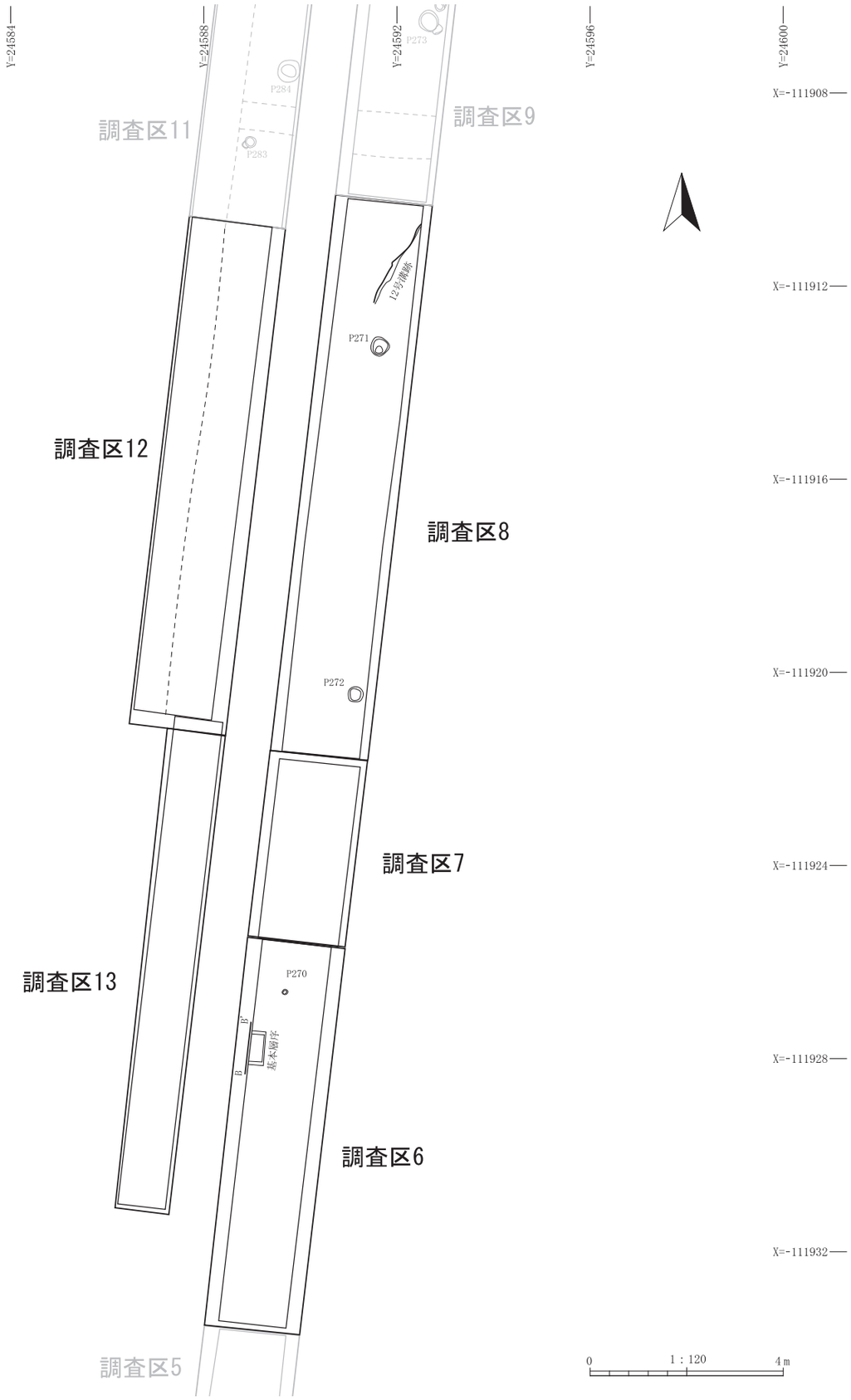
第21図　遺構配置図①

2016本文１-第648集.indd　29　　16.1.21　1:18:02 PM



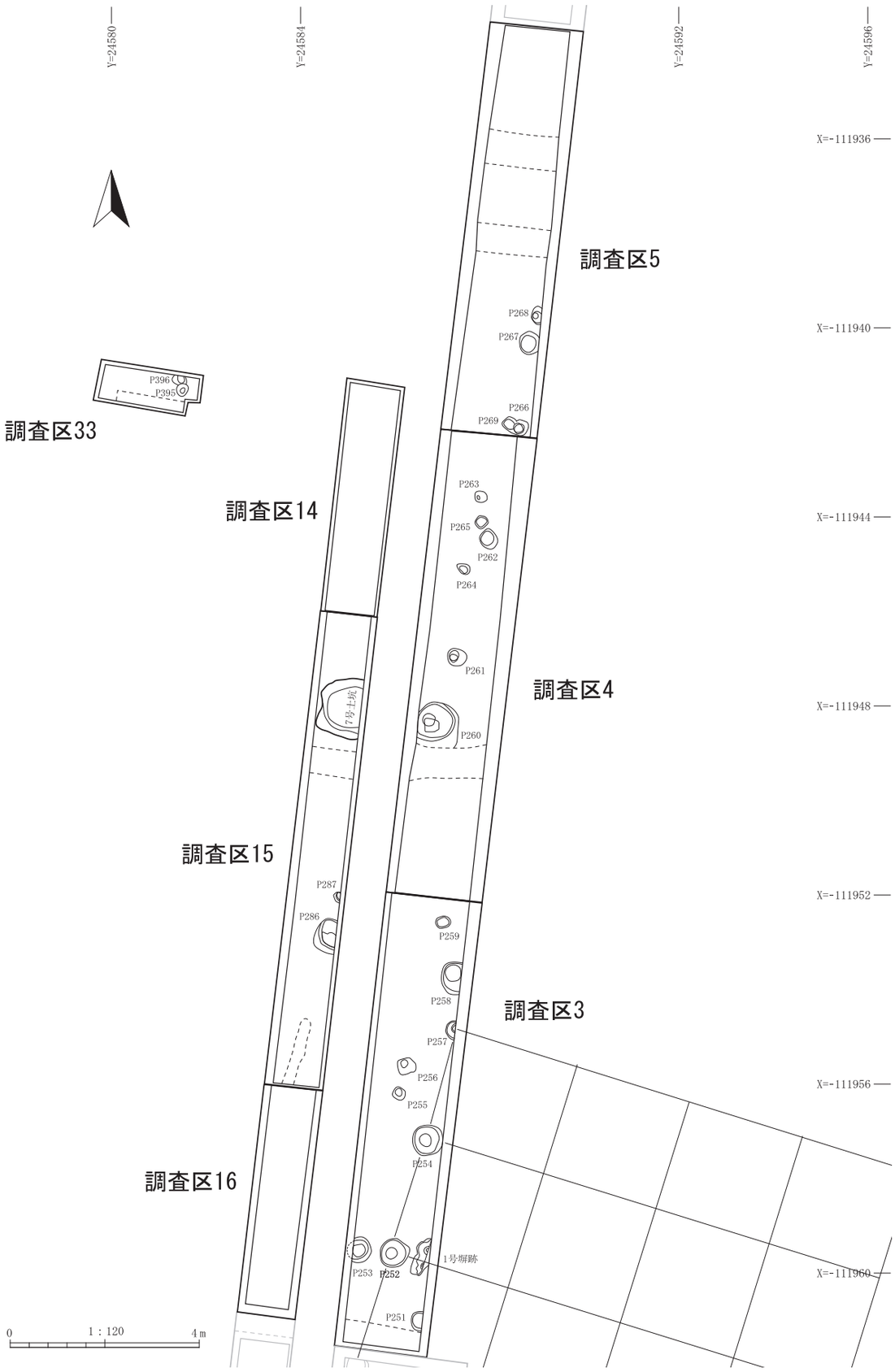
第22図　遺構配置図②

2016本文１-第648集.indd 30　16.1.21 1:18:03 PM



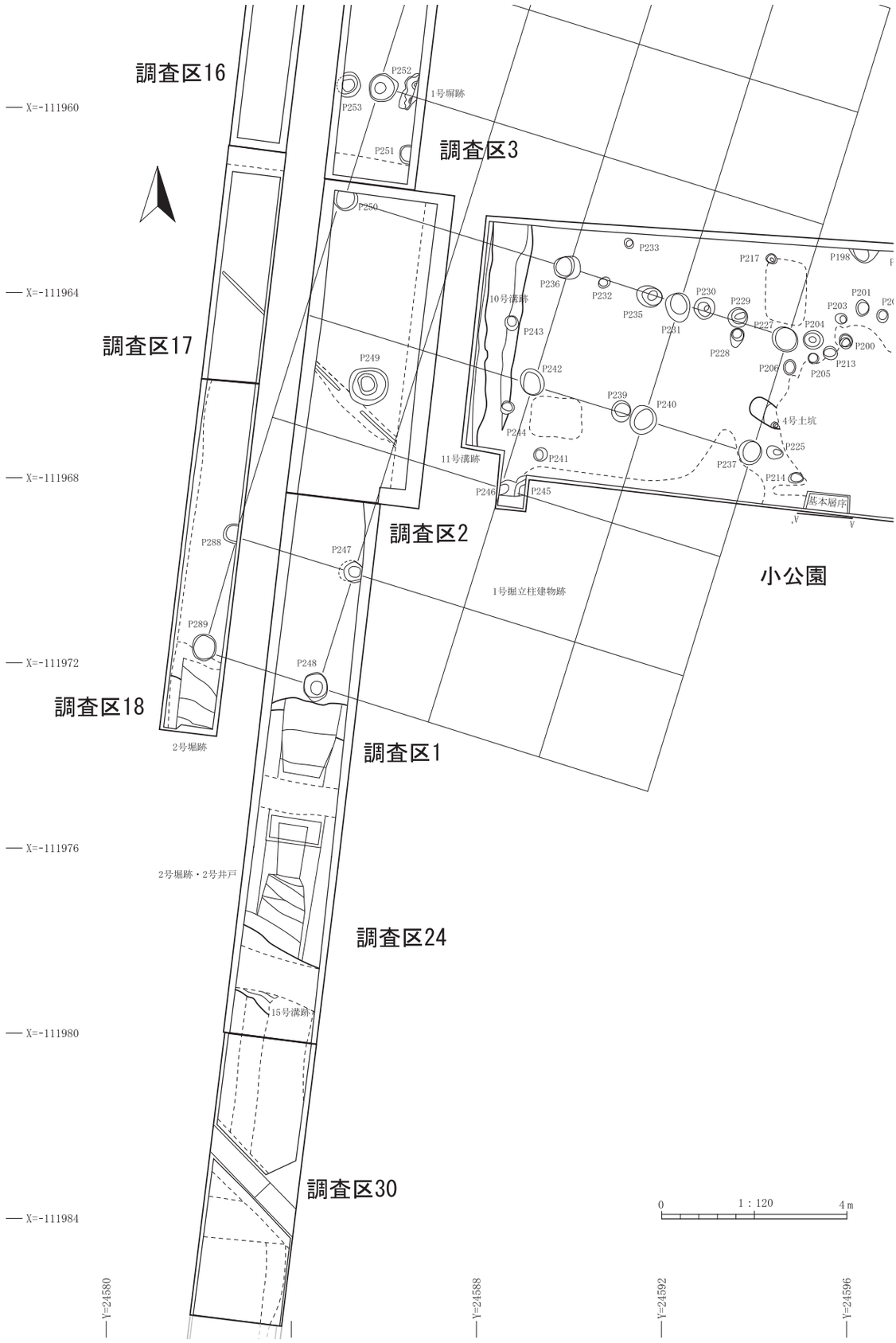
第23図　遺構配置図③

2016本文１-第648集.indd　31　　16.1.21　1:18:04 PM



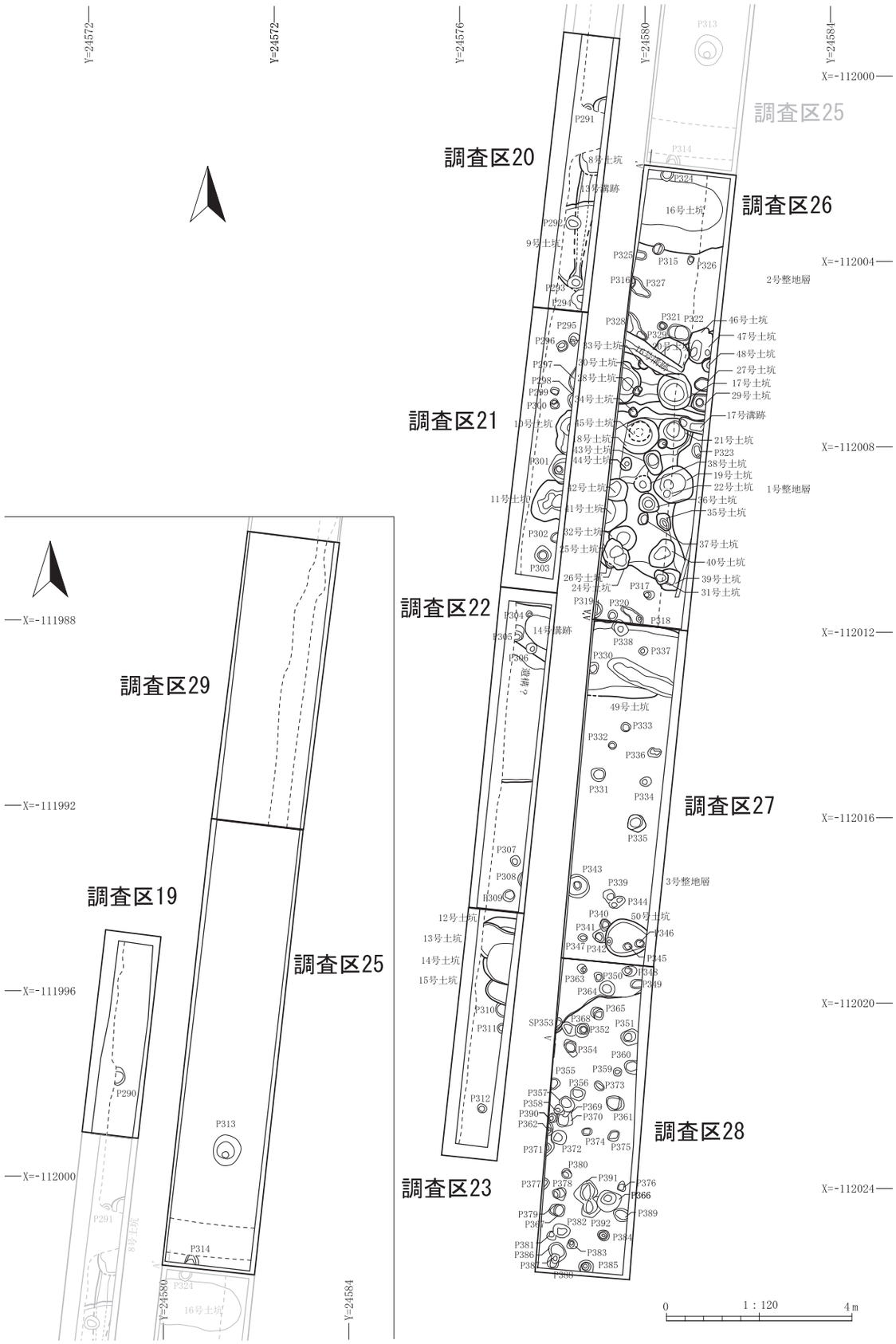
第24図　遺構配置図④

2016本文１-第648集.indd 32
16.1.21 1:18:04 PM



第25図　遺構配置図⑤

2016本文１-第648集.indd　33　　16.1.21　1:18:05 PM



第26図　遺構配置図⑥

2016本文１-第648集.indd 34　16.1.21 1:18:05 PM

Ⅴ　伽羅之御所跡第 23 次調査

1　概　　要

遺跡は西磐井郡平泉町平泉字花立地内及び字伽羅楽地内にある。遺跡の範囲は東西約 200 m×南北約 100 mと広く、調査区現況は片側１車線の県道となっている。調査区を１～ 33 に分けて調査した。遺跡としての伽羅之御所跡の西端部を細長く細長く調査したことになる。

第 23 次調査で検出された遺構は堀跡１条、溝跡８条、塀跡１条、井戸跡２基、土坑 48 基、、粘土採掘跡１箇所、整地層１箇所、柱穴 153 個が検出された。県道及びその下に埋設されていた下水管・水道管などにより遺構の多くが削平されており残りは悪かった。

2　基　本　層　序

遺跡の層序は各調査区により異なる。ここでは県道の下で記録を取った調査区６での土層を挙げる。

Ⅰａ層　水道管埋設時の土、120 ㎝。水道管は新旧二本入っていた。道路路盤（砂・石）55 ～ 65 ㎝。

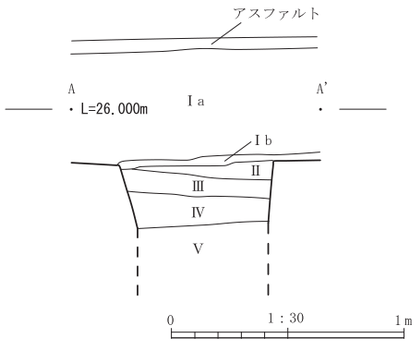
Ⅰｂ層　暗褐色土　砂混じる。近代以降の盛土。５～ 15 ㎝。

Ⅱ層　黄褐色砂質土　５～ 20 ㎝　地山。遺構検出面。

Ⅲ層　にぶい黄色粘土　５～ 15 ㎝前後。地山。

Ⅳ層　黄褐色砂質土　20 ～ 30 ㎝　地山。

Ⅴ層　浅黄色土　10 ㎝以上　地山。



第 27 図　基本土層

3　検　出　遺　構

（1）堀　　跡

２号堀跡（第 28 図、写真図版 16・17・23・27）

＜位置・検出状況＞調査区１・18・24 にあり地山面にて検出している。検出段階では他の遺構との重複関係は見られなかった。しかし北側には１号掘立柱建物跡が接するようにある。先ずは小トレンチを設け、断面で各遺構との重複関係を確認しつつ精査に入った。県道下には上下水道や排水溝が横断していたりで、調査の不可能な場所が多くあった。

＜規模･形状＞検出面（Ⅱ層）での上幅は 5.1 m、下幅 1.9 m、深さが１８ｍあり、方向はＮ -67°　- Ｅ。断面形は逆台形に近い形状になりそうである。壁面は所々で崩落とみられる凹凸があった。そのせいか上場のラインが非常にわかりにくかった。

＜埋土・重複関係＞底面付近は自然堆積で植物遺存体を少し含んでいた。埋土中位には地山ブロックを多く含む層が見られる。これは人為堆積層の可能性が高く、２号堀跡が廃絶した段階に埋め戻された時の土砂と考えている。埋土の上位は、堀跡が廃絶した後に自然に堆積したものと推察される。重複はしていないが、１号掘立柱建物跡とは接するように近い。堀内の壁面にこの建物跡の柱穴が伸びてく

2016本文１-第648集.indd　35　　16.1.21　1:18:07 PM

るとも考えて精査したが見つからなかった。一方、２号井戸跡とは重複関係にあり井戸跡よりは新しい。
＜出土遺物・時期＞（第 34 図、写真図版 35）
かわらけが 1370.4 ｇ出土している。手づくねかわらけ（１）の器高はあまり高くないので 12 世紀後半のものであろう。国産陶器では渥美・常滑産陶器が出土している。
＜性格＞隣接する無量光院跡の西辺には土塁と堀が現存している。土塁が内側、堀が外側で両者は接するように北北東 - 南南西方向に延びている（Ｎ－ 10°－Ｅ）。この現存する堀・土塁の方向と本遺構の主軸方向は概ね 90 度で一致している。このことから本遺構は「伽羅御所」と「無量光院」の南辺をを区画していた堀跡である可能性が高い。

２号堀跡のすぐ南側には 15 号溝跡が同じ方向に延びている。見つかった時点では２号堀跡と並行する道路跡の側溝ではないかと考えていたが対になる溝跡が見つからなかった。そのため道路側溝の可能性は低いと言わざるを得ない。しかしながら溝跡の周辺は他と異なり遺構が殆ど検出されなかった。遺構の無いこと自体に何か意味があるのだろう。ここは建物や井戸、土坑をつくらない場所であった可能性がある。通称「中道」と呼ばれる町道は 12 世紀からの古道であるとの伝承がある。この遺構空白地帯はと「中道」とはほぼ一致する位置関係にある。

（2）掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（第 12 図、写真図版 5）

南北７間、東西４間の総柱建物と推定される。22 次調査で検出され、今回の調査でもその続きが調査区１～３で見つかっている。これよりも西側へは広がらない。北側は調査区外になるため不明であるが、これ以上建物規模が大きくなることは他の平泉で見つかっている 12 世紀の掘立柱建物跡の例からも考えにくい。同様の理由から南側へも展開しないであろう。建物の詳細についてはⅣ章にまとめている。

（3）井戸跡、土坑

井戸跡、土坑については一覧表に整理しているのでここでは代表的な遺構のみ記載している。

１号井戸跡（第 33 図、写真図版 20）
＜位置＞遺跡北端部にあたる調査区 10 にあり、地山面で検出された。
＜規模・形態＞西側の多くが調査区外にあるため全容は把握できていない。南北方向で上幅 2.6 ｍ程、深さは 1.0 ｍ以上ある。平面形は円形になりそうである。開口部は広いがその下は径 1.2 ｍ程になり、ほぼ垂直に下がると考えられる。
＜埋土＞地山ブロック中小粒を不規則に含む人為堆積である。
＜重複関係＞なし。
＜出土遺物・時期＞遺物は出土していないが、周辺の状況から 12 世紀の可能性がある。

２号井戸跡（第 28 図、写真図版 27・28）
＜位置＞調査区中央にあたる調査区 24 にあり、２号堀跡の精査中に検出された。
＜規模・形態＞西側の多くが調査区外にあること、２号堀跡と重複していること等から全容は把握できていない。南北方向で下幅 1.6 ｍ程、深さは 1.2 ｍ以上ある。平面形は方形になりそうである。開口部は広がりそうであるがその下は径 1.6 ｍ程になり、壁はほぼ垂直に下がっている。底面も平坦であった。
＜埋土＞最下位層は植物遺存体を含む自然堆積層、その上は粘土ブロックを多く含む人為堆積層であった。
＜重複関係＞２号堀跡よりも古い。
＜出土遺物・時期＞遺物は出土していないが、２号堀跡との重複関係から 12 世紀後半よりも古い遺

2016本文１-第648集.indd 36　16.1.21 1:18:07 PM

構となる。
＜その他＞嘗ての地表面からは約 2.5 mとあまり深くはないので、土坑或いはトイレ状遺構の可能性もある。
土坑（第 29・30 図、写真図版 21 ほか）
12 世紀代の土坑とそれ以降のものとに大別される。調査区 26 及びその周辺からは小土坑が密集して見つかっている。これは粘土採掘跡であるので後述する。ここでは代表的な 12 世紀の土坑について記載する。
　5 号土坑は規模の大きな掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。11 号土坑からは多量のかわらけ片が出土した。かなり細かく割れたものが多かったが中には形を留めていた個体も 17 点程あった。かわらけの多くはかわらけの小皿で、かわらけ大皿は僅かしか含まれていなかった。埋土は炭粒を多く含む土で、細かく割れた破片は殆ど接合しない状態であった。この土坑に廃棄される前は、炭混じりの土と共に別の場所にあったのであろう。一括性の極めて高い資料である。何れもⅡ層面での検出である。

（4）溝 跡 ・ 塀 跡

　8 条の溝跡と 1 条の塀跡を検出している。12 世紀と見られるもの、時期不明・近現代の可能性のあるものとに分けられる。調査区が狭いため全体の分かる遺構はない。其々の特徴については観察表にまとめた。
　1 号塀跡は残りが良くないので詳細は不明なのだが、底面付近に板を並べて据えたような痕跡が認められたため塀跡の可能性があると判断した。何れの遺構もⅡ層の地山上面で見つかっている。

（5）その他の遺構

1 号粘土採掘跡（第 26 図、写真図版 29 ほか）
＜位置＞遺跡南東部の調査区 26 を中心に隣の調査区 21 までひろがっている。地山面で検出した。
＜規模・形態など＞狭い調査区であるため正確な規模は分からないが東西 4 m、南北 7 mの範囲に径 0.6 ～ 1.0m 程、深さ 0.4 ～ 0.6 m程の土坑が互いに接するように密集して分布している。確認した土坑の数は 18 基である。何れの土坑も基盤層中に部分的に見られる粘土層を掘り込んでいた。粘土層よりも深い部分まで掘り込まれる土坑は無かった。
＜埋土＞土坑群は地山ブロックを主体とする土で埋め戻されている。
＜重複関係＞それぞれの土坑間の重複関係はあまりにも複雑なため把握できなかった。16 号溝跡も本遺構より新しいものの、大きな時期差はないようである。
＜出土遺物・時期＞かわらけ細片が出土している。12 世紀。
＜その他＞平泉拠点地区では粘土採掘跡の事例は殆ど無い。
1 ～ 3 号整地層（第 33 図、写真図版 31）
1 号粘土採掘跡のすぐ上面にある。範囲としては粘土採掘跡を中心に南北 12 m、東西 2 m以上となる。個々の土坑も埋め戻されているが、粘土採掘跡全体も厚さ 0.1 ～ 0.2 mの土砂で埋め戻されていた。この部分を 1 号整地層、粘土採掘跡よりも北側で 16 号土坑などを覆っているのが 2 号整地層、更に北側の調査区 27 にあるものを 3 号整地層と分けているが、全て同じ地業と考えられそうである。時期は含まれるかわらけ片から 12 世紀である。

（6）柱　　穴

　153 個の柱穴をⅡ層面で検出した。調査区が狭いため全容は不明であるものの多くは掘立柱建物跡を構成する可能性が高い。詳しい用途を想定できたものはない。特徴については計測表に整理した。

2016本文 1 -第648集.indd　37　　16.1.21　1:18:08 PM

4　出　土　遺　物

遺構内外から12世紀に属する遺物としてかわらけ、国産陶器、中国産磁器、羽口、鉄釘、木製品が、近世以降の遺物として銭貨が出土している。遺構内出土を中心に代表的な遺物を掲載しているが、個々の特徴については遺物観察表に整理した。

（1）か　わ　ら　け（第34・35図、写真図版35・36）

遺構内外から671.40 g出土している。その中から遺構内出土の51点を掲載した。２号堀跡からはごく微量しかかわらけが出土していない。１の手づくねかわらけ大皿は口径が14.4 cmあるが、器高は2.45cmとあまり高くはない。６号土坑出土の３は底径が広く器高も高くてやや古手の可能性がある。11 ～ 30は11号土坑に廃棄されていた一括資料である。出土量の主体はロクロかわらけの小皿、次いで手づくねかわらけの小皿、そしてロクロかわらけの大皿の順で手づくねかわらけ大皿は細かく割れた破片の中にあるかもしれないが、はっきりと分類できる個体は無かった。ロクロかわらけの小皿、手づくねかわらけの小皿は共に歪みの大きな個体が目立った。中には実際に使うのにはかなり不安定なものも多い。31 ～ 51も遺構内出土であるが口径は13 cmを超えるやや大きなものもあるが、器高は低い個体が殆どで何れも12世紀後半の可能性が高い。

個々の特徴は観察表にまとめている。

（2）陶　磁　器（第35 ～ 37図、写真図版37・38）

国産陶器は渥美産・常滑産・須恵器系陶器があり、出土量は渥美産・常滑産陶器が大半を占め、須恵器系陶器は少量である。甕・壺類が殆どで鉢類がごく僅かに見られる。碗類は出土していない。中国産磁器は白磁が主体で青磁が１点だけ出土している。青白磁や陶器はない。白磁は壺類が最も多く、次いで碗類となる。青磁は高台の無い碗である。

各個体の特徴は観察表に整理した。

（3）そ　の　他（第37図、写真図版38）

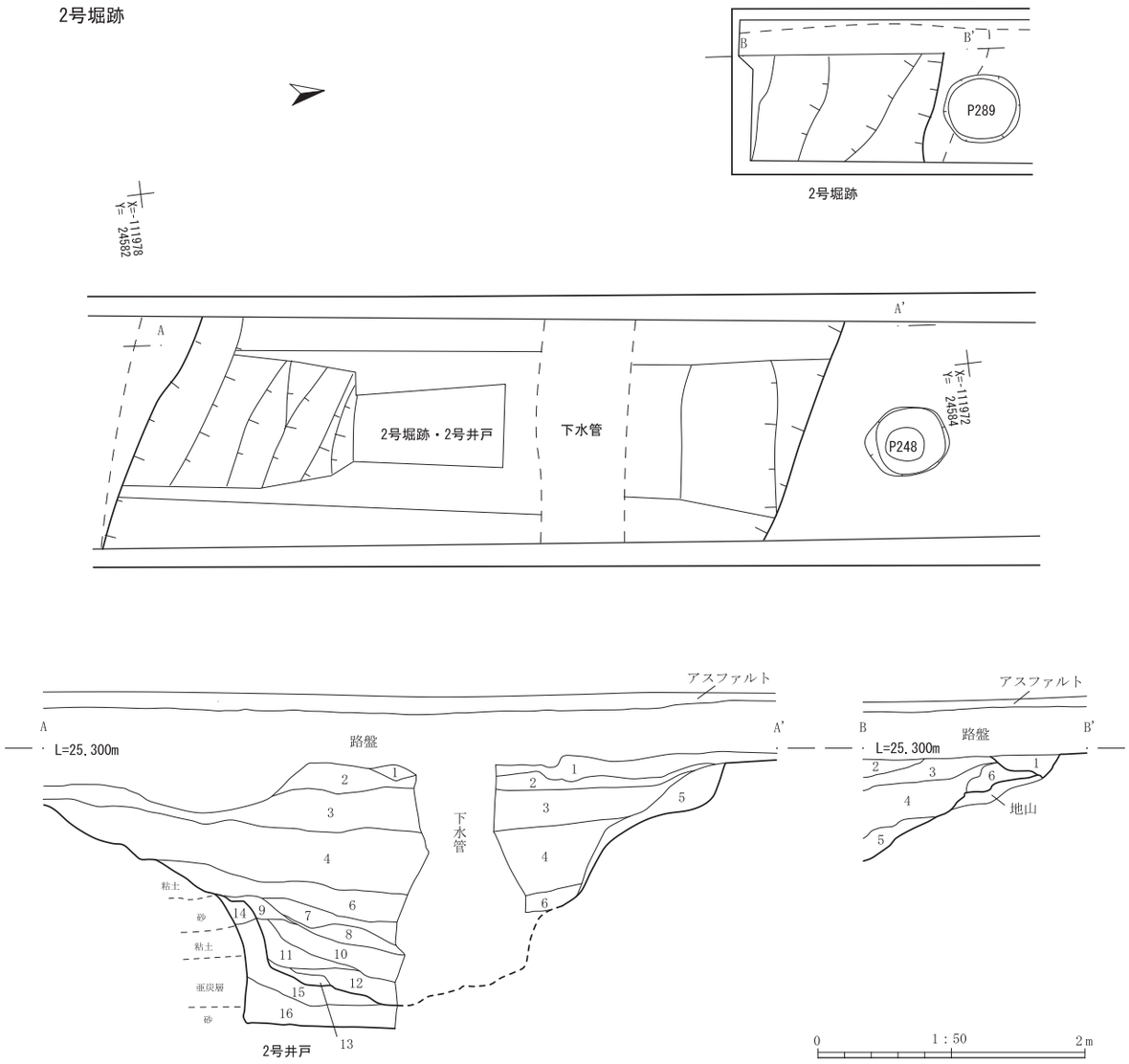
89は羽口で外面には溶解したものが付着している。90は鉄釘であろう。91は杉を使った部材であるが用途は不明である。端部も欠損はしていないと考えているが自信はない。92 ～ 95は銭貨である。

其々の遺物については観察表を作成しその特徴を記した。

第８表　堀跡・溝跡・塀跡観察表　　計測値の単位：m

遺構	調査区	規模　長さ／幅／深さ	方向	埋土、重複など	出土遺物　時期	その他
２号堀跡	1 18 24	－/5.1/1.8	N－67°－W	埋土の上位は砂と泥による自然堆積　埋土中位が人為堆積堆積　埋土下位は植物質を含む自然堆積となる。埋土下位が堀が機能していた段階のものか　遺物は少ない	かわらけ、国産陶器 12世紀後半	
１号塀跡	3	(0.8)/0.2/0.2	N－25°－E	人為堆積	12世紀と見られる	
10号溝跡	小公園	(4.0)／(1.5)/0.3	N－7°－E	黒褐色土の単層		
11号溝跡	小公園	(4.0)／(1.5)/0.3	N－7°－E	緑黒色土の単層		
12号溝跡	8	(2.5)/0.8/0.1	N－34°－E	人為堆積	時期不明　近現代の可能性も	
13号溝跡	20	(3.8)／(0.6)／－	－	人為堆積	12世紀と見られる	範囲が不明瞭
14号溝跡	22	(1.5)／(1.1)/0.2	N－53°－W	炭粒やかわらけ細片を含む人為堆積	12世紀	
15号溝跡	24	(1.0)／(0.5)/0.2	N－57°－W	自然堆積	12世紀と見られる	
16号溝跡	26	(2.5)/0.4/0.2	N－60°－W	砂と泥からなる自然堆積	12世紀と見られる	
17号溝跡						欠番
18号溝跡	31 32	(10.0)/1.0/0.5	N－60°－W	地山ブロックと炭粒を不規則に含む人為堆積	時期不明　近現代の可能性も	

2016本文１-第648集.indd　38　　16.1.21　1:18:08 PM



2号堀跡A-A'

1.	10YR4/1　褐灰色土	小砂利と砂を不規則に含む　現代　粘性やや有　締まっている……2号堀跡
2.	10GB2/1　青黒色土	自然堆積　12C　粘性有り　締まっている
3.	10GB3/1　暗緑灰色土	酸化鉄斑に有り　炭粒5%　自然堆積　12C　粘性有　締まっている…2号堀跡
4.	10YR4/2　灰黄褐色土	酸化鉄斑に有り　小礫1%　自然堆積　12C　粘性有　締まっている…2号堀跡
5.	10YR6/3　にぶい黄橙色粘土質土	褐灰色土ブロック少量　自然堆積　12C　粘性有　締まっている…崩落土
6.	2.5Y4/1　黄灰色土	地山ブロック50%　人為堆積　粘性やや有り　締まっている…2号堀跡
7.	2.5Y7/2　灰黄色粘土ブロック	褐灰色土20%　人為堆積　粘性有　締まっている…2号堀跡
8.	10YR4/1　褐灰色土	灰黄色粘土ブロック30%　自然堆積　壁が崩れて入ったのか 粘性有り　締まりやや有…2号堀跡
9.	5Y7/2　灰白色粘土	及び灰白色砂半々　自然堆積　粘性やや有　締まりやや有…2号堀跡
10.	5Y4/1　灰色泥	灰白色砂と薄い層を形成している　植物質遺物少量　自然堆積 粘性やや有　締まりやや有…2号堀跡
11.	5Y6/4　オリーブ黄色粘土ブロック	灰色土40%　人為堆積か　粘性やや有　締まりやや有…2号堀跡
12.	5Y5/1　灰色土	灰白色砂10%　植物細片5%　自然堆積　粘性やや有　締まり有…2号堀跡
13.	5Y6/2　灰オリーブ土	褐灰色土5%　粘性有　締まりやや有…2号堀跡
14.	5Y6/1　灰色砂	自然堆積か人為堆積かは不明　粘性無　締まりやや有…2号井戸
15.	10Y7/2　灰白色粘土ブロック	灰色土20%　人為堆積　粘性有　締まっている…2号井戸
16.	5Y4/1　灰色土	植物細片多量　自然堆積か　粘性有　締まりやや弱…2号井戸

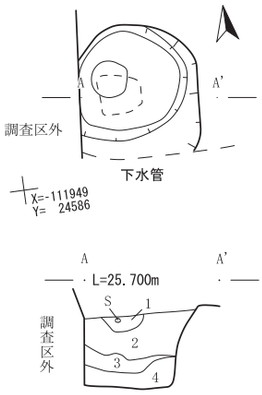
2号堀跡B-B'

1.	2.5Y8/4　淡黄色粘土	黄灰色土ブロック10～20%　粘性有　締まっている…近代撹乱
2.	10YR5/1　褐灰色土	自然堆積　粘性やや有　締まりやや有
3.	10YR4/1　褐灰色土	自然堆積　粘性やや有　締まりやや有
4.	10YR5/1　褐灰色土	酸化鉄を不規則に含む　炭粒少量　円礫少量　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有
5.	10YR4/2　灰黄褐色土	酸化鉄を含む　自然堆積　粘性有り　締まっている
6.	注記無	

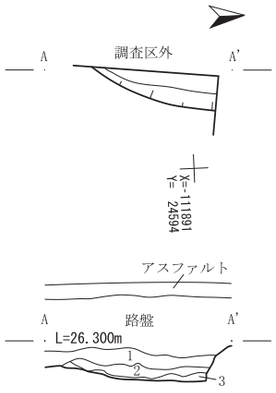
第28図　堀跡、井戸跡①

2016本文１-第648集.indd　39　　16.1.21　1:18:08 PM

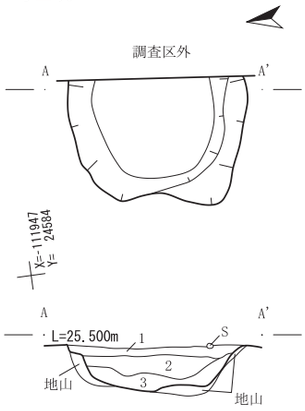
P260(=5号土坑)



6号土坑



7号土坑

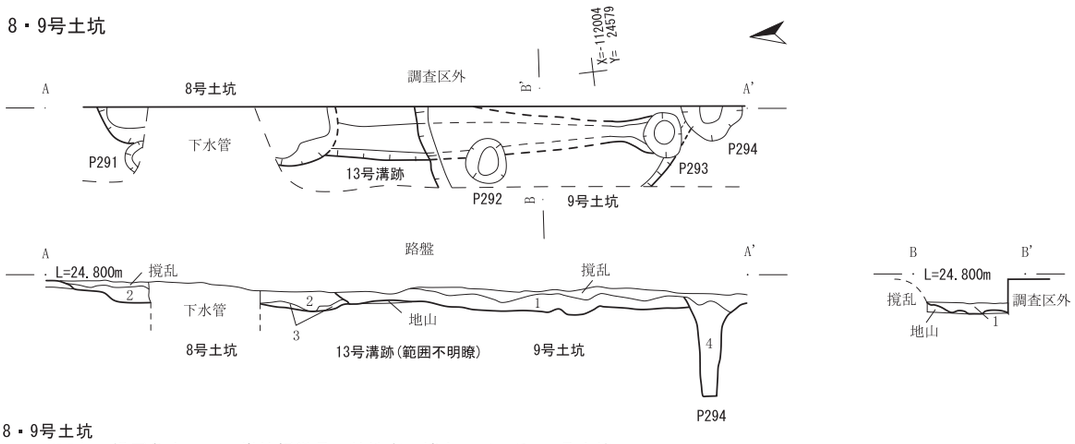


P260(＝5号土坑)
1. 10YR4/2　灰黄褐色土　　黄褐色土が薄く間に入る　自然堆積か　粘性やや有　締まりやや有
2. 10YR6/8　明黄褐色土ブロック　褐灰色土ブロック10%　灰白色粘土ブロック10%　人為堆積　粘性有　締まっている
3. 10YR4/1　褐灰色土ブロック　　灰白色粘土ブロック20%　粘性有　締まっている
4. 10YR8/2　灰白色粘土　　褐灰色土10%　人為堆積　粘性強　締まっている

6号土坑
1. 7.5Y4/1　灰色粘土質土　　炭粒微量　粘性有　締まっている…路盤(県道工事の影響を受けている)
2. 10YR6/3　にぶい黄橙粘土ブロック　灰白色粘土ブロック20%　炭粒10%　人為堆積　粘性有　締まっている
3. 10YR8/2　灰白色粘土ブロック　　その際間ににぶい黄橙色土ブロックが入る　炭粒微量　粘性有　締まっている

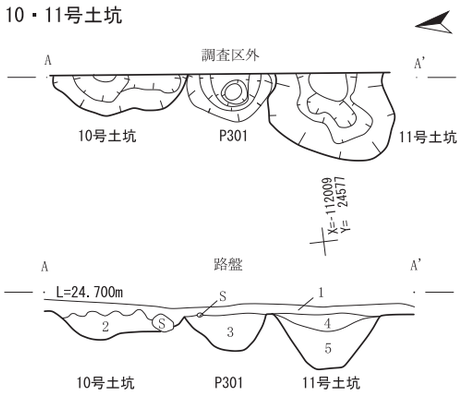
7号土坑
1. 2.5Y8/4　淡黄色粘土　　円礫微量　粘性有　締まっている　土坑埋土ではない
2. 10YR6/6　明黄褐色粘土　　及びにぶい黄褐色土　人為堆積　12Cであろう　粘性有　締まっている
3. 10YR5/1　褐灰色土ブロック　黄褐色土地山ブロック40%　炭粒極微量　人為堆積　12Cであろう　粘性有　締まっている

8・9号土坑



8・9号土坑
1. 10YR5/1　褐灰色土　　炭粒極微量　粘性有　締まっている…9号土坑
2. 2.5Y5/1　黄灰色土　　炭粒多量　人為堆積　粘性有　締まっている…8号土坑
3. 2.5Y7/6　明黄褐色粘土　褐色粘土ブロック少量　人為堆積　粘性有　締まっている…8号土坑
4. 2.5Y6/1　黄灰色土　　黄褐色土との混土　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有…P294

10・11号土坑

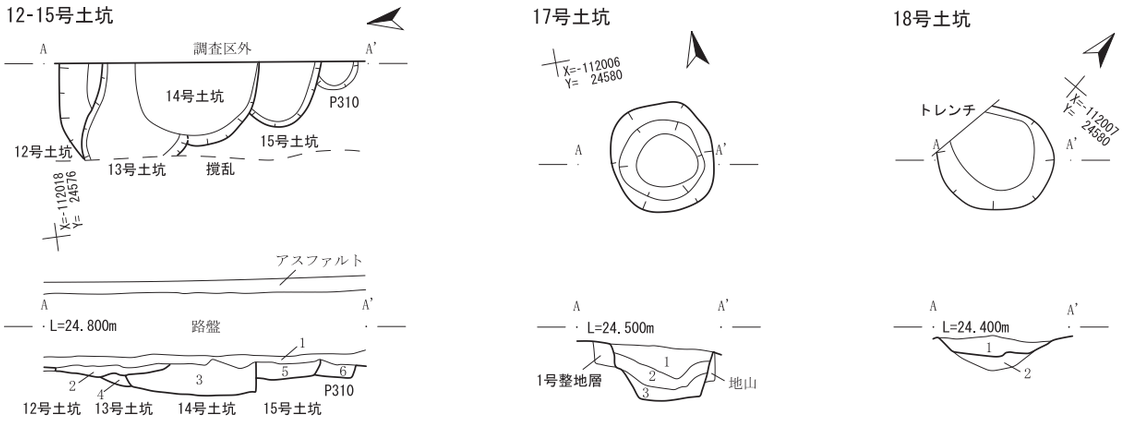


10・11号土坑
1. 10Y4/1　灰色土　　小礫多量　近代　粘性弱　締まっている
2. 2.5Y5/1　黄灰色土　地山ブロック多量　炭粒極微量　人為堆積
　粘性有　締まっている…10号土坑
4. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック少量　炭粒多量　一括廃棄カワラケ有
　粘性有　締まっている…11号土坑
3. 5Y5/1　灰色土　　地山ブロック多量　炭粒極微量　人為堆積　柱痕有
　粘性有　締まっている…P301
5. 10YR5/3　にぶい黄褐色土　地山ブロック小粒大量　炭粒微量
　カワラケ細片少量出土　人為堆積
　粘性有　締まっている…11号土坑
※柱穴だった場所に廃棄土坑を掘ったのかもしれない

0　1：50　2m

第29図　土坑①

2016本文１-第648集.indd　40　　16.1.21　1:18:09 PM



12-15号土坑

1. 10YR4/1　褐灰色土　小円礫多量　近代～　粘性やや有　締まっている
2. 10YR3/1　黒褐色土　炭粒多量　カワラケ細片多量　人為堆積　粘性やや有　締まっている…12号土坑(廃棄土坑)
3. 10YR3/2　黒褐色土　地山ブロック大量　炭粒微量　人為堆積　粘性やや有　締まっている…14号土坑
4. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック大量　炭粒微量　人為堆積　粘性やや有　締まっている…13号土坑
5. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック少量　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有…15号土坑
6. 2.5Y4/1　黄灰色土　下位付近に地山ブロックを多く含む　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有…P310

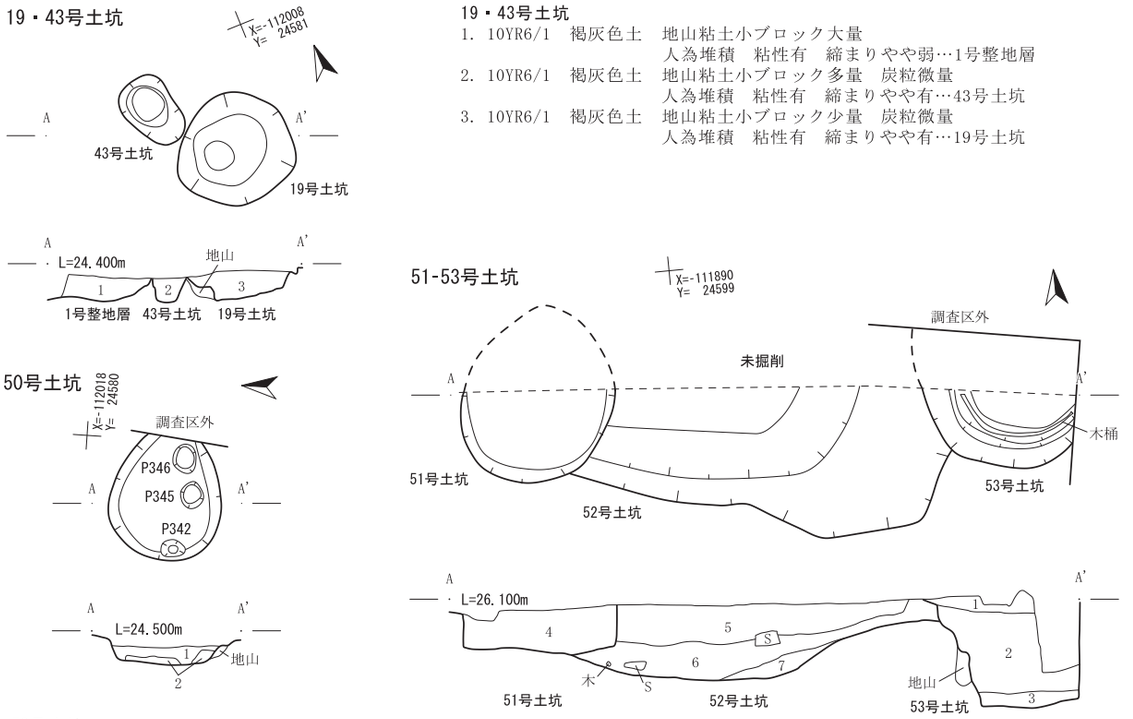
17号土坑

1. 5Y4/1　灰色土　地山ブロック少量　炭粒微量　人為堆積　粘性有　締まりやや有
2. 2.5Y6/6　明黄褐色粘土質土　灰色土極微量　人為堆積　粘性有　締まり有
3. 5Y4/1　灰色土　炭粒微量　人為堆積　粘性有　締まりやや有

※上から見えなかったが整地を切っている

18号土坑

1. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック微量　炭粒微量　粘性やや有　締まりやや有…18号土坑
2. 10YR4/6　褐灰色土　地山ブロック大量　炭粒少量　粘性有　締まり有…1号整地層



19・43号土坑

1. 10YR6/1　褐灰色土　地山粘土小ブロック大量　人為堆積　粘性有　締まりやや弱…1号整地層
2. 10YR6/1　褐灰色土　地山粘土小ブロック多量　炭粒微量　人為堆積　粘性有　締まりやや有…43号土坑
3. 10YR6/1　褐灰色土　地山粘土小ブロック少量　炭粒微量　人為堆積　粘性有　締まりやや有…19号土坑

50号土坑

1. 7.5Y3/1　オリーブ黒色土　地山ブロック少量　炭粒多量　カワラケ細片出土　人為堆積　粘性有　締まり弱…廃棄の坑
2. 5Y5/1　灰色土　地山ブロック大量　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有

51-53号土坑

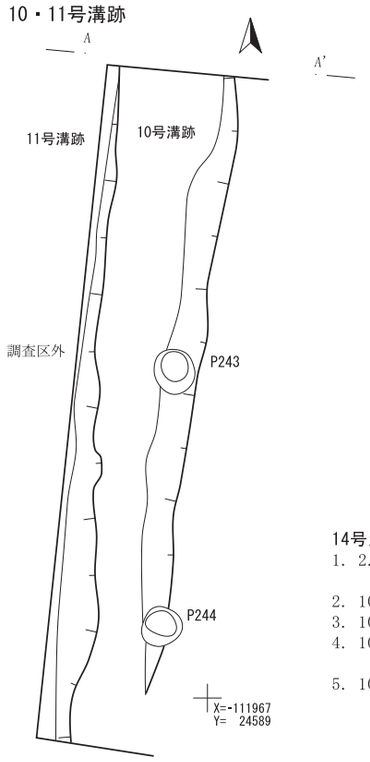
1. 10YR7/6　明黄褐色粘土ブロック　褐色土ブロック50%　レンガ片含む　人為堆積　粘性有　締まりやや弱　土坑埋土では無い
2. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック30%　近代遺物含む　人為堆積　粘性有　締まりやや弱…53号土坑
3. 10YR7/2　灰白色粘土　粘性有　締まっている…53号土坑
4. 10YR4/2　灰黄褐色土　地山小ブロック20%　粘性やや有　締まりやや有…51号土坑
5. 10YR4/2　灰黄褐色土　人為堆積　粘性やや有　締まりやや有…52号土坑
6. 7.5Y3/1　オリーブ黒色泥　同色砂が10%混じる　自然堆積　粘性有　締まりやや有…52号土坑
7. 7.5Y3/1　オリーブ黒色砂　自然堆積　粘性やや弱　締まり弱…52号土坑

0　1：50　2m

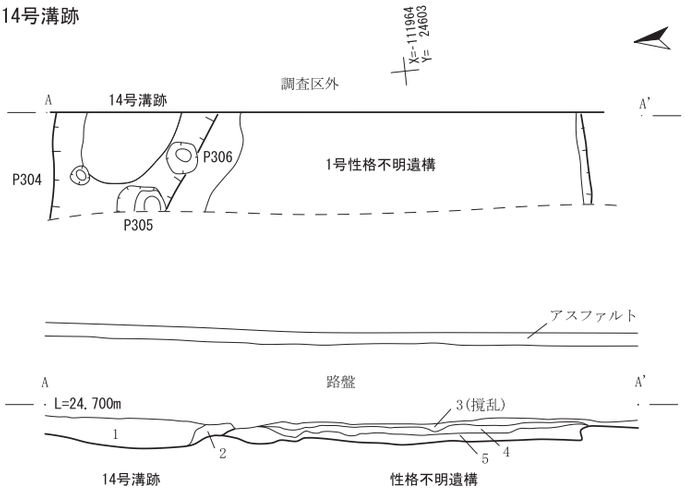
第30図　土坑②

2016本文１-第648集.indd　41　16.1.21　1:18:10 PM

10・11号溝跡

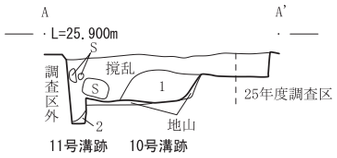


14号溝跡



14号溝跡・性格不明遺構

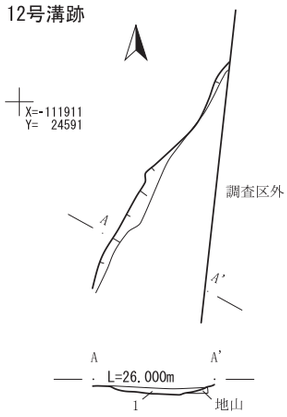
1. 2.5Y3/1　黒褐色土　炭粒多量　カワラケ細片多量　人為堆積
粘性やや有　締まっている…14号溝跡
2. 10YR5/1　褐灰色土　炭粒微量　人為堆積　粘性やや有　締まっている
3. 10YR4/1　褐灰色土　小円礫多量　人為堆積　粘性弱　締まっている…撹乱
4. 10YR5/1　褐灰色土　地山ブロック少量　人為堆積
粘性やや有り　締まっている…性格不明遺構
5. 10YR7/3　にぶい黄褐色粘土ブロック　その隙間に褐灰色土が入る　人為堆積
粘性有　締まっている…性格不明遺構



10・11号溝跡

1. 10YR3/2　黒褐色土　地山ブロック微量　粘性やや有　締まりやや有…10号溝
2. 10GY2/1　緑黒色土　小礫微量　粘性有　締まっている…11号溝

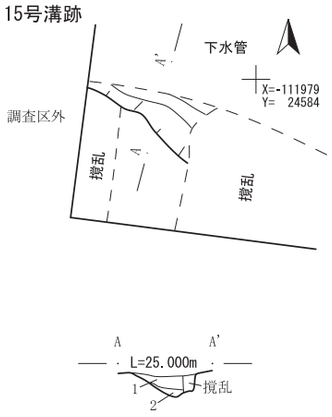
12号溝跡



12号溝跡

1. 10YR7/6　黄橙色粘土ブロック　浅黄橙粘土ブッロクとが主体
その隙間に褐灰色土10%が入る
人為堆積　時期不明
近現代の可能性もある
粘性有　締まっている

15号溝跡



15号溝跡

1. 10YR4/1　褐灰色土　酸化鉄を斑に含む　自然堆積
粘性やや有　締まりやや有
2. 10YR6/6　明黄褐色土　褐灰色土を薄く2～3層含んでいる
自然堆積　粘性有　締まり有

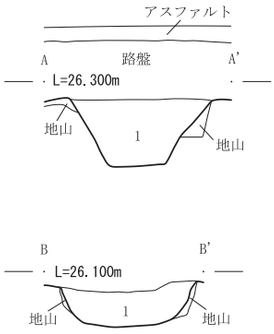
※12Cだと思われる　道路溝か

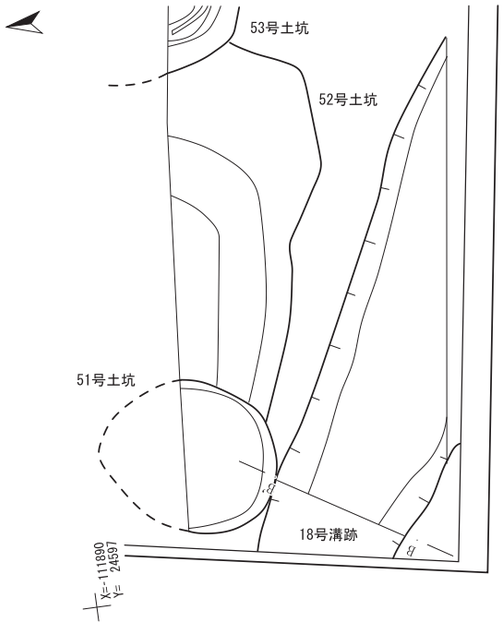
0　1：50　2m

第31図　溝跡①

2016本文１-第648集.indd 42　16.1.21 1:18:11 PM

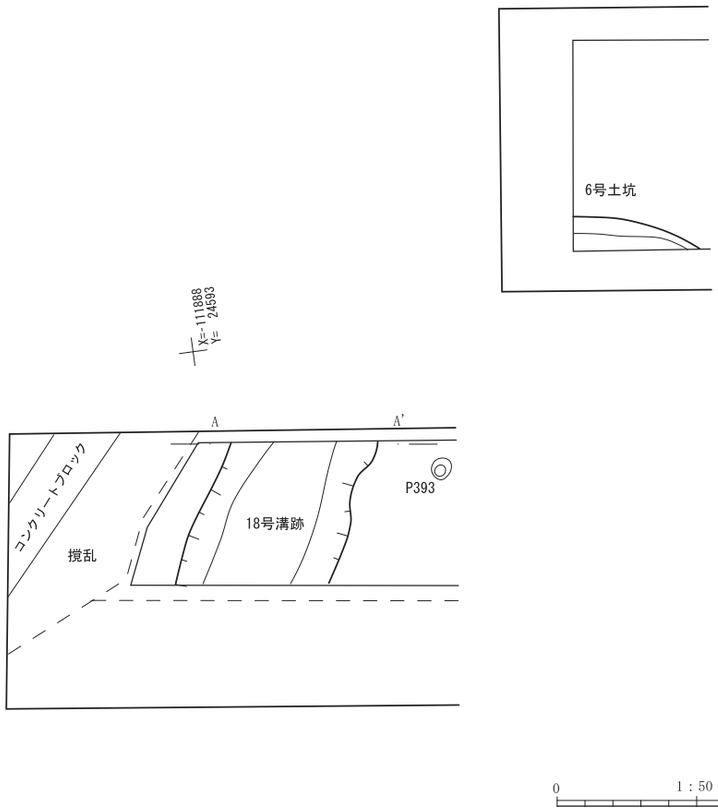
18号溝跡





18号溝跡A-A'
1. 10YR7/6　黄橙色粘土ブロック　褐色土ブロック20%
　　人為堆積　時期不明　粘性有　締まっている

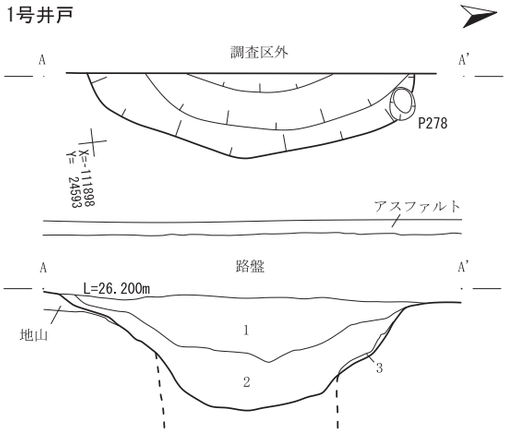
18号溝跡B-B'
1. 10YR5/2　灰黄褐色土ブロック　浅黄橙色粘土ブロック30%　炭粒極微量
　　人為堆積　粘性やや有　締まっている



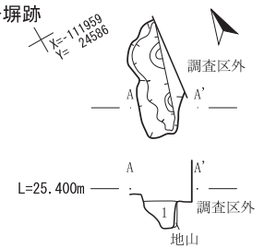
第32図　溝跡②

2016本文１-第648集.indd　43　　16.1.21　1:18:11 PM

1号井戸



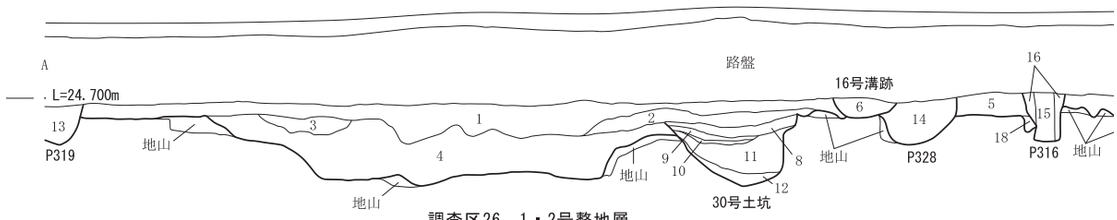
1号塀跡

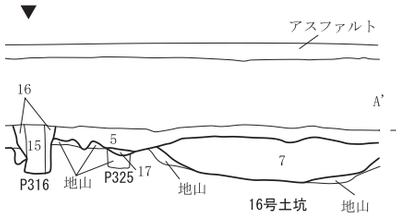


1号塀跡
1. 7.5YR5/4　にぶい褐色土　地山ブロック少量　炭粒極微量
　　人為堆積　粘性やや弱　締まりやや有

1号井戸
1. 10YR5/1　褐灰色土ブロック　明黄褐色地山ブロック20%と
　　浅黄橙色粘土ブロック20%から成る
　　炭粒微量　人為堆積　粘性有　締まっている
2. 10YR8/4　浅黄橙色粘土ブロック　明黄褐色地山ブロック40%と
　　褐灰色土ブロック1%から成る
　　人為堆積　粘性有　締まっている
3. 10YR8/2　灰白色粘土　地山か　粘性有　締まっている

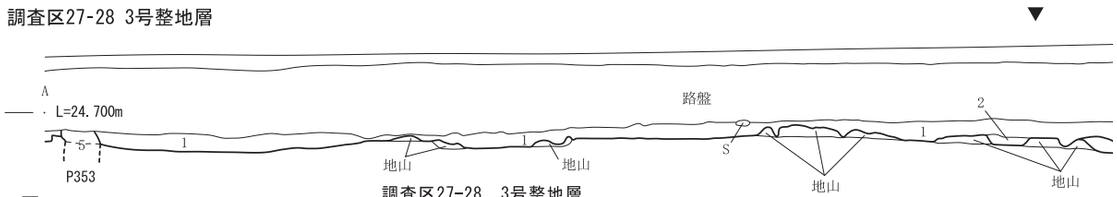
調査区26 1・2号整地層

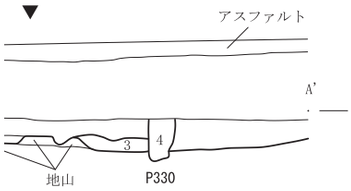




調査区26　1・2号整地層
1.　10YR4/1　褐灰色土　炭粒少量　細かく割れたカワラケ多量　円礫少量
　　粘性やや弱　締まりやや有…1号整地層
2.　10TR5/1　褐灰色土　地山ブロック少量　炭粒微量
　　粘性やや有　締まっている…1号整地層
3.　10YR5/1　褐灰色土　地山ブロック少量　炭粒微量
　　粘性やや有　締まっている…1号整地層
4.　10YR6/1　褐灰色土　地山小ブロック大量　炭粒微量
　　粘性有　締まりやや弱…1号整地層
5.　5Y6/1　灰色土　地山ブロック微量　炭粒微量
　　粘性弱　締まっている…2号整地層
6.　10YR4/1　褐灰色砂　と同色泥　黄褐色土が薄い層を成す
　　粘性無し　締まりやや有…16号溝跡
7.　5Y6/1　灰色土　地山ブロック大量　炭粒極微量　遺物殆ど無し
　　粘性やや弱　締まっている…16号土坑
8.　10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック微量　炭粒微量
　　粘性やや有　締まりやや有…30号土坑
9.　10YR7/6　明黄褐色粘土　褐色土微量　粘性有　締まり有…30号土坑
10.　10YR2/1　黒色土　炭粒多量　粘性やや弱　締まりやや有…30号土坑
11.　10YR5/1　褐灰色土　地山小ブロック大量　炭粒微量
　　粘性やや有　締まりやや有…30号土坑
12.　注記無
13.　10YR3/1　黒褐色土　地山ブロック多量　炭粒微量
　　粘性やや有　締まっている…P319
14.　10YR5/1　褐灰色土　地山ブロック多量　炭粒極微量
　　粘性やや有　締まっている…P328
15.　10YR3/1　黒褐色土　地山ブロック微量　炭粒微量
　　粘性弱　締まっている…P316
16.　10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック少量　粘性やや有　締まっている…P316
17.　5Y6/1　灰色土　粘性やや有　締まっている…P325
18.　注記無

調査区27-28 3号整地層



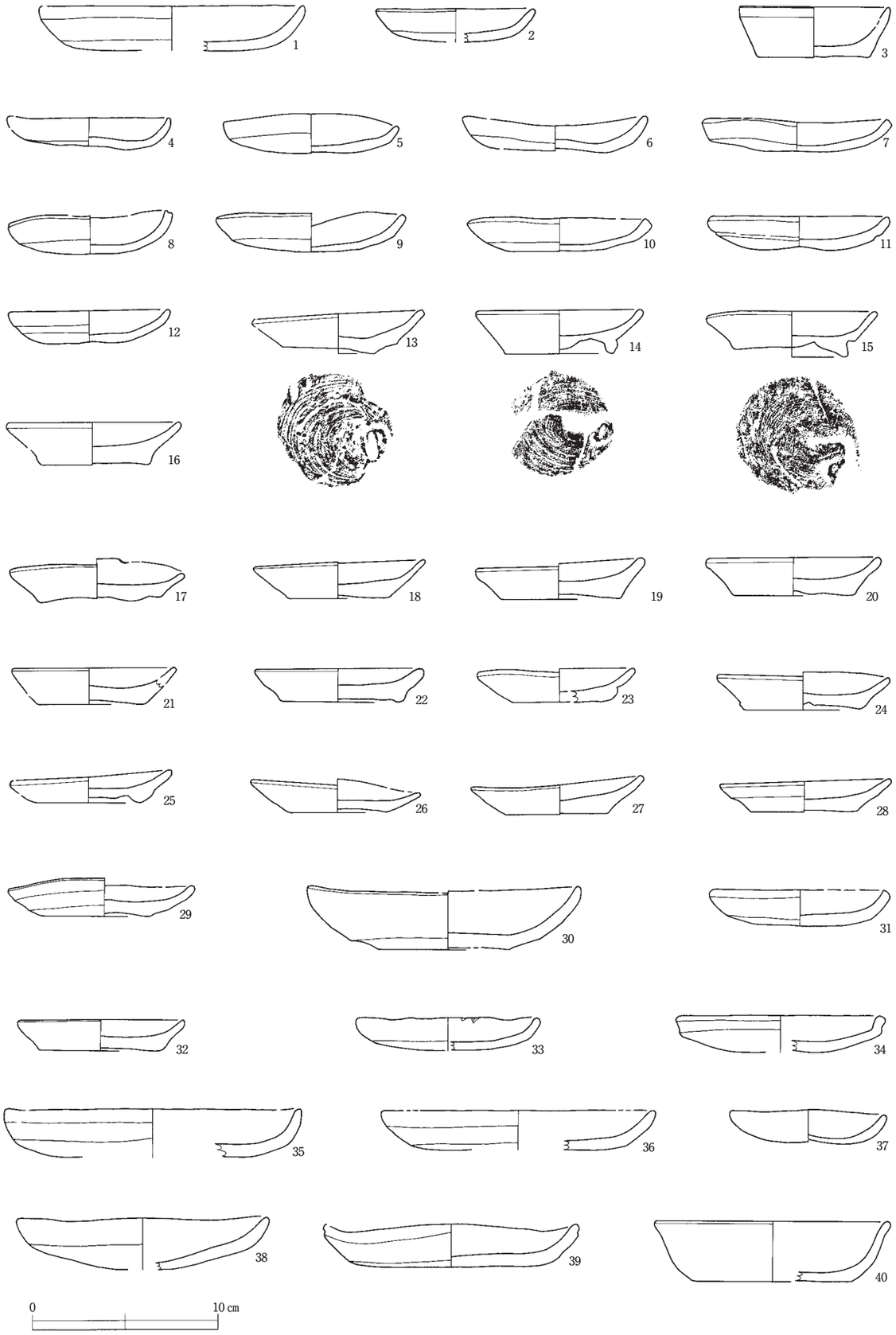


調査区27-28　3号整地層
1. 10YR4/1　褐灰色土　カワラケ細片少量　炭粒少量　地山ブロック不規則に少量含む
　　人為堆積　粘性やや有　締まっている…3号整地層
2. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック大量　人為堆積　粘性有　締まっている…3号整地層
3. 10YR4/1　褐灰色土　地山ブロック大量　炭粒を底面付近に多く含む
　　人為堆積　粘性有　締まっている…49号土坑
4. 10YR3/1　黒緑色土　地山ブロック多量　人為堆積　粘性有　締まっている…P330
5. 注記無…P353
※3層が立ち上がらない為整地層旧＞土坑

0　1：50　2m

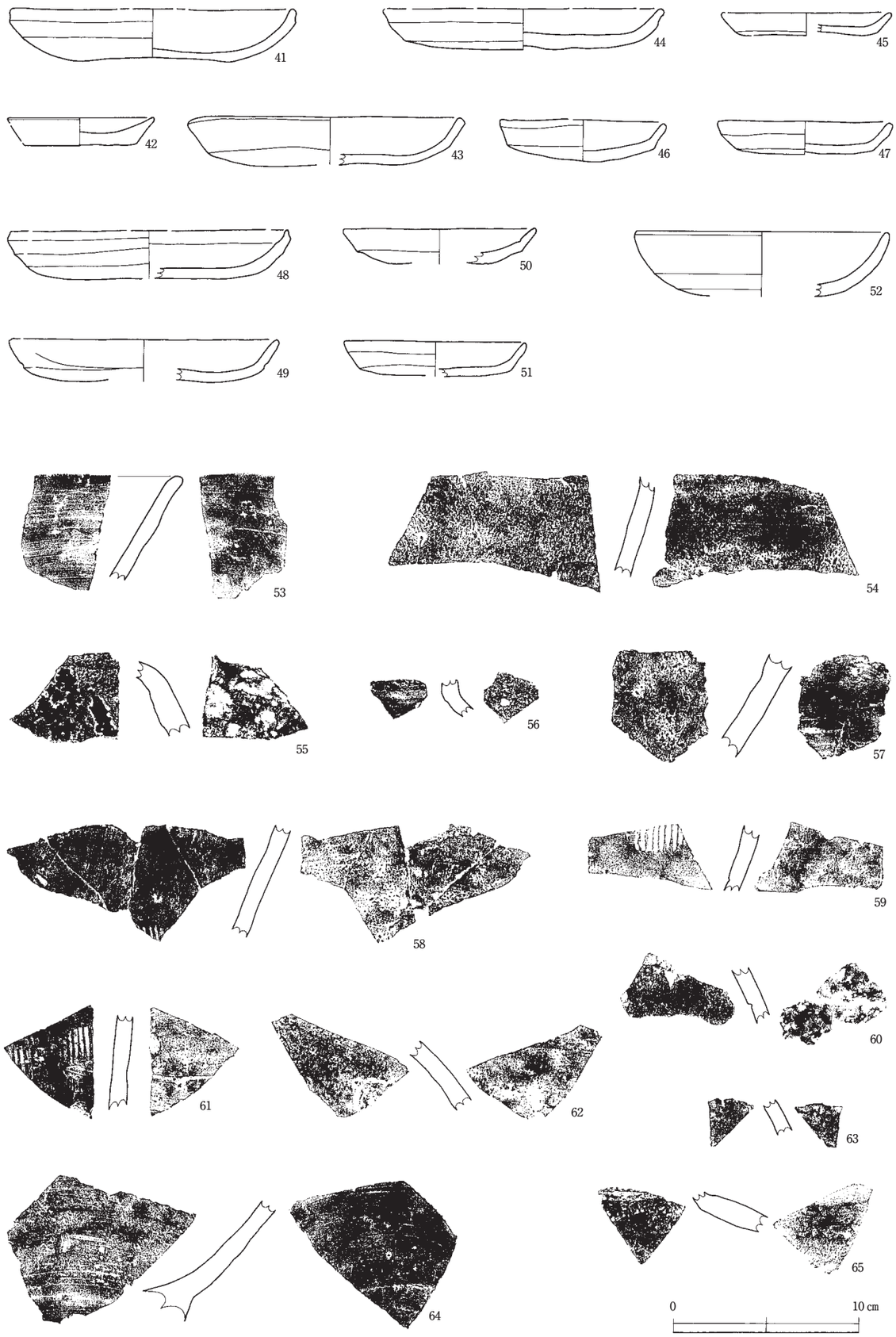
第33図　井戸跡②、その他の遺構

2016本文１-第648集.indd 44　16.1.21 1:18:12 PM



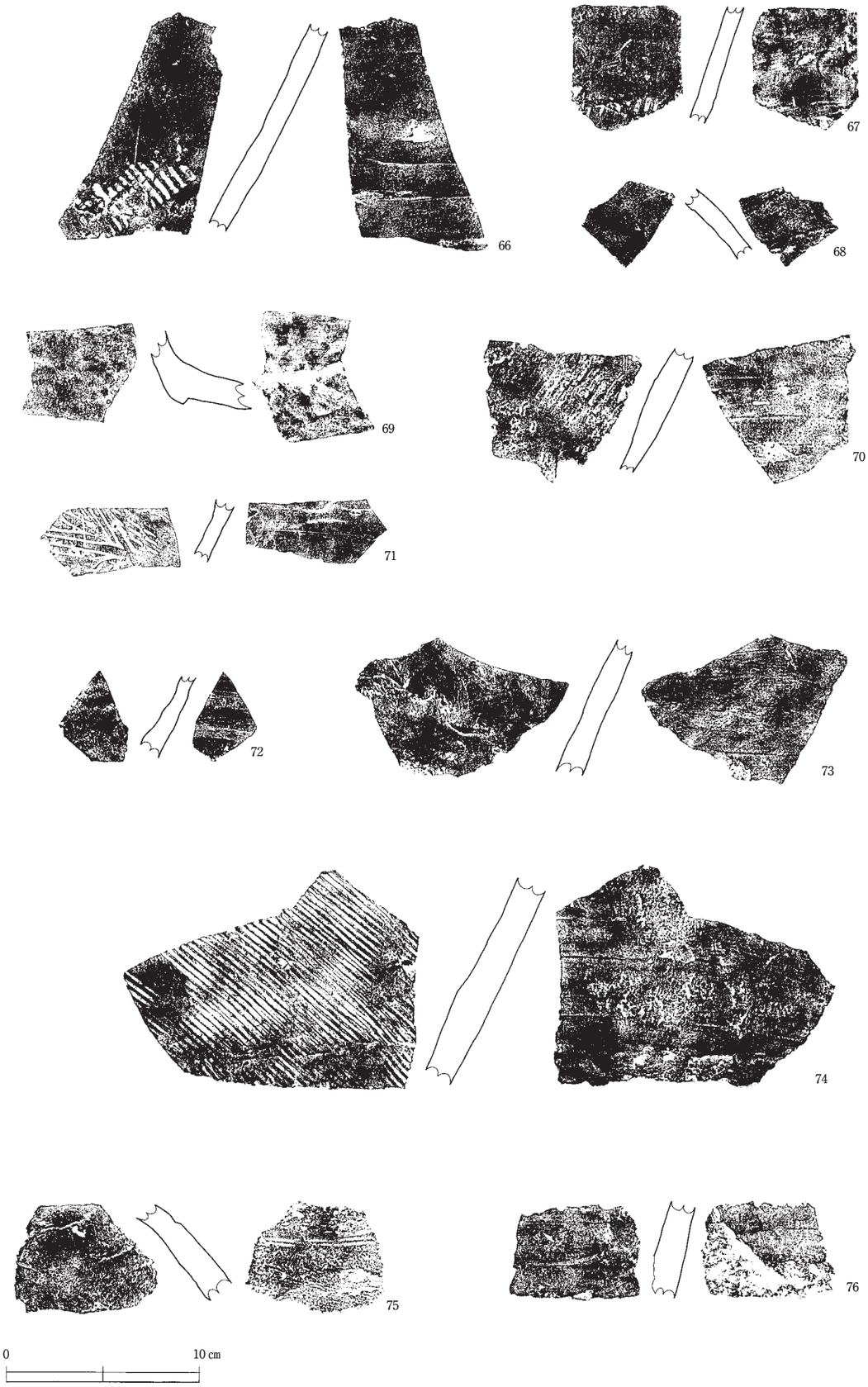
第34図　出土遺物①

2016本文１-第648集.indd　45　　16.1.21　1:18:13 PM



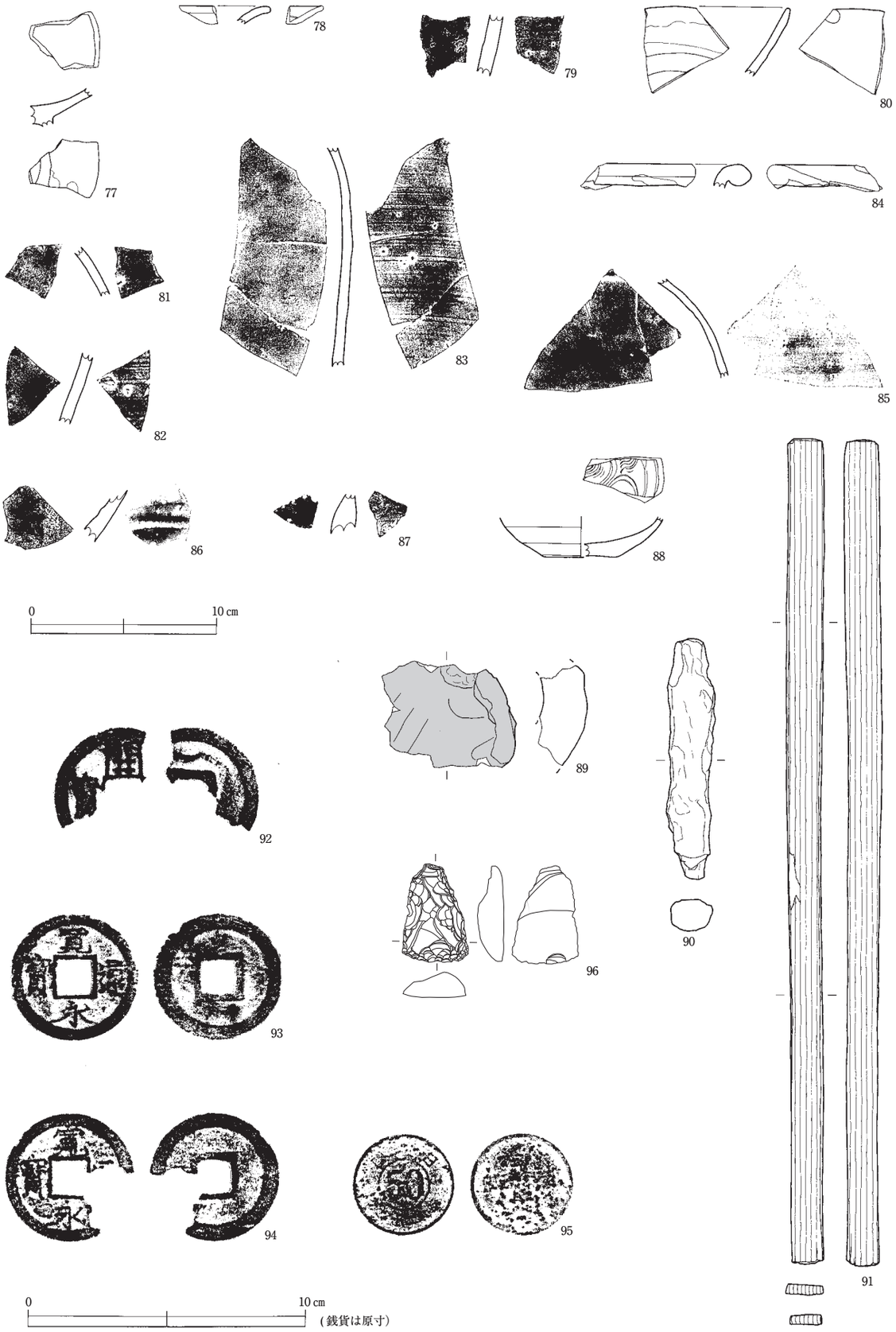
第35図　出土遺物②

2016本文１-第648集.indd　46　　16.1.21　1:18:13 PM



第36図　出土遺物③

2016本文１-第648集.indd　47　　16.1.21　1:18:14 PM



第37図　出土遺物④

2016本文１-第648集.indd　48　　16.1.21　1:18:15 PM

第９表　井戸跡・土坑観察表

計測値の単位：m

遺構名	調査区	規模 長軸 / 短軸 / 深さ	形状 底面	埋　土	出土遺物 時期	その他
1 号井戸跡	10	2.6/　/1.0	円形 不明		12 世紀	
2 号井戸跡	24	/（1.2）/1.6	方形 平坦	上位は灰白色粘土ブロックによる人為堆積。 底面付近は植物質細片多量に含む自然堆積	12 世紀	土坑やトイレ遺構の可能性も
5 号土坑	4	1.4/（0.9）/0.5	円形 平坦	地山ブロックを不規則に含む人為堆積	12 世紀	柱穴
6 号土坑	10	/　/0.2	不明	にぶい黄橙色ブロックによる人為堆積	不明	
7 号土坑	15	2.0/（1.4）/0.3	長円形 平坦	地山ブロックに炭粒も混ざる人為堆積	12 世紀	
8 号土坑	20	2.8/（0.8）/0.2	不明 平坦	炭粒を多量に含む人為堆積	12 世紀	
9 号土坑	20	6.0/（2.0）/0.2	不明 平坦	褐灰色土の単層		
10 号土坑	21	/0.9/0.3	不明 凹凸小	炭粒を多量に含む人為堆積	12 世紀	
11 号土坑	21	/0.7/0.4	不明 平坦	地山ブロックを不規則に含む人為堆積	かわらけ 12 世紀	
12 号土坑	23	1.2/0.8/0.1	不明 平坦	かわらけの細片が炭粒と共に廃棄されていた。 この土坑に廃棄される前から既に破片であった個体も多い　儀礼的な廃棄ではないようだ	ロクロかわらけの小皿主体 12 世紀	かわらけは一括廃棄資料
13 号土坑	23	/　/0.1	不明	人為堆積	12 世紀	
14 号土坑	23	（0.9）/0.9/0.2	長円形 平坦	地山ブロックを多量に含む黒褐色土 人為堆積	12 世紀	
15 号土坑	23	0.8/（0.4）/0.1	円形 平坦	人為堆積	12 世紀	
16 号土坑	26	（3.0）/1.6/0.3	長円形 平坦	地山ブロックを多量に含む黒褐色土 人為堆積	12 世紀	
17 号土坑	26	0.8/0.7/0.4	不整円形	炭粒を不規則に含む人為堆積	12 世紀	
18 号土坑	26	0.8/0.8/0.1	不整円形 平坦	褐灰色土の単層	12 世紀	
19 号土坑	16	0.7/0.7/0.2	円形 平坦	人為堆積	12 世紀	
30 号土坑	26	1.0/0.9/0.4	円形 丸底	地山ブロックを多量に含む人為堆積	12 世紀	
38 号土坑	26	0.8/（0.6）/0.2	不明 平坦	人為堆積	12 世紀	
50 号土坑	27	1.0/0.9/0.2	円形 平坦	かわらけ細片含む人為堆積	12 世紀	廃棄土坑
51 号土坑	32	1.2/　/0.3	長円形 平坦	地山ブロックを少量含む人為堆積	近世以降	
52 号土坑	32	（2.7）/　/0.5	不明 平坦	人為堆積	近世以降	
53 号土坑	32	1.1/　/0.9	円形 平坦	人為堆積　煉瓦	近代以降	

第10表　柱穴観察表

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P243	32.0	28.2	31.3	P257	39.0	(18.2)	33.6	P271	36.5	36.2	28.7
P244	29.2	26.4	25.5	P258	68.8	(40.9)	49.5	P272	31.3	30.8	26.7
P245	(39.0)	(32.2)	21.7	P259	30.6	23.9	16.7	P273	(45.0)	40.9	31.7
P246	(39.2)	(35.6)	16.2	P260	(96.7)	(99.0)	62.1	P274	(17.8)	24.0	14.2
P247	(42.1)	43.8	39.1	P261	39.7	34.1	36.5	P275	20.5	18.8	15.5
P248	62.4	51.3	49.5	P262	38.0	34.6	37.5	P276	43.0	(35.8)	16.4
P249	85.2	81.1	41.5	P263	25.0	22.6	10.2	P277	24.8	23.2	14.4
P250	(50.1)	50.0	29.1	P264	29.0	21.3	10.5	P278	22.7	17.5	23.0
P251	39.5	(21.7)	42.2	P265	25.3	23.5	12.7	P279	21.5	20.3	14.1
P252	63.1	59.0	31.7	P266	33.1	(27.8)	37.5	P280	35.9	33.1	32.1
P253	54.8	(52.9)	50.9	P267	46.9	(44.2)	40.4	P281	20.7	19.1	10.2
P254	64.1	62.9	41.0	P268	36.9	(20.1)	40.2	P282	17.8	14.2	27.6
P255	26.2	23.9	7.7	P269	(28.3)	26.6	25.2	P283	29.3	23.1	10.2
P256	37.7	32.2	16.2	P270	10.6	9.8	5.6	P284	46.3	44.3	28.7

2016本文１-第648集.indd　49　　16.1.21　1:18:15 PM

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P285	25.4	24.1	11.3	P323	33.6	20.7	46.9	P361	41.2	32.7	24.8
P286	71.8	(41.5)	46.1	P324	24.4	(23.2)	21.4	P362	26.8	(10.8)	13.2
P287	21.2	(13.3)	24.9	P325	(22.8)	18.0	15.9	P363	20.0	17.5	21.3
P288	42.7	(28.7)	31.2	P326	17.8	12.4	17.3	P364	33.0	30.3	23.8
P289	55.4	50.6	48.4	P327	(51.6)	27.9	16.1	P365	27.4	24.1	38.3
P290	37.7	(22.1)	62.0	P328	(33.1)	(33.7)	19.0	P366	46.6	44.8	58.2
P291	20.5	(8.5)	8.3	P329	(28.0)	(16.1)	14.2	P367	25.8	21.9	22.0
P292	31.0	28.9	70.2	P330	24.2	21.1	14.0	P368	(32.0)	23.3	24.1
P293	31.5	26.8	65.6	P331	31.2	29.9	18.5	P369	−	(14.2)	11.2
P294	43.4	(23.8)	66.7	P332	16.5	15.8	14.0	P370	(26.5)	30.8	10.2
P295	27.1	22.5	45.1	P333	19.8	19.2	6.6	P371	44.2	(13.5)	16.0
P296	22.9	20.7	22.9	P334	24.2	19.1	17.3	P372	31.5	29.3	42.8
P297	54.3	(12.5)	5.3	P335	38.2	38.0	36.7	P373	23.3	16.7	17.6
P298	34.2	(10.5)	5.2	P336	26.1	20.2	15.9	P374	21.1	16.0	25.3
P299	16.9	14.7	5.0	P337	17.8	16.7	28.0	P375	23.0	21.8	21.0
P300	21.6	18.4	19.9	P338	34.5	26.4	42.6	P376	21.2	16.4	10.5
P301	60.2	(34.9)	34.5	P339	(23.2)	22.7	44.6	P377	(19.1)	(16.9)	26.6
P302	22.8	(13.4)	5.8	P340	26.6	(21.0)	30.3	P378	28.7	27.1	22.3
P303	36.7	35.1	70.9	P341	30.2	(28.8)	19.9	P379	23.9	(13.3)	12.5
P304	13.3	13.2	5.9	P342	16.8	11.9	27.2	P380	22.4	19.3	33.0
P305	33.8	(17.9)	13.0	P343	51.5	(45.5)	39.3	P381	18.5	(17.7)	13.8
P306	20.6	20.5	9.2	P344	35.6	21.3	19.5	P382	35.5	26.5	14.5
P307	22.0	19.6	43.0	P345	18.7	16.1	9.1	P383	21.8	20.4	33.7
P308	31.0	(8.8)	13.0	P346	20.3	15.0	9.0	P384	23.9	22.6	22.1
P309	25.6	25.2	37.1	P347	19.9	16.2	10.9	P385	(29.7)	31.7	40.0
P310	34.0	(22.2)	6.5	P348	31.1	21.4	14.1	P386	40.3	32.2	18.9
P311	19.5	(11.5)	39.2	P349	(23.5)	19.0	7.8	P387	19.8	16.0	25.1
P312	19.7	17.8	25.8	P350	20.0	15.9	16.3	P388	(25.4)	23.8	17.3
P313	65.0	57.7	95.1	P351	(38.9)	36.4	25.7	P389	(32.0)	27.4	20.6
P314	28.3	(17.1)	23.3	P352	33.2	30.7	31.0	P390	(21.8)	19.3	20.2
P315	24.9	22.4	16.3	P353	26.9	19.9	28.7	P391	46.5	39.0	43.2
P316	24.3	(8.0)	20.0	P354	40.2	24.2	48.1	P392	49.1	38.3	65.5
P317	22.1	19.1	10.5	P355	(24.1)	20.6	17.9	P393	15.3	13.8	20.8
P318	57.3	18.0	17.0	P356	31.4	26.3	26.3	P394	13.9	12.2	10.0
P319	35.8	(14.7)	16.1	P357	33.8	(28.4)	39.4	P395	26.7	23.0	11.8
P320	23.3	19.4	22.2	P358	23.1	18.4	28.2	P396	28.0	(17.2)	8.1
P321	21.0	18.4	18.1	P359	17.7	17.5	8.0				
P322	48.5	33.6	14.4	P360	(25.8)	27.0	39.3				

第11表　かわらけ観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値（cm）			備考
					口径	底径	器高	
1	30	調査区 24　2号堀跡埋土	手づくね大	1段ナデ面取り	(14.40)		(2.45)	
2	31	調査区 24　2号堀跡埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(8.60)		(1.80)	
3	1	調査区 10　6号土坑埋土	ロクロ小	ロクロ	(8.00)	(6.00)	2.75	底部糸切痕
4	16	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小		(8.90)		1.80	
5	11	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ	8.90		2.10	口唇部に付着物　やや歪
6	2	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ	(10.00)	(5.60)	1.95	
7	24	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(10.20)		1.80	
8	26	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	(8.80)		2.30	
9	3	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	10.40		2.20	
10	23	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	10.00		1.90	
11	12	調査区 21　11号土坑埋土	手づくね小	1段ナデ面取り	9.80		1.85	

2016本文１-第648集.indd　50　　16.1.21　1:18:16 PM

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	調整	計測値（cm）			備考
					口径	底径	器高	
12	21	調査区 21　11 号土坑埋土	手づくね小	2 段ナデ	8.80		1.80	
13	17	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(9.30)	6.20	2.35	底糸切痕　歪み大　風化
14	22	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(9.00)	(5.80)	2.35	底部糸切痕
15	15	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(9.10)	5.90	2.60	歪み大　風化大
16	13	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(9.50)	5.80	2.30	底部糸切痕　風化
17	9	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.40	6.60	2.30	歪み大　風化している
18	19	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.30	5.40	2.10	風化
19	7	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.10	6.30	2.20	風化している
20	8	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.50	6.50	2.10	底部糸切痕　風化
21	20	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(8.90)	5.70	(1.95)	風化
22	4	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.10	6.20	1.85	底部糸切痕
23	27	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(8.50)	(5.30)	1.80	底部糸切痕歪み　風化
24	10	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.40	6.30	2.00	底部糸切痕　歪み　風化
25	5	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		(8.80)	5.90	1.80	歪み大　風化
26	14	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.10	5.10	1.80	底部糸切痕歪み大　風化
27	18	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.40	5.50	2.05	底部糸切痕
28	6	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		9.30	5.80	1.80	風化
29	25	調査区 21　11 号土坑埋土	ロクロ小		10.10	5.70	2.05	底部糸切痕　歪み
30	28	調査区 23　12 号土坑埋土	ロクロ大		14.80	7.10	3.40	底部糸切痕　風化
31	29	調査区 23　13・14 号土坑	手づくね小	1 段ナデ面取り	9.70		2.00	埋土出土
32	41	調査区 26　25 号土坑埋土	ロクロ小		9.00	6.50	1.70	底部糸切痕
33	47	調査区 27　49 号土坑埋土	手づくね	1 段ナデ	(10.00)		1.80	
34	52	調査区 27　49 号土坑埋土	手づくね小	1 段ナデ面取り	(11.20)		2.00	
35	49	調査区 27　50 号土坑埋土	手づくね大	2 段ナデ	(16.10)		2.65	風化
36	32	調査区 25　P 313 埋土	手づくね大	2 段ナデ？	(14.80)		(2.15)	
37	33	調査区 25　P 313 埋土	手づくね小	1 段ナデか	8.45		1.90	内面に煤付着
38	37	調査区 28　P 361 埋土	手づくね大	1 段ナデ	(13.70)		(2.80)	
39	35	調査区 28　P 375 埋土	手づくね大	1 段ナデ面取り	(13.80)	(10.00)	2.35	歪み
40	34	調査区 28　P 377 埋土	ロクロ大		(12.80)	(8.80)	3.25	底径が大きい
41	36	調査区 28　P 382 埋土	手づくね大	1 段ナデ面取り	(15.50)	(8.00)	2.90	スノコ痕
42	38	調査区 28　P 382 埋土	ロクロ小		(7.90)	(6.00)	2.00	底部糸切痕　風化
43	40	調査区 26　1 号整地層上層	手づくね大	1 段ナデ面取り	15.00		2.70	
44	39	調査区 26　1 号整地層上層	手づくね大	2 段ナデ	(15.20)		2.20	
45	44	調査区 26　1 号整地層上層	手づくね小	1 段ナデ	(9.20)		1.25	
46	42	調査区 26　1 号整地層上層	手づくね小	1 段ナデ面取り	9.00		2.30	
47	43	調査区 26　1 号整地層上層	手づくね小	2 段ナデ	(9.40)		1.80	
48	50	調査区 27　整地層	手づくね大	2 段ナデ面取り	(15.00)		2.60	
49	46	調査区 27　整地層	手づくね大	1 段ナデ	(14.60)		2.30	
50	48	調査区 27　整地層	手づくね	1 段ナデ	(10.40)		1.90	
51	45	調査区 27　整地層	手づくね小	2 段ナデ	(9.90)		1.90	
52	51	調査区 27　整地層	ロクロ大		(13.80)		(3.50)	

第12表　陶磁器観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
53	67	調査区 24　2 号堀跡埋土	常滑	鉢	口縁部	12 世紀	
54	55	調査区 1　2 号堀跡埋土	常滑	壺類	胴部	12 世紀	
55	53	調査区 1　2 号堀跡埋土	常滑	壺類	肩部？	12 世紀	
56	68	調査区 24　2 号堀跡埋土	常滑	壺	口縁部	12 世紀	
57	66	調査区 24　2 号堀跡埋土	常滑	甕類	胴部	12 世紀	
58	104	調査区 27　整地層・49 号土坑埋土	常滑	甕	胴部	12 世紀	
59	96	調査区 27　50 号土坑埋土	常滑	甕	胴部	12 世紀	
60	111	調査区 32　（路線外）52 号土坑	常滑	甕	胴部	12 世紀	埋土出土
61	108	調査区 28　P348	常滑	甕	胴部	12 世紀	
62	109	調査区 28　P348	常滑	甕	胴部	12 世紀	
63	110	調査区 28　P377	常滑	壺	胴部	12 世紀	

2016本文１-第648集.indd　51　　16.1.21　1:18:17 PM

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	器種	部位	年代	備考
64	81	調査区 26　1 号整地層上層	常滑	鉢	底部付近	12 世紀	
65	94	調査区 27　整地層	常滑	壺	胴部	12 世紀	
66	65	調査区 24　2 号堀跡埋土	渥美	甕類	胴部	12 世紀	
67	54	調査区 1　2 号堀跡埋土	渥美	壺類	胴部	12 世紀	
68	70	調査区 24　2 号堀跡埋土	渥美	壺	胴部	12 世紀	
69	82	調査区 26　1 号整地層上層	渥美	甕	頸部	12 世紀	
70	85	調査区 26　1 号整地層上層	渥美	甕類	胴部	12 世紀	
71	84	調査区 26　1 号整地層上層	渥美	甕類	胴部	12 世紀	
72	62	調査区 22　14 号溝埋土	須恵系	壺類	胴部	12 世紀	
73	78	調査区 26　1 号整地層上層	須恵系	甕	胴部	12 世紀	
74	56	調査区 4　P262 埋土	須恵系	甕	胴部	12 世紀	
75	88	調査区 26　16 号溝跡埋土	不明	甕	胴部	12 世紀	
76	89	調査区 26　16 号溝跡埋土	不明	不明	胴部	12 世紀	
77	69	調査区 24　2 号堀跡埋土	白磁	碗	底部	12 世紀	
78	63	調査区 23　12 号土坑埋土	白磁	碗　v	口縁部	12 世紀	
79	91	調査区 27　50 号土坑埋土	白磁	四耳壺	胴部	12 世紀	
80	64	調査区 22　14 号溝跡埋土	白磁	碗Ⅷ	口縁部	12 世紀	
81	97	調査区 27　整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12 世紀	
82	86	調査区 26　1 号整地層上層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12 世紀	
83	87	調査区 26　1 号整地層上層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12 世紀	
84	93	調査区 27　整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	口縁部	12 世紀	
85	79	調査区 26　1 号整地層上層	白磁	四耳壺か水注Ⅱ	胴部	12 世紀	
86	98	調査区 27　整地層	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部	12 世紀	
87	59	調査区 14　遺構外	白磁	四耳壺Ⅲ	胴部？	12 世紀	
88	106	調査区 28　P354	青磁	碗	底部	12 世紀	
	71	調査区 26　P319　埋土	須恵系	不明	胴部	12 世紀	

第13表　羽口観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	重量（g）	備考
89	117	調査区 32（路線外）52 号土坑埋土	羽口	33.2	

第14表　木製品観察表

計測値：cm

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
91	119	調査区 24　2 号堀跡埋土	不明	44.40	2.10	0.60	22.6	

第15表　金属製品観察表

計測値：cm

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
90	118	調査区 21　11 号土坑埋土	刀子？	(8.70)	1.80	1.10	29.30	

第16表　銭貨観察表

計測値：cm、g

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	銭種	外径縦	外径横	内径	厚さ	重さ	材質	備考
92	115	調査区 26　1 号整地層上層	開元通宝？	(1.83)	(1.84)	(0.59)	0.13	0.70	銅	
93	114	調査区 26　撹乱	寛永通宝	2.30	2.30	0.60	0.10	2.30	銅	
94	116	調査区 32　遺構外	寛永通宝	2.33	2.34	0.60	0.09	1.60	銅	
95	113	調査区 2　遺構外	50 銭	1.91	1.89		0.16	2.60	銅	昭和 20 年

第17表　石器類観察表

計測値：cm、g

掲載番号	仮番号	出土地点、層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
96	112	調査区 24　2 号堀跡　埋土	石篦	5.15	3.55	1.7	25.2	

2016本文 1 -第648集.indd　52　　16.1.21　1:18:17 PM

Ⅵ　自然科学分析

伽羅之御所跡第 23 次調査における放射性炭素年代（AMS 測定）（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

伽羅之御所跡（第 23 次調査）は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅楽（北緯 38°　59′　25″、東経 141°　7′　1″）に所在し、北上川西岸の河岸段丘面に立地する。測定対象試料は、柱穴や溝跡等から出土した炭化物 12 点である（表１）。

2　測定の意義

遺跡内に位置する複数の遺構の前後関係および遺跡の継続期間を明らかにする。

3　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から１M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１M に達した時には「AAA」、１M 未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表１）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

2016本文１-第648集.indd　53　　16.1.21　1:18:17 PM

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ ^{13}C 補正を行い、下１桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測　定　結　果

測定結果を表１、２に示す。試料 12 点のうち、No. ２を除く 11 点の ^{14}C 年代は、1070 ± 20yrBP（No. ８）から 890 ± 20yrBP（No. ６）の狭い範囲にまとまっている。暦年較正年代（１σ）は、最も古い No. ８が 907 ～ 1015cal AD の間に２つの範囲、最も新しい No. ６が 1050 ～ 1187cal AD の間に３つの範囲で示される。

No. ２の ^{14}C 年代は 60 ± 20yrBP、暦年較正年代（１σ）は 1706 ～ 1914cal AD の間に３つの範囲で示され、他の 11 点より大幅に新しい。なお、この試料の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表２下の警告参照）。

試料の炭素含有率は、No. １を除く 11 点がすべて 50％を超える適正な値であった。No. １は土に含まれる微細な炭化物を集めて試料としたが、土を完全に除去できなかったことが観察されている。炭素含有率は 24％という低い値で、測定された炭素の由来に注意を要する。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表１　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）　[#7110]

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142858	No.1	調査区３　柱穴（SP）252　埋土	炭化物	AaA	-25.44 ± 0.56	1,020 ± 20	88.11 ± 0.26
IAAA-142859	No.2	調査区８　12 号溝跡　埋土	炭化物	AAA	-27.90 ± 0.56	60 ± 20	99.24 ± 0.29
IAAA-142860	No.3	調査区８　柱穴（SP）288　埋土	炭化物	AAA	-27.77 ± 0.68	940 ± 20	88.97 ± 0.26
IAAA-142861	No.4	調査区 10　１号井戸跡　埋土	炭化物	AAA	-26.75 ± 0.34	960 ± 20	88.76 ± 0.27
IAAA-142862	No.5	調査区 20　８号土坑　埋土	炭化物	AAA	-25.42 ± 0.61	1,040 ± 30	87.89 ± 0.28
IAAA-142863	No.6	調査区 24　２号堀跡　埋土	炭化物	AAA	-26.59 ± 0.61	890 ± 20	89.47 ± 0.27
IAAA-142864	No.7	調査区 26　17 号溝跡　埋土	炭化物	AAA	-29.46 ± 0.57	910 ± 20	89.27 ± 0.27
IAAA-142865	No.8	調査区 26　17 号土坑　埋土	炭化物	AAA	-27.17 ± 0.60	1,070 ± 20	87.51 ± 0.26
IAAA-142866	No.9	調査区 26　27 号土坑　埋土	炭化物	AAA	-27.04 ± 0.64	1,040 ± 20	87.83 ± 0.26
IAAA-142867	No.10	調査区 26　32 号土坑　埋土	炭化物	AAA	-26.04 ± 0.46	1,000 ± 20	88.28 ± 0.26
IAAA-142868	No.11	調査区 27　50 号土坑　埋土	炭化物	AAA	-25.89 ± 0.51	950 ± 30	88.82 ± 0.28
IAAA-142869	No.12	18 号溝跡　埋土	炭化物	AaA	-23.97 ± 0.46	1,040 ± 30	87.85 ± 0.27

表２　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（1）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	１σ暦年代範囲	２σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-142858	1,020 ± 20	88.03 ± 0.24	1,016 ± 23	995calAD - 1025calAD (68.2%)	979calAD - 1040calAD (95.4%)

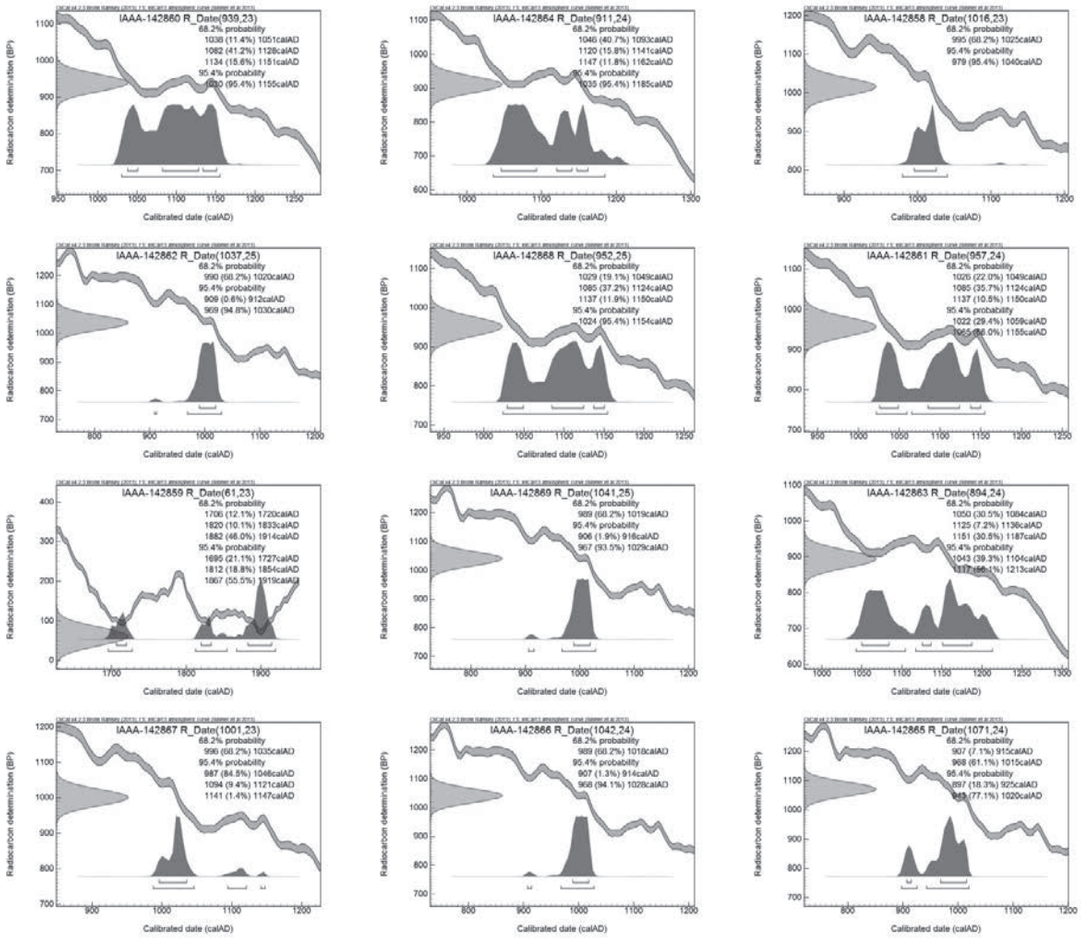
2016本文１-第648集.indd　54　　16.1.21　1:18:17 PM

IAAA-142859	110 ± 20	98.65 ± 0.27	61 ± 23	1706calAD - 1720calAD (12.1%)* 1820calAD - 1833calAD (10.1%)* 1882calAD - 1914calAD (46.0%)*	1695calAD - 1727calAD (21.1%)* 1812calAD - 1854calAD (18.8%)* 1867calAD - 1919calAD (55.5%)*
IAAA-142860	980 ± 20	88.46 ± 0.23	939 ± 23	1038calAD - 1051calAD (11.4%) 1082calAD - 1128calAD (41.2%) 1134calAD - 1151calAD (15.6%)	1030calAD - 1155calAD (95.4%)
IAAA-142861	990 ± 20	88.44 ± 0.26	957 ± 24	1026calAD - 1049calAD (22.0%) 1085calAD - 1124calAD (35.7%) 1137calAD - 1150calAD (10.5%)	1022calAD - 1059calAD (29.4%) 1065calAD - 1155calAD (66.0%)
IAAA-142862	1,040 ± 20	87.81 ± 0.26	1,037 ± 25	990calAD - 1020calAD (68.2%)	909calAD - 912calAD (0.6%) 969calAD - 1030calAD (94.8%)
IAAA-142863	920 ± 20	89.17 ± 0.24	894 ± 24	1050calAD - 1084calAD (30.5%) 1125calAD - 1136calAD (7.2%) 1151calAD - 1187calAD (30.5%)	1043calAD - 1104calAD (39.3%) 1117calAD - 1213calAD (56.1%)
IAAA-142864	990 ± 20	88.46 ± 0.25	911 ± 24	1046calAD - 1093calAD (40.7%) 1120calAD - 1141calAD (15.8%) 1147calAD - 1162calAD (11.8%)	1035calAD - 1185calAD (95.4%)

表２　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（2）参考値

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　（%）			
IAAA-142865	1,110 ± 20	87.12 ± 0.24	1,071 ± 24	907calAD - 915calAD (7.1%) 968calAD - 1015calAD (61.1%)	897calAD - 925calAD (18.3%) 943calAD - 1020calAD (77.1%)
IAAA-142866	1,080 ± 20	87.46 ± 0.23	1,042 ± 24	989calAD - 1018calAD (68.2%)	907calAD - 914calAD (1.3%) 968calAD - 1028calAD (94.1%)
IAAA-142867	1,020 ± 20	88.09 ± 0.25	1,001 ± 23	996calAD - 1035calAD (68.2%)	987calAD - 1046calAD (84.5%) 1094calAD - 1121calAD (9.4%) 1141calAD - 1147calAD (1.4%)
IAAA-142868	970 ± 20	88.65 ± 0.26	952 ± 25	1029calAD - 1049calAD (19.1%) 1085calAD - 1124calAD (37.2%) 1137calAD - 1150calAD (11.9%)	1024calAD - 1154calAD (95.4%)
IAAA-142869	1,020 ± 20	88.03 ± 0.26	1,041 ± 25	989calAD - 1019calAD (68.2%)	906calAD - 916calAD (1.9%) 967calAD - 1029calAD (93.5%)

* Warning! Date probably out of range（この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。）



2016本文１-第648集.indd　55　　16.1.21　1:18:18 PM

Ⅶ　総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになったこと、周辺遺跡の調査成果などを合わせて現段階で類推される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

伽羅之御所跡第 22 次調査

・今回検出された堀跡は１次調査で見つかった堀跡と同一の遺構であり、直線的に繋がるようである。これまでに伽羅之御所跡で確認されている土塁、道路跡、そして堀跡を地形図に入れ、未調査部分を推定してみると次ページ下図のようになる。

・柵列の多くが堀跡とは時期が異なると考えている。その多くは堀跡よりも古い段階のものであろう。

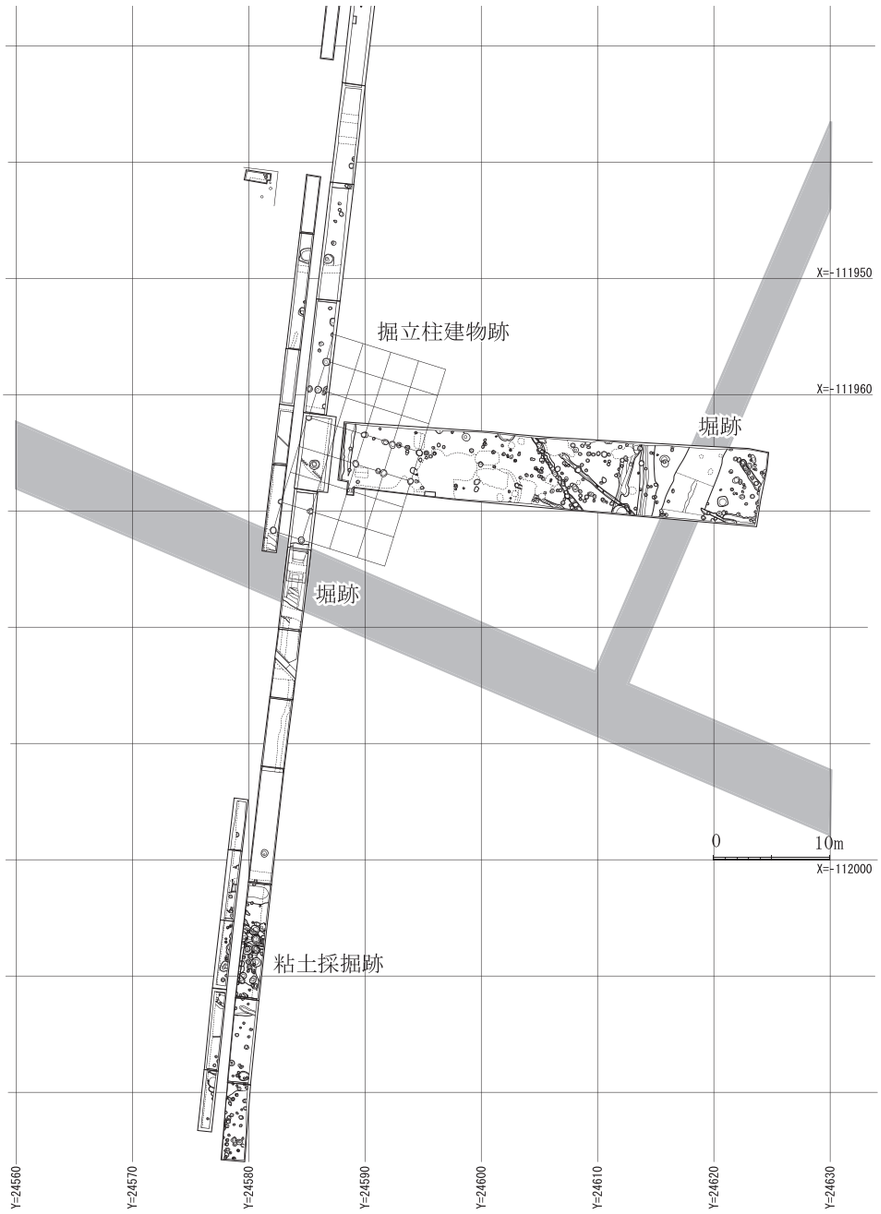
・掘立柱建物跡の西側については次年度に調査が予定されており、その成果も含めて規模、形状、時期、堀跡との関係等を明らかにしたい。

・堀西側では道路側溝があるのではないかと考えていたが検出されなかった。

伽羅之御所跡第 23 次調査

・鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」によると無量光院東門付近に三代秀衡の常居所「伽羅御所」があり、四代泰衡が引き継いだとされている。しかし伽羅御所内部の具体的な状況についての記載は無く、どのような構造なのかは明らかではない。

・調査区は遺跡として登録されている無量光院跡と同じく遺跡登録上の伽羅之御所跡とが隣接する場所にあ



第38図　推定される堀跡の方向

2016本文１-第648集.indd　56　　16.1.21　1:18:18 PM

たる。

・今回検出された堀跡は西北西 - 東南東方向に延びており、１・23 次調査で見つかった堀跡と直角に繋がるようである（１次調査の報告書では大溝跡と記載されているもの）。

・無量光院南辺と伽羅御所跡南辺はこの１本の堀跡が使われていた可能性が高まった。

・当事業に伴う発掘調査で得られた成果からこれまで不明瞭であった伽羅之御所跡と無量光院跡の範囲は第 39 図のようになると推定した。

・掘立柱建物跡は堀が掘られる前段階の施設である可能性が高い。本遺跡ではこれまでにも 12 世紀後半より古い遺構が幾つか確認されており、伽羅御所造営以前から利用されていた場所であった。

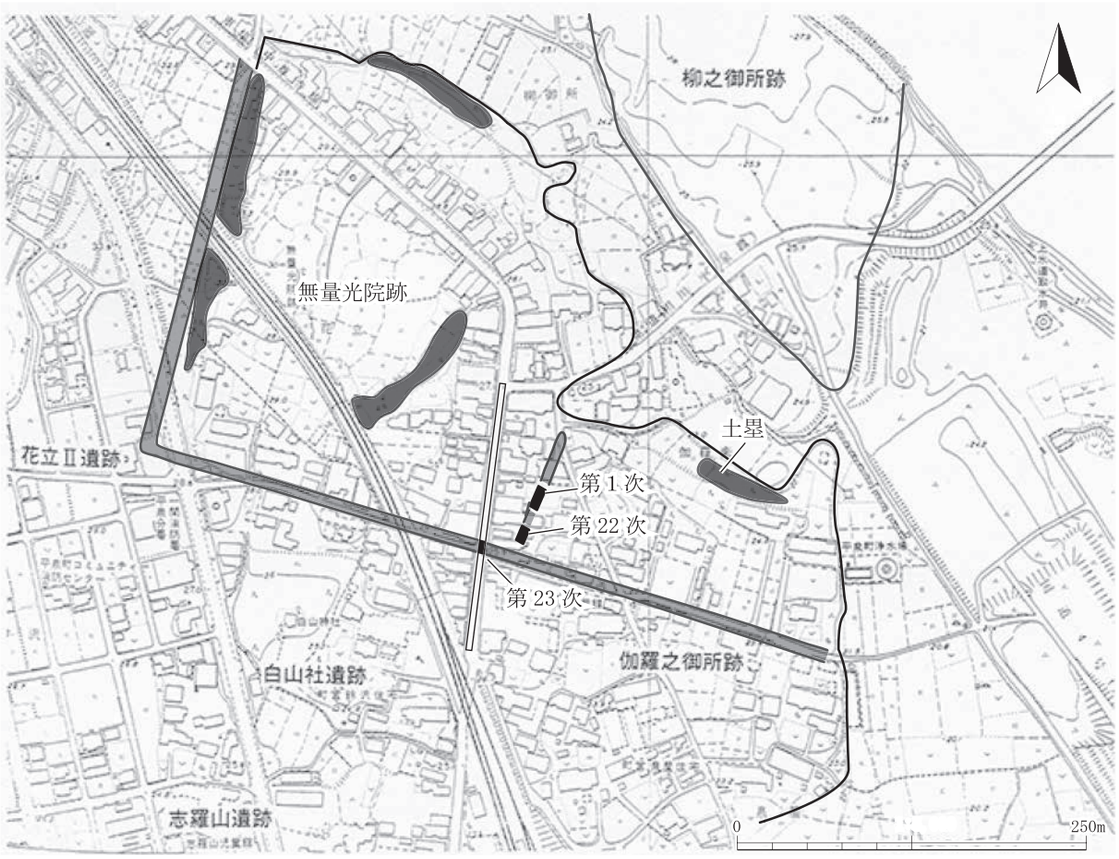
・この地では、12 世紀の道路跡も想定されていた。道路側溝や石敷路盤は検出されなかったが堀南側には不自然に遺構のない所があった。

・堀の南側からも遺構・遺物が見つかり、堀の北側よりも多く分布しているところもある。

伽羅之御所跡現況の補足

・本遺跡は北が柳之御所遺跡（猫間が淵）、西が無量光院跡、南は鈴沢の池跡に囲まれている。東側は北上川集積地に面しているため、本遺跡の東端部は段丘崖のようになっている。遺跡範囲内の多くは住宅になっており残りは耕作地である。

・遺跡北東端部には北側の猫間が淵へ向かい小岬状の張り出した地形が残っている。この張り出した地形のその先からは柳之御所遺跡内部へと通じる堀跡に架かる橋跡が見つかり、更にその先の柳之御所遺跡内部に入ったところでは南北に延びる道路側溝も見つかっている。



第39図　伽羅御所跡と無量光院跡

2016本文１-第648集.indd 57　16.1.21 1:18:27 PM

・前述した張り出し地形のすぐ西側には土塁が残っている。土塁は猫間が淵南岸に沿うように 15 m 程残っているが、嘗ては「伽羅御所」北辺全てに構築されていたと推測される。
・遺跡北側には県道平泉東山線がある。この県道部の地形は猫間が淵に向かって西から東へと低くなっており、小規模な沢が入っていた可能性がある。この低くなる地形をもって「伽羅御所」北辺とするのが最良と考える。
「伽羅御所跡」の範囲について
22 次調査では「伽羅御所」東辺にあたる堀跡が、23 次調査では南辺にあたる堀跡が検出されている。東辺は段丘崖、北辺は土塁と県道部の沢地形から見当がついた。これらのことから「伽羅御所」の範囲は第 39・40 図のようになると想定される。これにより、22 次調査区の一部と 23 次調査区の北半部は「無量光院」であった可能性が高まった。また 23 次調査区南半部も「伽羅御所」の外側にあたることが分かる。

第40図　平泉地形図（一部古地形を復元）

2016本文１-第648集.indd 58　16.1.21 1:18:28 PM

写真図版

写真図版１　平泉（写真上が北）

2016写真図版p59-第648集.indd 59 16.1.21 1:21:47 PM

平泉と衣川（北から）

22次調査区（西から）

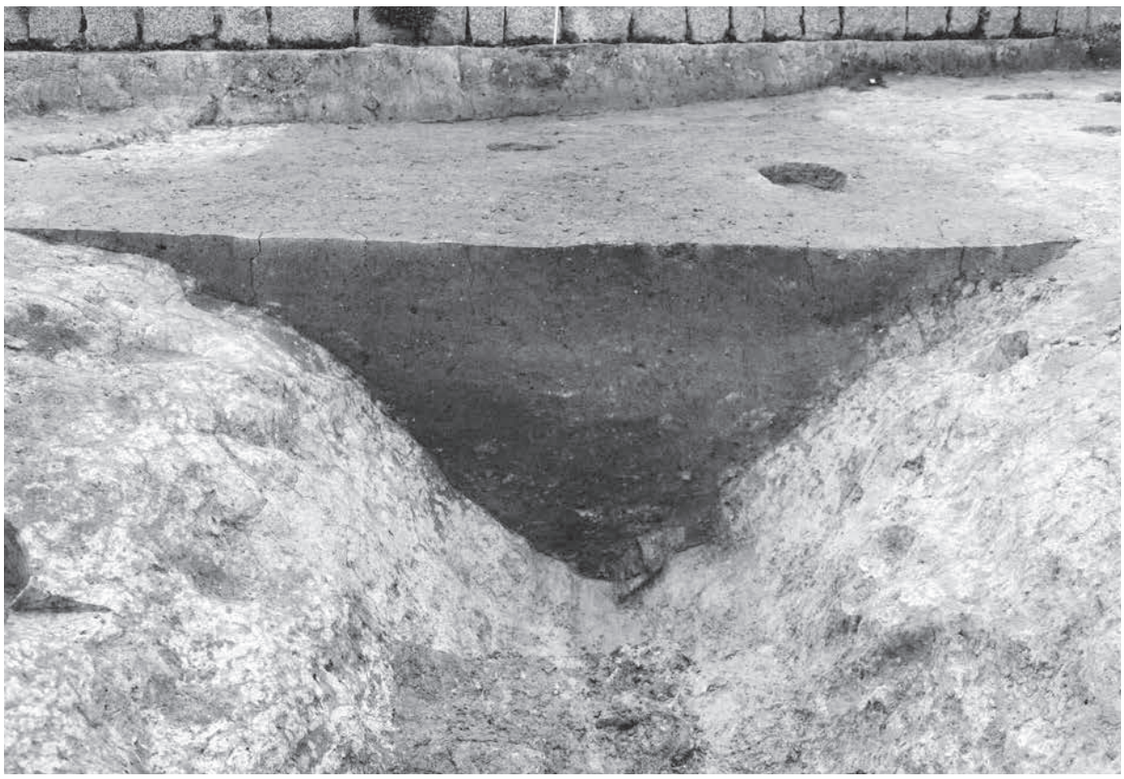
伽羅之御所跡近景　電柱の右に土塁

伽羅之御所跡近景　杉木立の下に土塁

写真図版２　平泉遠景、遺跡近景

2016写真図版p59-第648集.indd 60　16.1.21 1:21:50 PM

１号堀跡検出（西から）



１号堀跡断面（南から）

写真図版３　１号堀跡検出・断面

2016写真図版p59-第648集.indd 61 16.1.21 1:21:54 PM

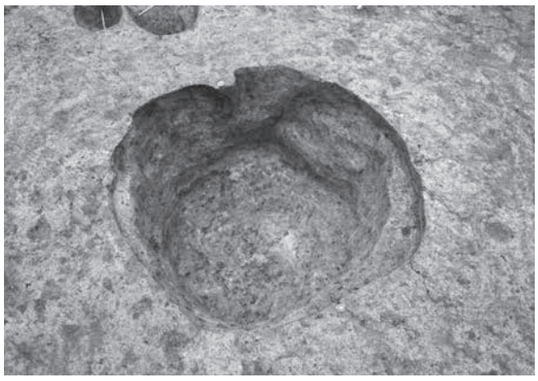
1 号堀跡平面（南から）

上：1 号堀跡平面（南から）右：一号堀跡平面（西から）

写真図版４　１号堀跡平面

2016写真図版p59-第648集.indd 62 16.1.21 1:21:56 PM

１号掘立柱建物跡平面（南西から）



１号土坑断面（南西から）

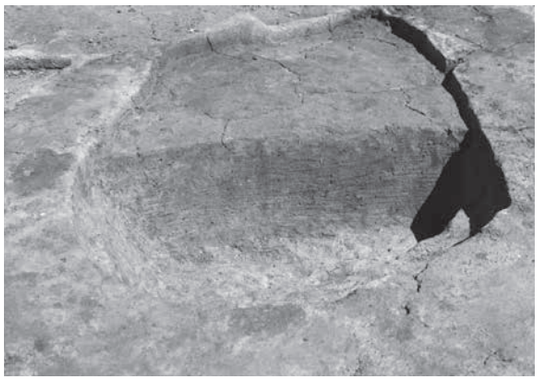
１号土坑断面（西から）

２号土坑平断面（北から）

３号土坑平断面（南から）

写真図版５　掘立柱建物跡、土坑

2016写真図版p59-第648集.indd 63 16.1.21 1:21:59 PM

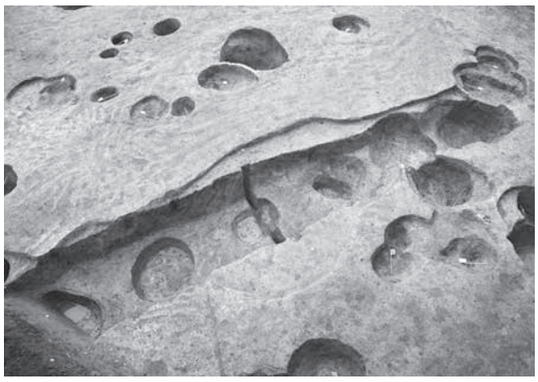


４号土坑断面（西から）

４号土坑平面（南から）

１号柵列跡平面（北から）

１号柵列跡平面（南から）

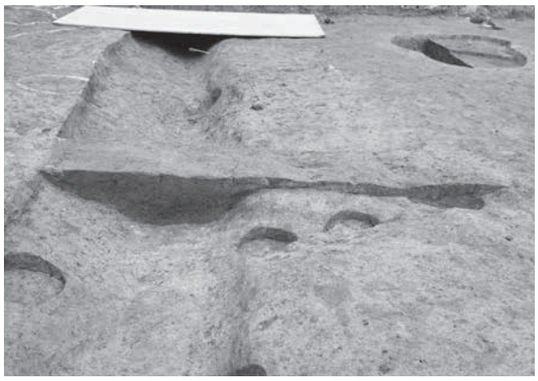


１号柵列跡平面（北東から）

１号柵列跡断面（南東から）

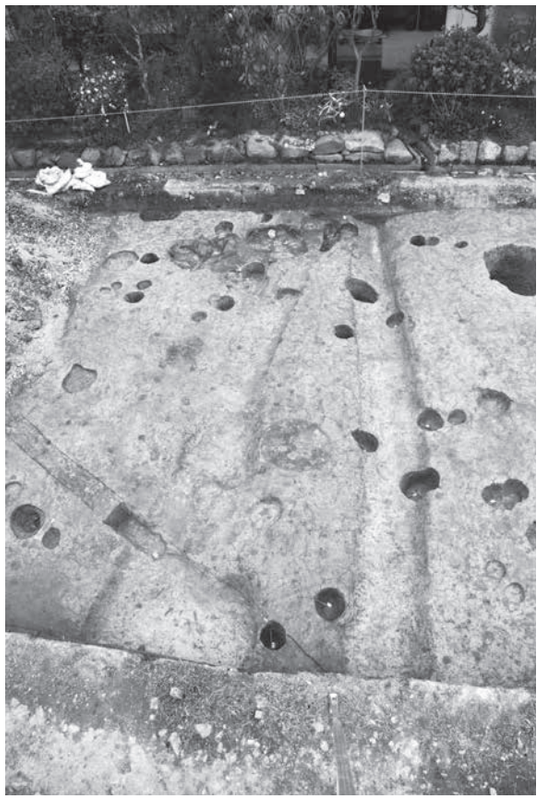
写真図版６　土坑、柵列跡

2016写真図版p59-第648集.indd 64 16.1.21 1:22:01 PM



１号溝跡断面（南から）

３・４号溝跡断面（南から）



１・３・４号溝跡平面（南から）

２号溝跡平面（南から）

２号溝跡断面（西から）

５号溝跡断面（東から）

２号溝跡断面（西から）

写真図版７　溝跡

2016写真図版p59-第648集.indd 65 16.1.21 1:22:08 PM

５号溝跡平面（東から）

６号溝跡断面Ａ－Ａ'（東から）

６号溝跡平面（南東から）

６号溝跡断面Ｂ－Ｂ'（東から）

８号溝跡断面（南東から）

２号柵列断面（南西から）

８号溝跡平面（南から）

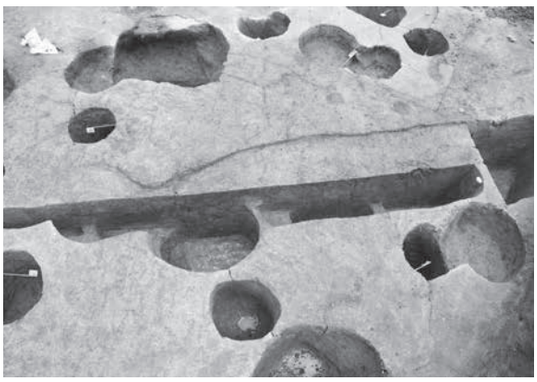
２号柵列断面（南西から）

写真図版８　溝跡、柵列跡

2016写真図版p59-第648集.indd 66 16.1.21 1:22:11 PM

２号柵列平面（南から）

３号柵列断面Ａ－Ａ'（南東から）



３号柵列断面Ｂ－Ｂ'（南から）

上：３号柵列平面（南から）

右：発掘調査状況

写真図版９　柵列跡

2016写真図版p59-第648集.indd 67 16.1.21 1:22:13 PM

上：調査区東側平面（西から）　下：調査区西側平面（東から）

写真図版10　調査区全景

2016写真図版p59-第648集.indd 68　16.1.21 1:22:15 PM

1 号堀跡出土遺物

1 号堀跡出土遺物

現地公開

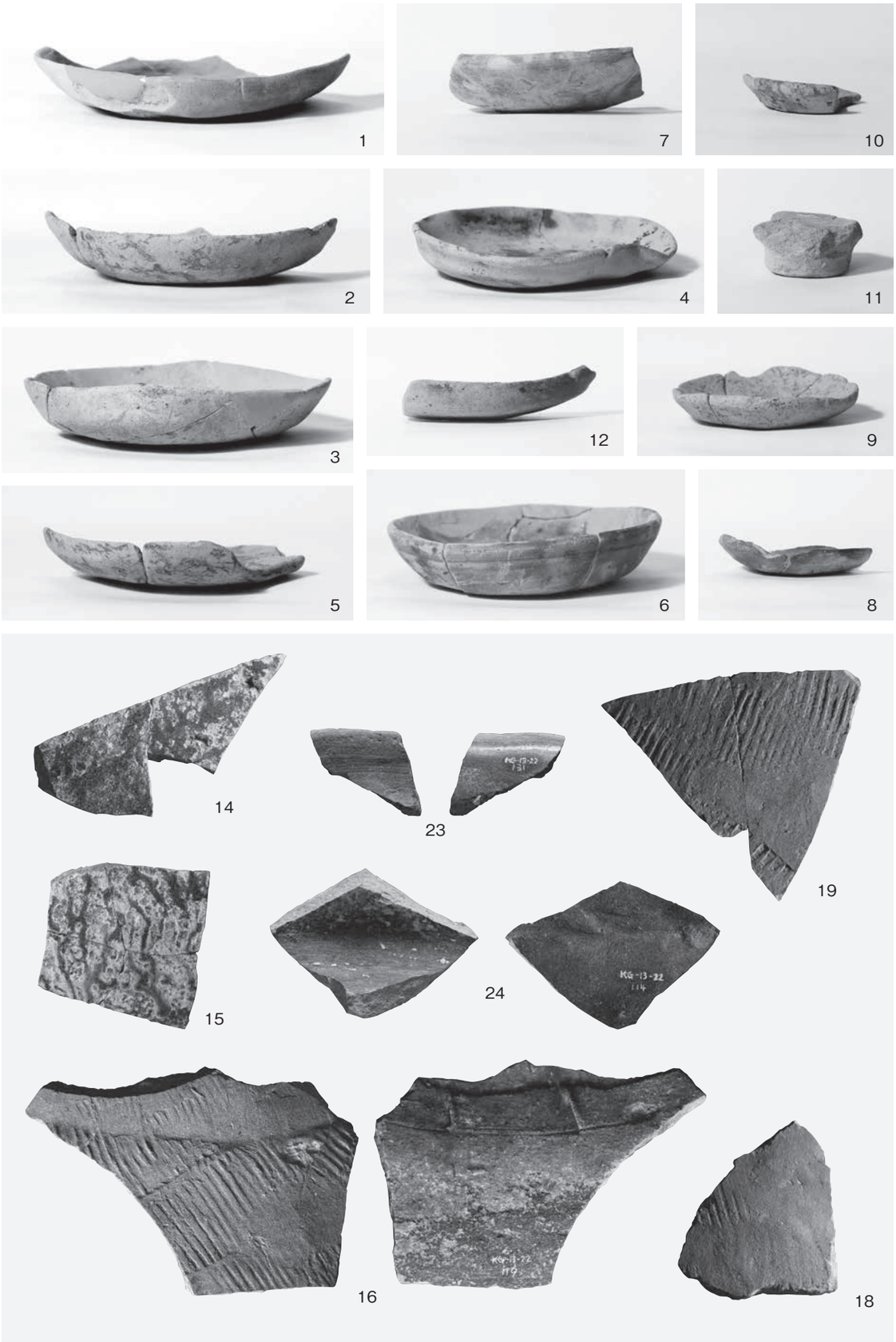
現地公開

砂で保護しつつ堀跡を埋め戻す

1 号堀跡精査状況

写真図版11　出土遺物、現地公開他

2016写真図版p59-第648集.indd 69 16.1.21 1:22:17 PM

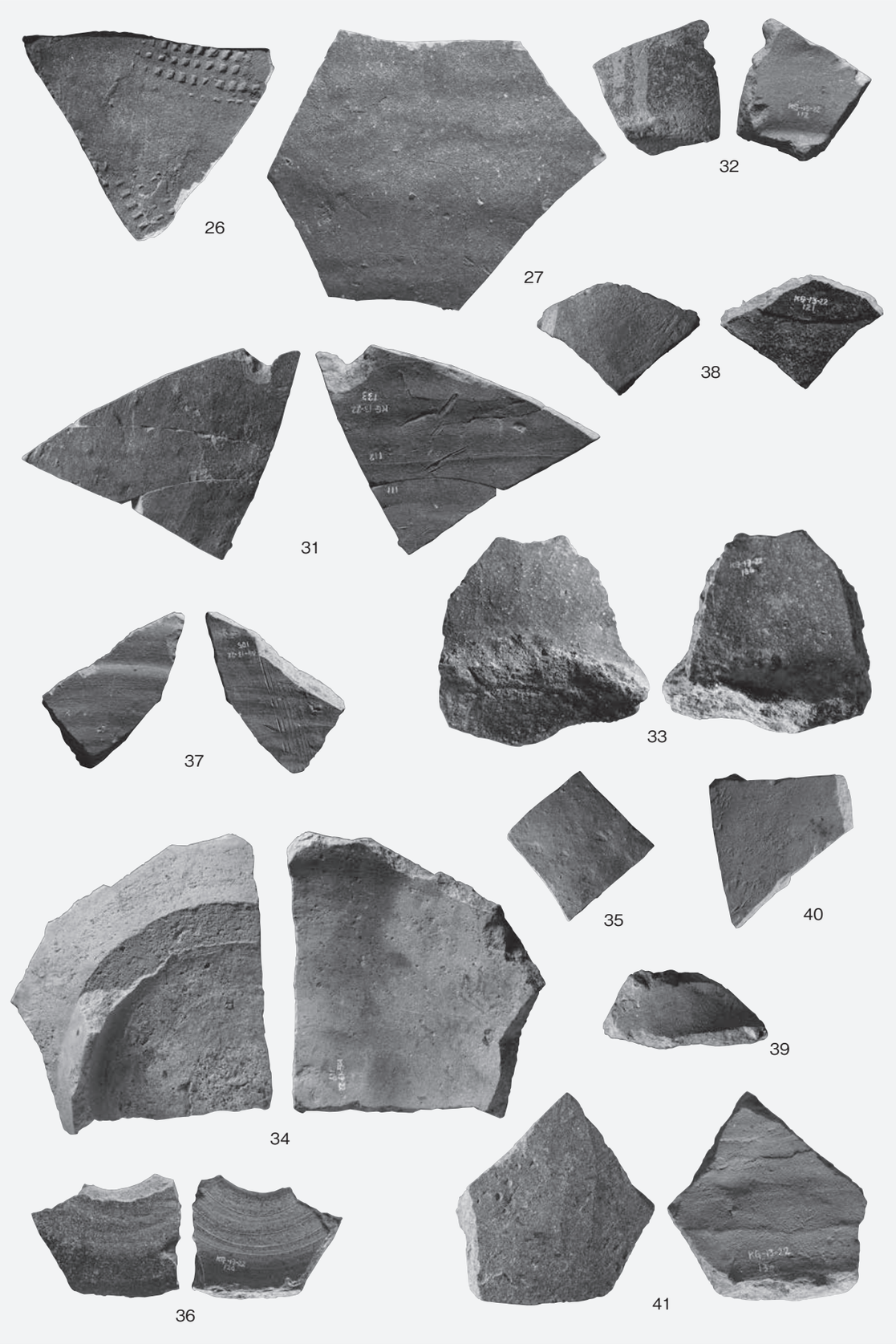


写真図版12　出土遺物１

2016写真図版p59-第648集.indd 70 16.1.21 1:22:19 PM

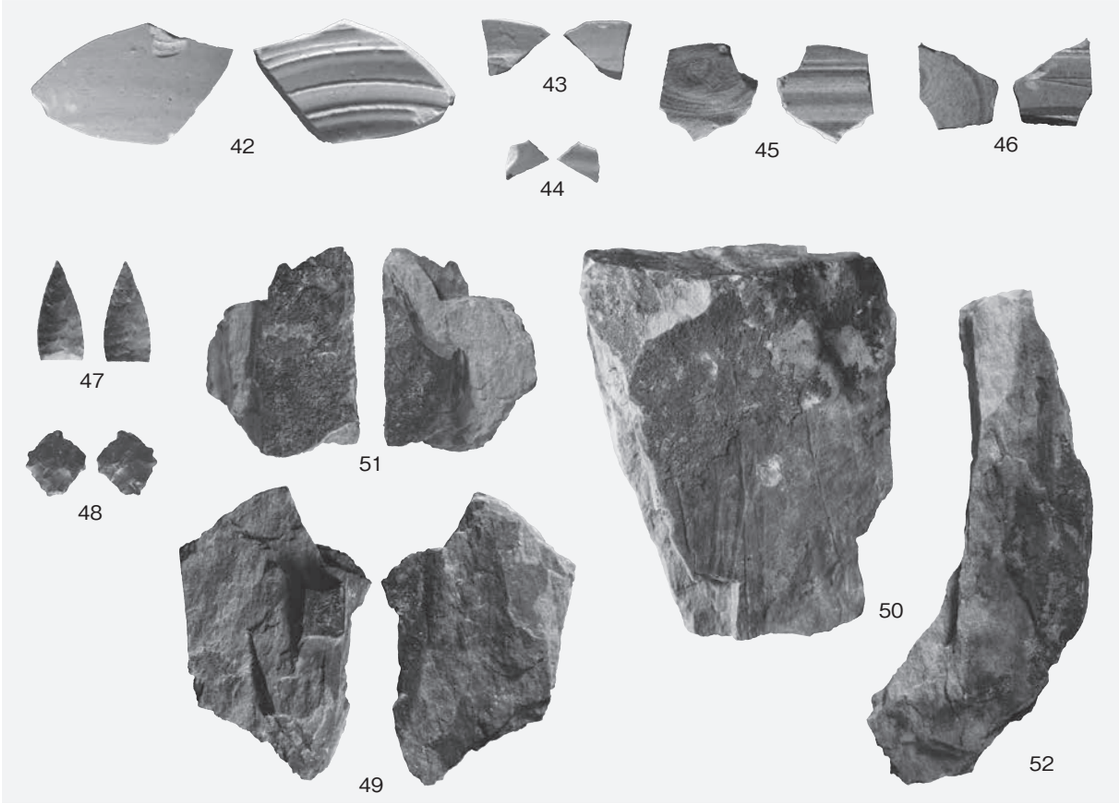
写真図版13　出土遺物２

2016写真図版p59-第648集.indd 71 16.1.21 1:22:28 PM



写真図版14　出土遺物３

2016写真図版p59-第648集.indd 72 16.1.21 1:22:30 PM



23次調査区を北端から

23次調査区の中央部（南から）

調査区１全景（南から）

写真図版15　出土遺物４、調査区現況ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 73　16.1.21 1:22:31 PM

10・11号溝跡断面（南から）

10・11号溝跡平面（南から）

２号堀検出（東から）

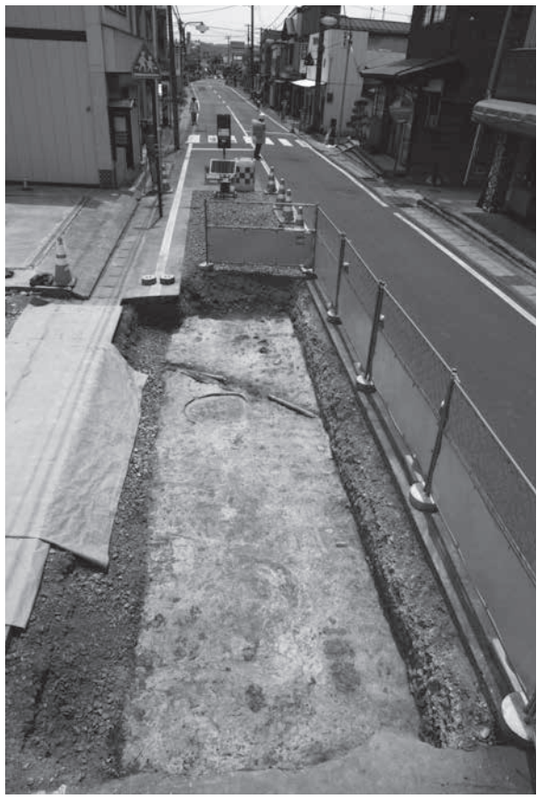
２号堀跡平断面（東から）

写真図版16　調査区１、２号堀跡

2016写真図版p59-第648集.indd 74　16.1.21 1:22:34 PM

２号堀跡平面（北から）

２号堀跡検出（北から）



調査区２全景（北から）

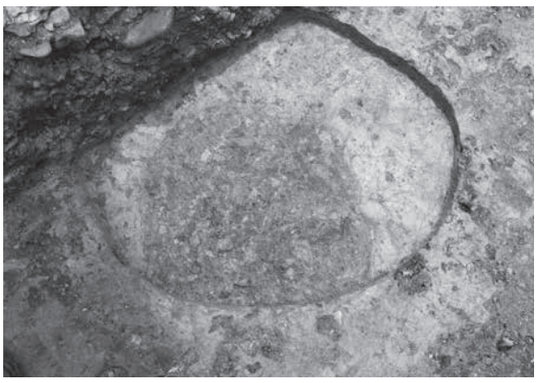
写真図版17　２号堀跡、調査区２

2016写真図版p59-第648集.indd 75 16.1.21 1:22:36 PM

P249平面（北から）

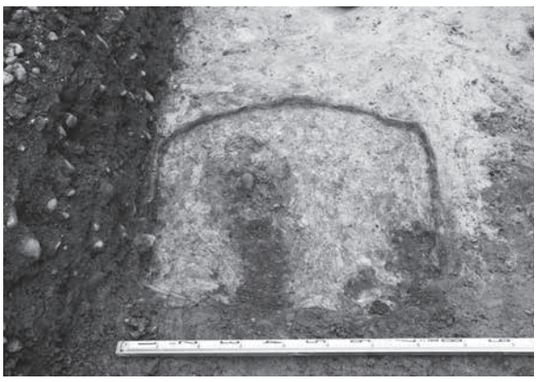
１号溝跡平面（南から）

１号溝跡断面（南から）



P254平面（北西から）

調査区３全景（北から）



P260平面（南から）

P260断面（南から）

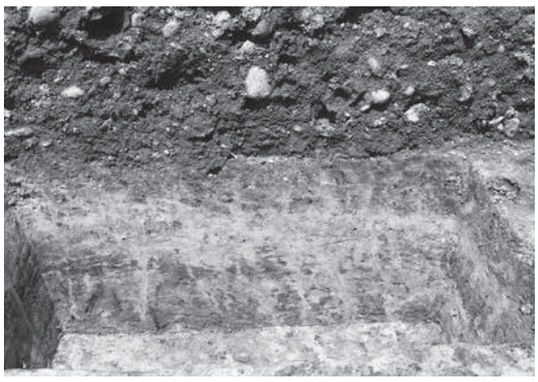
写真図版18　調査区２・３

2016写真図版p59-第648集.indd　76　　16.1.21　1:22:38 PM

調査区４全景（北東から）

調査区６全景（北から）

調査区５全景（北東から）



調査区７　基本層序（東から）

調査区８全景（北から）

調査区７全景（南から）

写真図版19　調査区４～８

2016写真図版p59-第648集.indd 77　16.1.21 1:22:39 PM

12号溝跡平面（南から）

12号溝跡断面（南西から）

調査区９全景（北から）

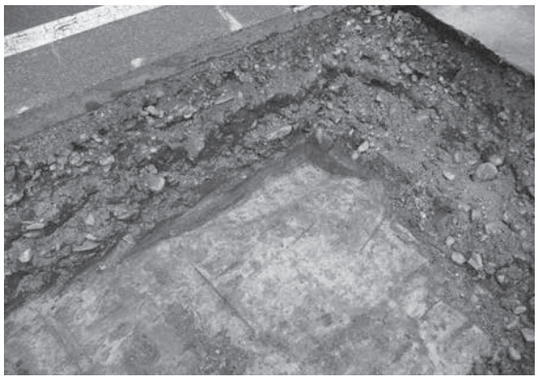
調査区10全景（南から）

１号井戸跡平面（北東から）

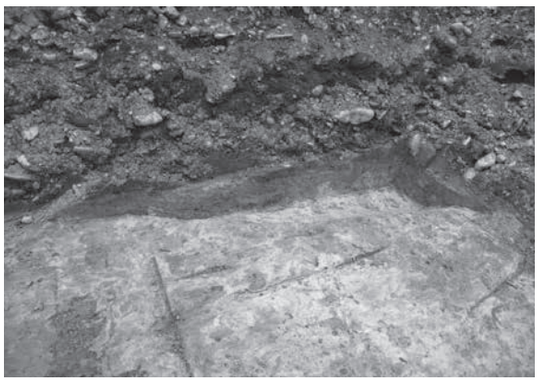
１号井戸跡断面（東から）

写真図版20　調査区９・10ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 78 16.1.21 1:22:41 PM



６号土坑平面（南東から）



６号土坑断面（南東から）

調査区11全景（南から）

調査区12全景（北から）

調査区 13 全景（北から）

７号土坑平面（北西から）

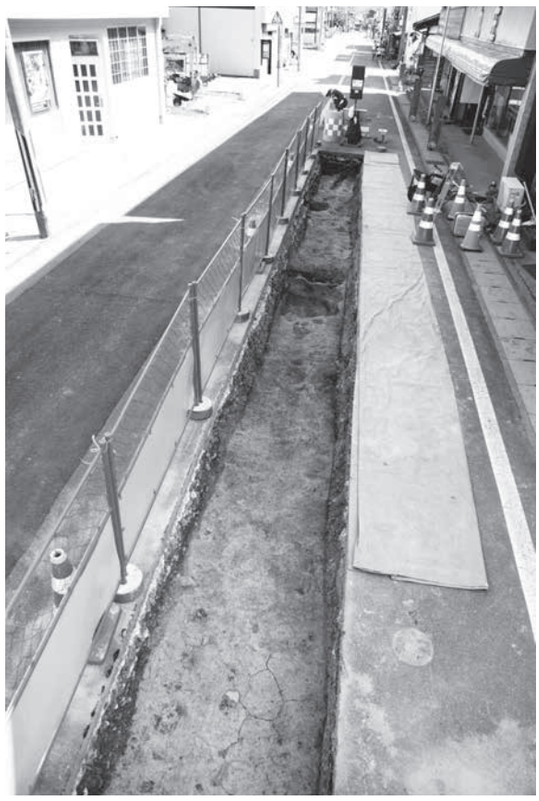
写真図版21　調査区11～13ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 79 16.1.21 1:22:42 PM

調査区14全景（北から）

調査区 17 全景（北から）

７号土坑断面（西から）



調査区 15 全景（北から）

調査区 16 全景（北から）

写真図版22　調査区14～17

2016写真図版p59-第648集.indd 80 16.1.21 1:22:44 PM

調査区18　２号堀跡平面（南西から）

調査区18　２号堀跡検出（北西から）

調査区18　２号堀跡断面（東から）

調査区18　２号堀跡平面（南西から）

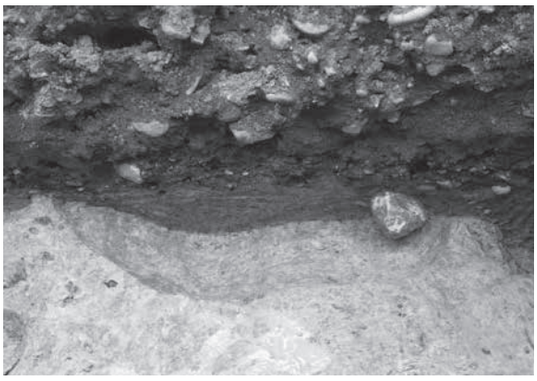
写真図版23　調査区18　２号堀跡

2016写真図版p59-第648集.indd　81　　16.1.21　1:22:46 PM

調査区19全景（南から）

調査区20全景（南から）

８号土坑平断面（西から）



10号土坑断面（西から）

９号土坑平断面（西から）

10号土坑平面（北西から）

写真図版24　調査区19・20ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 82 16.1.21 1:22:48 PM

P301、11号土坑断面（西から）

P301、10・11号土坑断面（北西から）

14号溝跡断面（西から）

14号溝跡平面（北西から）

調査区21全景（南から）

SX01断面（西から）

SX01平面（北西から）

写真図版25　調査区21・22ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 83　16.1.21 1:22:50 PM

調査区 22 全景（南から）

12～15号土坑断面（西から）

調査区 23 全景（南から）

12～15号土坑平面（南西から）

12 号土坑出土遺物（南西から）

15 号溝跡断面（東から）

調査区24全景（南東から）

写真図版26　調査区22～24ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 84 16.1.21 1:22:52 PM

上：２号堀跡断面（東から）　下：２号堀跡平面（北から）

写真図版27　調査区24、２号堀跡

2016写真図版p59-第648集.indd 85　16.1.21 1:22:54 PM

調査区 24、２号堀跡ほか全景（南東から）

２号堀跡平面（東から）

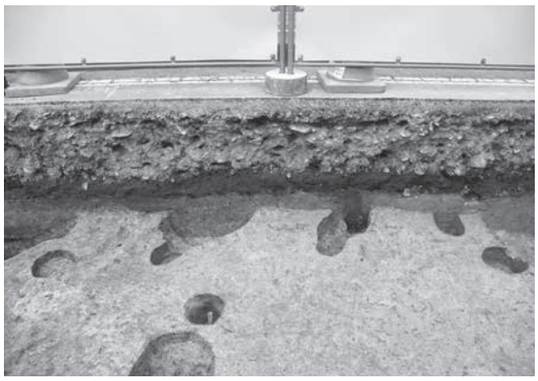
調査区25全景（南から）

写真図版28　調査区24・25

2016写真図版p59-第648集.indd 86　16.1.21 1:22:56 PM

粘土採掘跡断面南端部（南から）

粘土採掘跡断面南－中央部（南から）



粘土採掘跡断面中央－北部（南から）

粘土採掘跡断面北端部（南から）

調査区 26　粘土採掘跡検出（南から）

16号土坑断面（東から）

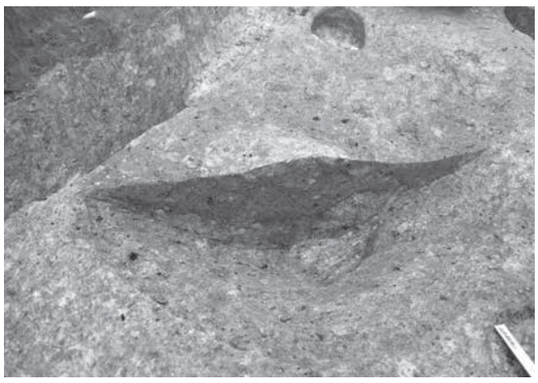
16号土坑平面（北東から）

写真図版29　調査区25・26、粘土採掘跡

2016写真図版p59-第648集.indd　87　　16.1.21　1:22:58 PM

17号土坑断面（南から）

17号土坑平面（北から）

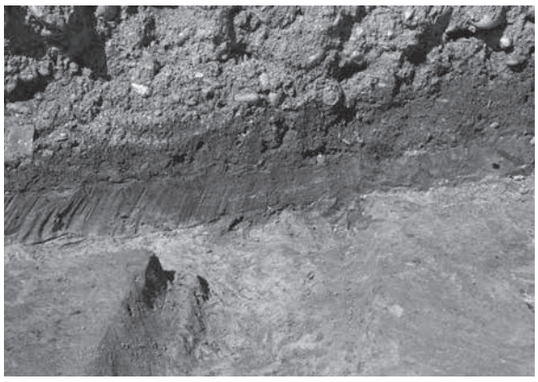


18号土坑断面（南東から）

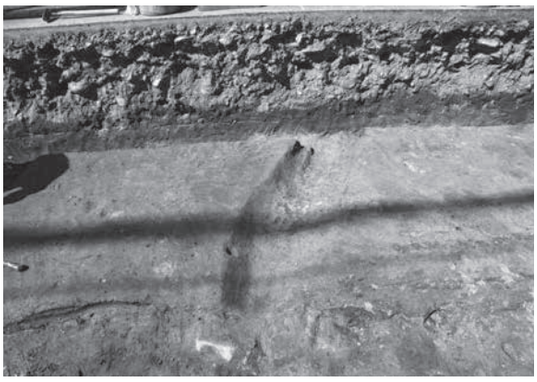
18号土坑平面（東から）

19号土坑断面（南から）

20号土坑平面（南東から）



16号溝跡断面（南東から）



16号溝跡平面（東から）

写真図版30　調査区26、土坑類ほか

2016写真図版p59-第648集.indd 88　16.1.21 1:23:00 PM

調査区26、粘土採掘跡平面（北東から）

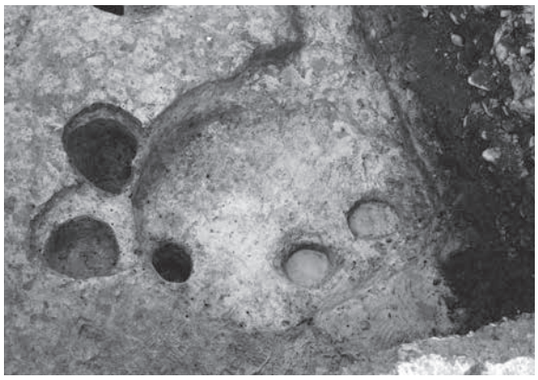
調査区26全景（南から）

49号土坑、整地層平面（東から）

49号土坑、整地層断面（東から）

写真図版31　調査区26、粘土採掘跡

2016写真図版p59-第648集.indd 89 16.1.21 1:23:02 PM



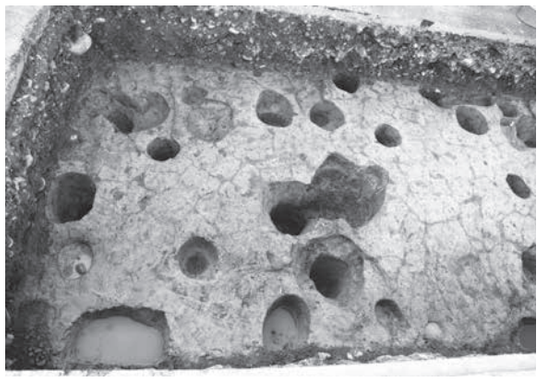
50号土坑平面（南から）

50号土坑断面（西から）

調査区27全景（南から）

調査区 28 全景（南から）

調査区28整地層平断面（東から）



調査区28南半部（東から）

写真図版32　調査区27・28

2016写真図版p59-第648集.indd 90 16.1.21 1:23:04 PM

調査区29全景（南から）

調査区31全景（北から）

調査区 30 全景（南から）

調査区30全景（東から）

調査区30全景（北から）

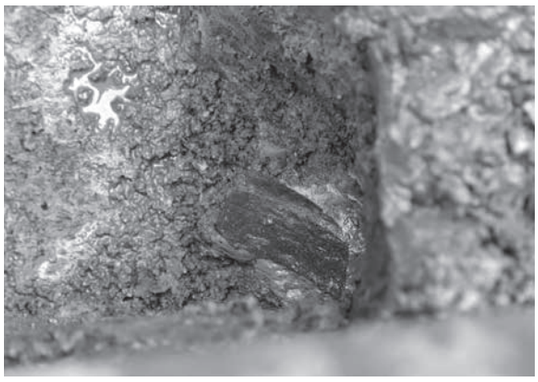
写真図版33　調査区29～31

2016写真図版p59-第648集.indd 91 16.1.21 1:23:06 PM

18号溝跡平面（西から）

51 ～ 53 号土坑断面（南から）

51 ～ 53 号土坑断面（南西から）



２号堀跡　出土遺物

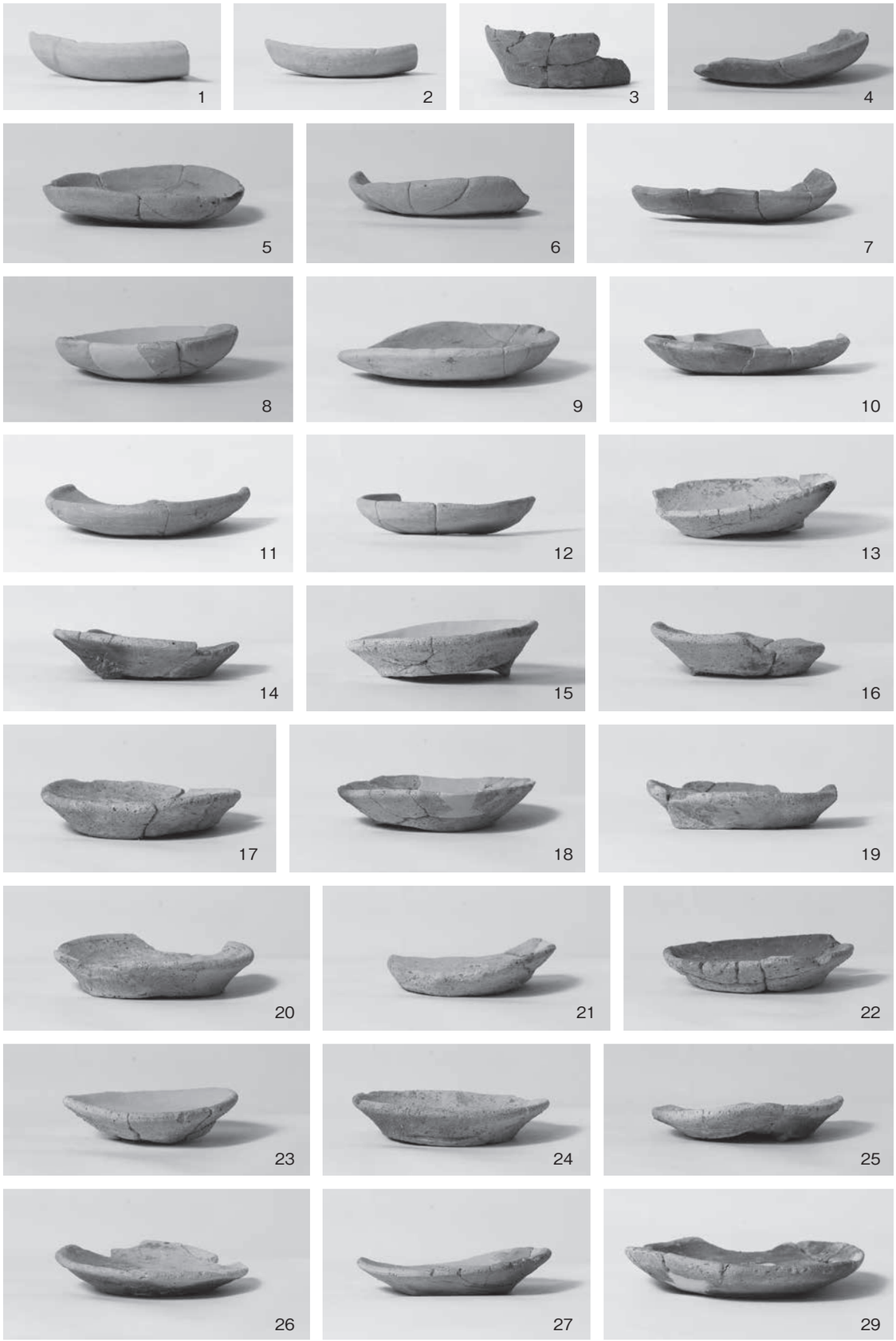
右：調査区32全景、51～53号土坑平面（東から）

調査区 33 全景（南東から）

11 号土坑　出土遺物２

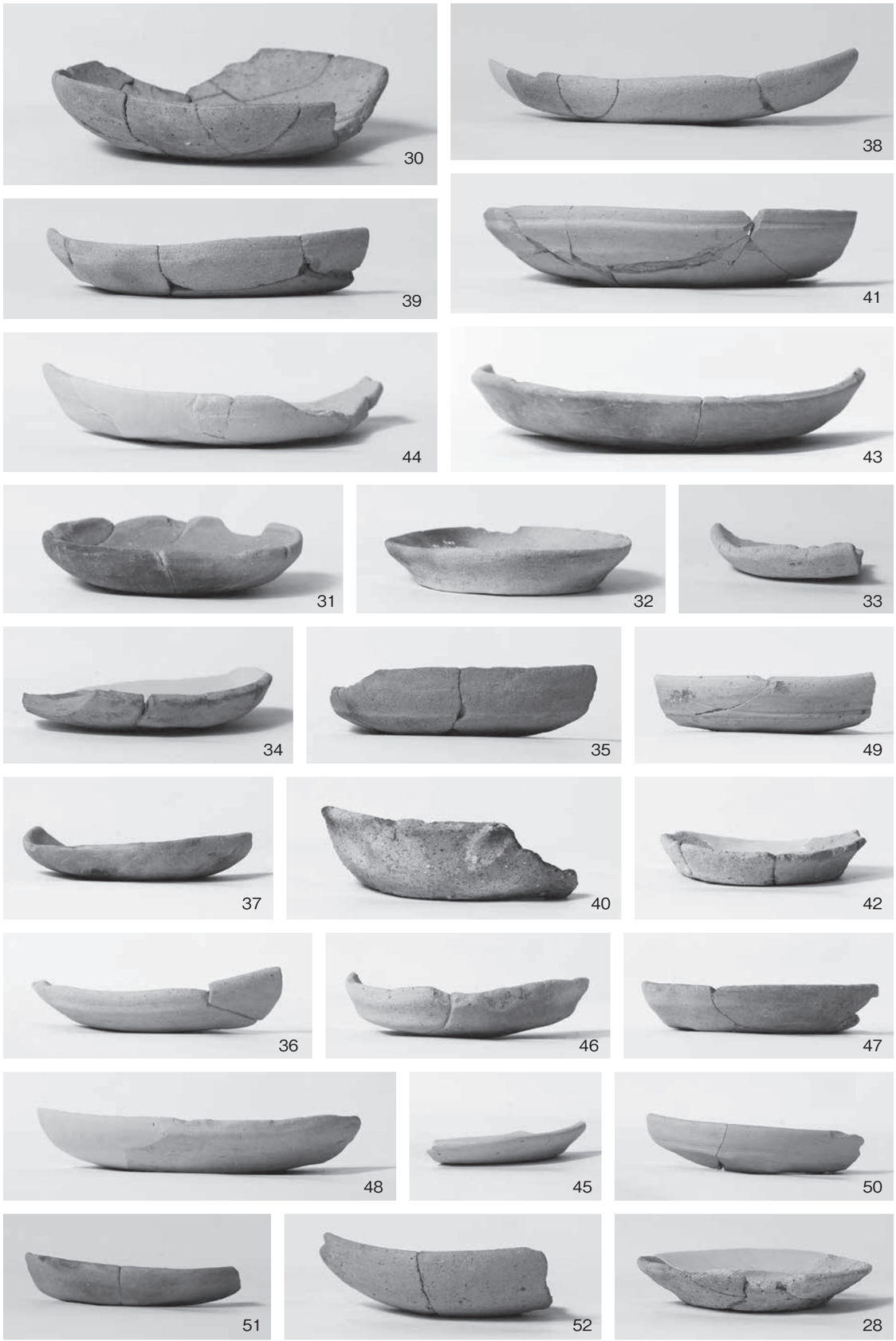
写真図版34　調査区32・33

2016写真図版p59-第648集.indd 92　16.1.21 1:23:08 PM



写真図版35　出土遺物①

2016写真図版p59-第648集.indd　93　　16.1.21　1:23:10 PM

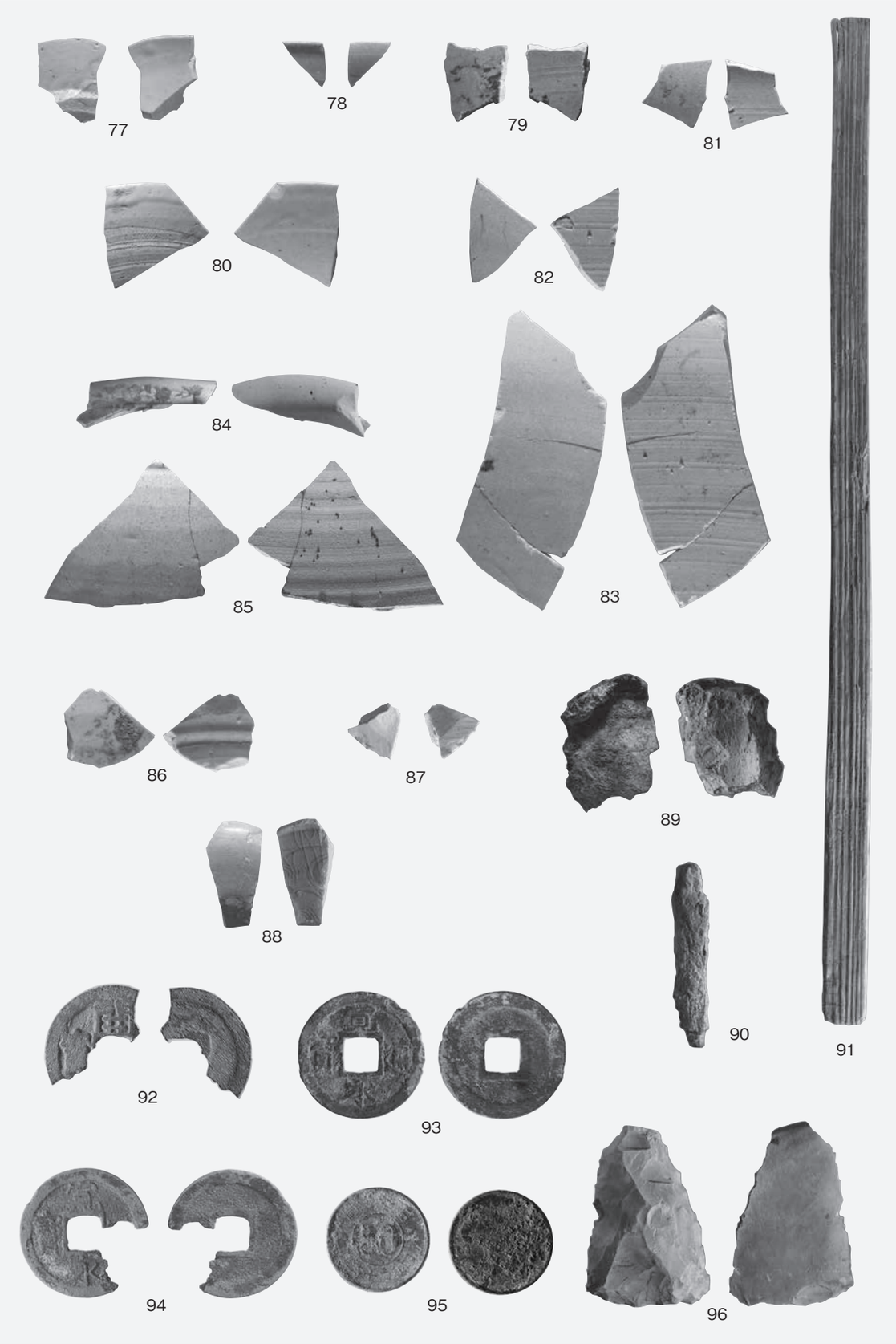


写真図版36　出土遺物②

2016写真図版p59-第648集.indd 94　16.1.21 1:23:19 PM

写真図版37　出土遺物③

2016写真図版p59-第648集.indd　95　　16.1.21　1:23:29 PM



写真図版38　出土遺物④

2016写真図版p59-第648集.indd 96　16.1.21 1:23:30 PM

報告書抄録

ふりがな	きゃらのごしょあとだいにじゅうに・にじゅうさんじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書
副書名	一般県道平泉停車場中尊寺線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第648集
編著者名	杉沢　昭太郎
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　　TEL(019)638-9001
発行年月日	2016年3月11日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
伽羅之御所跡 第22次調査	岩手県西磐井郡 平泉町平泉字伽 羅楽地内ほか	03382	NE76-1029	38度 59分 30秒	141度 7分 2秒	2013.04.10 ～ 2013.06.05	280㎡	一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業
伽羅之御所跡 第23次調査	岩手県西磐井郡 平泉町平泉字花 立地内ほか	03382	NE76-1029	38度 59分 27秒	141度 7分 1秒	2014.05.16 ～ 2014.10.31	2,240㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伽羅之御所跡 第22次調査	居館 無量光院跡 に隣接	中世初頭	堀跡　1 掘立柱建物跡　1 土坑　4 溝跡・柵列跡　7	陶磁器 かわらけ 木製品 石製品	堀跡は伽羅御所と無量光院とを区画していた可能性が高い。掘立柱建物跡は総柱建物。
伽羅之御所跡 第23次調査	居館 無量光院跡 に隣接	中世初頭	堀跡　1 井戸跡　2 粘土採掘跡　1 溝跡	陶磁器 かわらけ 羽口	堀跡は伽羅御所と無量光院の南辺を区画する可能性が高い。堀跡南側には粘土採掘跡があった。

要約

22・23次で見つかった2条の堀跡によって「伽羅御所」と「無量光院」の境界及び其々の南辺が明らかとなった点が最大の成果である。これにより「伽羅御所」「無量光院」の範囲を明らかにする上で重要な考古学的成果を提示することができた。掘立柱建物跡は南北棟の総柱建物と推定され、無量光院造営以前に格の高い建物が建っている場であったことがわかった。無量光院の「東門」に関連するような道路跡は見つかっていない。

2016写真図版p59-第648集.indd　97　　16.1.21　1:23:32 PM

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第648集

伽羅之御所跡第22・23次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成28年２月22日

発　行　平成28年３月11日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電 話（019）638 － 9001

発　行　岩手県県南広域振興局土木部
〒021－8503　岩手県一関市竹山町７－５
電 話（0191）26 － 1418
（公財）岩手県文化振興事業団
〒021－0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電 話（019）654 － 2235

印　刷　第一印刷有限会社
〒020－0122　岩手県盛岡市みたけ四丁目６－40
電話（019）646－6001

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2016

2016写真図版p59-第648集.indd　98　16.1.21　1:23:32 PM